NEC

WebSAM DeploymentManager Ver6.8

リファレンスガイド
Web コンソール編

—第 1 版—

Rev.001

目次

はじめに 5

対象読者と目的 5
本書の構成 5
DeploymentManagerマニュアルの表記規則 5

1. Webコンソール 6

1.1. Webコンソールの概要 6
1.1.1.DeploymentManagerログイン 9
1.1.2.アカウント 10

2. 管理 12

2.1. 「管理」ビュー 12
2.2. 「ユーザ」アイコン 12
2.3. ユーザ一覧 13
2.3.1.ユーザ追加 14
2.3.2.ユーザ編集 16
2.3.3.ユーザ削除 17
2.4. 「ライセンス」アイコン 17
2.5. 登録ライセンスの詳細情報 18
2.5.1.ライセンスキー追加 19
2.5.2.ライセンスキー削除 20
2.6. 「DPMサーバ」アイコン 20
2.7. 管理サーバの基本情報 21
2.7.1.詳細設定 21
2.7.1.1.「全般」タブ 22
2.7.1.2.「シナリオ」タブ 27
2.7.1.3.「ネットワーク」タブ 29
2.7.1.4.「DHCPサーバ」タブ 31
2.7.2.ガードパラメータ設定 32
2.7.3.パッケージのダウンロード設定 34
2.7.3.1.パッケージWebサーバ追加 37
2.7.3.2.パッケージWebサーバ編集 39
2.7.3.3.パッケージWebサーバ削除 42
2.7.3.4.パッケージWebサーバの基本情報 43
2.7.4.自動更新設定 44

3. 運用 48

3.1. 「運用」ビュー 48
3.2. 「リソース」アイコン 48
3.3. 「マシン」アイコン 49
3.3.1.マシングループ追加 50
3.3.2.マシングループ削除 52
3.3.3.マシン情報インポート 54
3.3.4.マシン情報エクスポート 58
3.4. 「グループ」アイコン 58
3.5. マシングループ詳細 59
3.5.1.マシングループ編集 62
3.5.2.マシングループ削除 66
3.5.3.サブマシングループ追加 66
3.5.4.サブマシングループ削除 69
3.5.5.管理対象マシンの登録 70
3.5.6.マシン移動 78
3.5.7.マシン削除 79
3.5.8.ネットワーク一括設定 80

3.5.9.自動更新時間一括設定 82
3.5.10.自動更新通知一括発行 85
3.6. グループへのメニュー操作 86
3.6.1.グループ一括操作 86
3.7. 管理対象マシン詳細 89
3.7.1.マシンのステータス 92
3.7.1.1.HotFix/アプリケーション一覧 95
3.7.1.2.パッケージ適用状況(パッケージ一覧) 96
3.7.1.3.ディスク情報 98
3.7.2.管理対象マシン編集 101
3.7.3.マシン移動 109
3.7.4.マシン削除 109
3.8. マシンへのメニュー操作 109
3.8.1.電源ON 109
3.8.2.シャットダウン 110
3.8.3.シナリオ割り当て 111
3.8.4.シナリオ割り当て解除 114
3.8.5.電源管理スケジュール 115
3.8.6.シナリオ実行 118
3.8.7.シナリオ実行中断 121
3.8.8.エラー解除 122
3.8.9.中断解除 122
3.8.10.ファイル/フォルダ詳細 123
3.8.11.ファイル配信 125
3.8.12.ファイル実行 130
3.8.13.ファイル削除 132
3.8.14.自動更新通知発行 133
3.9. 「新規マシン」アイコン 134
3.9.1.新規マシンの基本情報 135
3.9.2.新規マシン登録 136
3.9.3.新規マシン削除 144
3.10. 「シナリオ」アイコン 145
3.10.1.シナリオグループ追加 146
3.10.2.シナリオグループ削除 147
3.11. 「シナリオグループ」アイコン 148
3.11.1.「Built-in Scenarios」シナリオグループ 148
3.11.1.1.System_AgentUpgrade_Multicast/System_LinuxAgentUpgrade_Multicast 149
3.11.1.2.System_Backup 150
3.11.1.3.System_DiskProbe 151
3.11.1.4.System_LinuxChgHostName/System_WindowsChgHostName 152
3.11.1.5.System_LinuxChgIP/System_WindowsChgIP 153
3.11.1.6.System_LinuxChgPassword/System_WindowsChgPassword 155
3.11.1.7.System_Restore_Unicast 156
3.11.1.8.System_LinuxMasterSetup/System_WindowsMasterSetup/System_WindowsMasterSetupVM 157
3.11.1.9.System_GetHardwareInfo 157
3.11.1.10.System_LinuxChgBootOrder/System_WindowsChgBootOrder 158
3.12. シナリオグループ詳細 159
3.12.1.シナリオグループ編集 161
3.12.2.シナリオグループ削除 161
3.12.3.サブシナリオグループ追加 162
3.12.4.サブシナリオグループ削除 163
3.12.5.シナリオ追加 164
3.12.6.シナリオ移動 164
3.12.7.シナリオコピー 166
3.12.8.シナリオ削除 168
3.12.9.シナリオ割り当て 168
3.13. シナリオ追加 170
3.13.1.「HW設定」タブ 171
3.13.2.「OS」タブ 172
3.13.3.「パッケージ」タブ 174
3.13.4.「バックアップ/リストア」タブ 179
3.13.5.「オプション」タブ 198

3.14. シナリオへのメニュー操作 199
3.14.1.シナリオ編集 199
3.14.2.シナリオコピー 200
3.14.3.シナリオ移動 200
3.14.4.シナリオ削除 201
3.14.5.シナリオ割り当て 201
3.15. シナリオの詳細情報 201
3.16. 「イメージ」アイコン 204
3.17. イメージの詳細情報 204
3.17.1.パッケージイメージの詳細情報 206
3.17.2.パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧) 207
3.17.3.バックアップイメージの詳細情報 209

4. 監視 211

4.1. 「監視」ビュー 211
4.2. 「シナリオ実行一覧」アイコン 211
4.3. シナリオ実行一覧 211
4.3.1.ステータスの一括クリア 213
4.3.2.バックアップ/リストア実行一覧 214
4.3.3.今すぐ実行 217
4.3.4.シナリオ中断 218
4.4. 「シナリオ実行結果一覧」アイコン 218
4.5. シナリオ実行結果一覧の詳細 218
4.5.1.CSV形式で保存 220
4.5.2.ログの削除 220
4.6. 「自動更新結果一覧」アイコン 221
4.7. 自動更新結果一覧の詳細 221
4.7.1.自動更新結果の詳細表示 222
4.7.2.最大ログ数設定 223
4.7.3.CSV形式で保存 224
4.7.4.ログの削除 224
4.8. 「ファイル配信/実行結果一覧」アイコン 225
4.9. ファイル配信/実行結果一覧の詳細 225
4.9.1.CSV形式で保存 227
4.9.2.ファイル配信後実行、ファイル実行の詳細 228

付録 A 改版履歴 229

はじめに

対象読者と目的

「リファレンスガイド Webコンソール編」は、WebSAM DeploymentManager(以下、DPM)の画面操作について説明します。

本書の構成

- 1 「Webコンソール」: DeploymentManagerのWebコンソールの各名称、および概要について説明します。
- 2 「管理」: DeploymentManagerの「管理」ビューで管理しているユーザ/ライセンス/DPMサーバの設定について説明します。
- 3 「運用」: DeploymentManagerの運用について説明します。
- 4 「監視」: DeploymentManagerの管理対象マシンの状態やログの参照について説明します。

付録

- 付録 A「改版履歴」

DeploymentManager マニュアルの表記規則

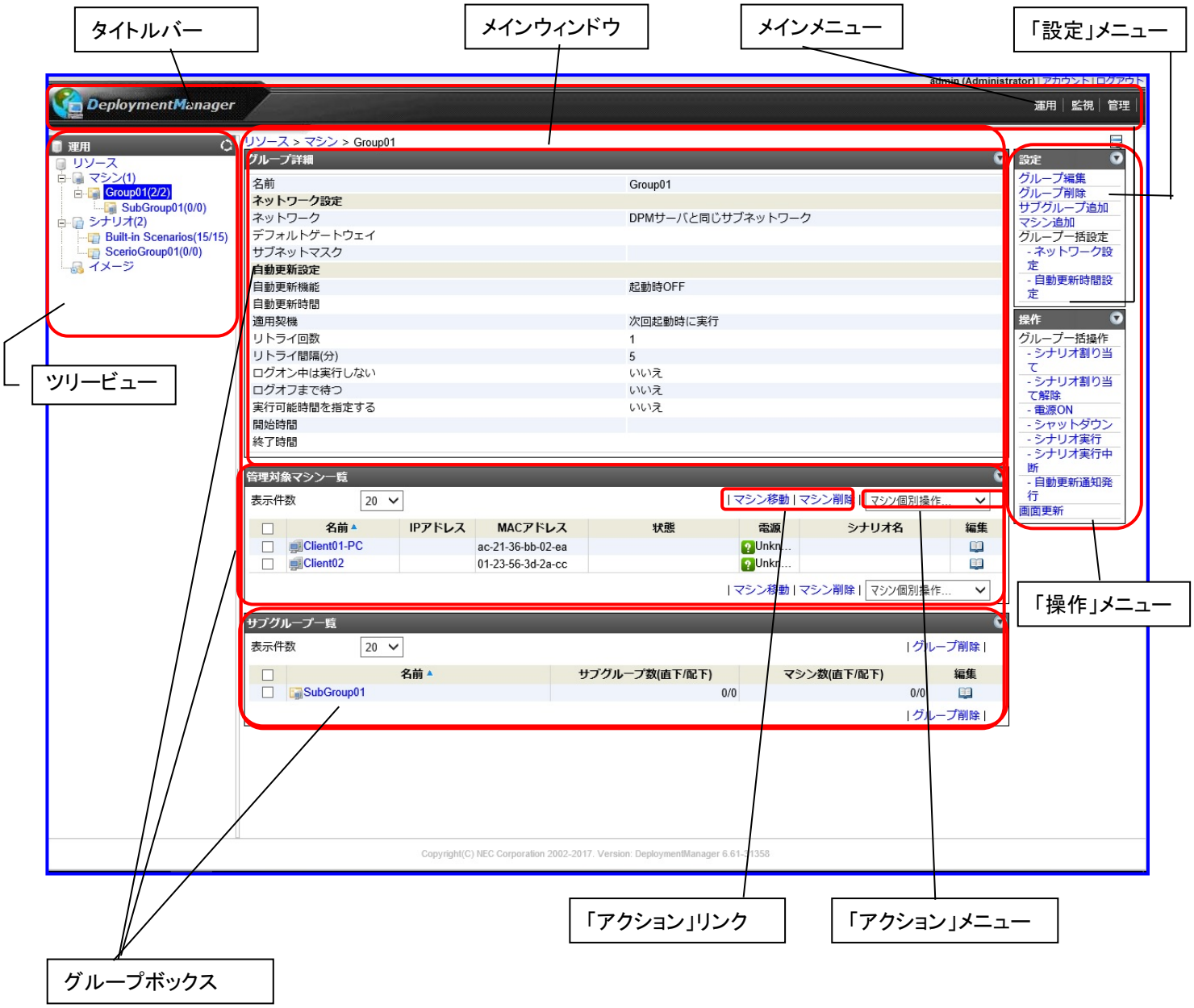
「ファーストステップガイド DeploymentManagerマニュアルの表記規則」を参照してください。

1.　Web コンソール

本章では、DPM の Web コンソールの各名称、および概要について説明します。

1.1.　Web コンソールの概要

Webコンソールを使用して、マシンの操作やグループ管理などさまざまな操作を行うことができます。
Webコンソールは、以下の九つのパーツから構成されています。



(1) タイトルバー

Web コンソール上部には常にタイトルバーが表示されます。
タイトルバーは、アカウント管理機能、メインメニューから構成されます。

アカウント管理機能

ログインユーザに対する設定、および管理を行うことができます。

項目	説明
ユーザ名(権限)	ログインしているユーザ名と権限を表示します。
アカウント	ログインしているユーザのパスワード変更や、お知らせダイアログ表示、およびグループボックスの表示件数を設定します。 詳細は、「1.1.2 アカウント」を参照してください。
ログアウト	DPMからログアウトします。

メインメニュー

各メニューをクリックすることにより、ツリービュー、メインウィンドウに表示される内容を切り替えることができます。

項目	説明
管理	「管理」ビューは、DPMのユーザと権限の管理、ユーザー覧、ライセンス管理、およびDPMサーバの設定など、DPMの初期設定/環境設定を行う場合に使用するビューです。
運用	「運用」ビューは、新規グループ/マシンの追加、シナリオ実行など、通常運用を行う場合に使用するビューです。
監視	「監視」ビューは、シナリオ実行状況、自動更新実行状況、ファイル配信状況、ファイル実行状況、ファイル削除状況など、DPMを使用するにあたって必要な情報の監視を行うビューです。

(2) ツリービュー

メインメニューをクリックすることにより、ツリービューが切り替わります。
ツリービューのアイコンをクリックすると、そのアイコンに関する詳細情報がメインウィンドウに表示され、そのアイコンに対する設定/操作が「設定」メニュー、「操作」メニューに表示されます。

(3) メインウィンドウ

DPM のメインウィンドウです。ツリービューで選択したアイコンに関する詳細情報が表示されます。

グループボックス

グループボックスは、メインウィンドウに表示される詳細情報、各一覧表示ボックスを指します。グループボックス内の項目をクリックすると「△」(昇順)、または「▽」(降順)が表示されソートできます。

グループボックス内に表示される項目は、以下の表のとおりです。

表示件数		グループボックス内に表示されるユーザ一覧や管理対象マシンなどの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク		各グループボックス内にあるリンクのことを指し、グループボックス内の選択したリソースに対して操作を行います。 グループボックス内の左端のチェックボックスにチェックを入れて操作する対象リソースを選択し、「アクション」リンクをクリックして実行します。
「アクション」メニュー		各グループボックス内にある「マシン個別操作」から選択できるメニューのことを指し、グループボックス内の選択したリソースに対して操作を行います。 グループボックス内の左端のチェックボックスにチェックを入れて操作する対象リソースを選択し、「アクション」メニューを選択して実行します。
チェックボックス		「アクション」リンク/「アクション」メニューからの操作対象の項目を選択します。 1番上のチェックボックスにチェックを入れると、該当ページのすべてのユーザや管理対象マシンなどを選択します。
「表示件数」」に指定した数を上回る場合は、以下を表示します。		
	<	前のページに遷移します。
	>	次のページに遷移します。
	<<	先頭ページに遷移します。
	>>	末尾ページに遷移します。
	(テキストボックス)	ページを指定します。
	Go	テキストボックスに指定されたページに遷移します。

(4) 「設定」メニュー、「操作」メニュー

対象リソースの設定/操作するためのメニューです。メニューの内容は、ユーザの権限(Administrator/Operator/Observer)によって異なります。

ユーザの権限については、「2.2 「ユーザ」アイコン」を参照してください。

メニューで行う操作は、ツリービューで選択したアイコン内のリソースに対して行うことができます。

操作を実行できない場合は、警告ダイアログボックスを表示します。

注:

- 「F1」キーなどのブラウザ固有のショートカットキーを使用すると、Web コンソールの動作に影響を与える場合があります。
- 日本語を入力できる項目(グループ名やマシン名など)に、外字を入力すると文字化けが発生します。
- Web コンソールの操作中に管理サーバ上の全フォルダ/ファイルに対して「一覧の取得」、「フォルダの作成」の操作を行う場合があります。
  このような操作を行って問題のあるフォルダ/ファイルが存在する場合は、以下のサービスについてデフォルトのログオンアカウントである「ローカルシステムアカウント」から管理者権限を持つ他のアカウントに変更し、そのアカウントに対してアカウント制限を行うことを推奨します。
  DeploymentManager API Service
- JIS2004 には対応していません。
- 「操作」メニューの「画面更新」は、「F5」キーを押して画面更新する動作と同じです。
  ただし、画面操作の途中で「F5」キーを押した場合は、「運用」「監視」「管理」ビューに切り替えた直後の画面に移動します。「操作」メニューの「画面更新」をクリックした場合は、そのままの画面で画面更新します。
- ガードパラメータ設定により、画面操作を行う際に、パスワードを必要とする設定や、警告を表示する設定にできます。設定画面については、「2.7.2 ガードパラメータ設定」を参照してください。

1.1.1. DeploymentManager ログイン

DPMのWebコンソールを起動すると、「DeploymentManagerログイン」画面が表示されます。以下の手順で、DPMのWebコンソールを起動してください。

注:

- LDAPサーバのユーザアカウントを使用してWebコンソールにログインする場合は、「インストレーションガイド 付録 G LDAPサーバを使用してWebコンソールにログインする」を参照して事前に設定してください。

(1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Internet Explorer」を選択します。

(2) ブラウザのアドレス欄に、以下のいずれかのURLを入力し、Webコンソールを立ち上げます。(すべて同じWebページが表示されます)

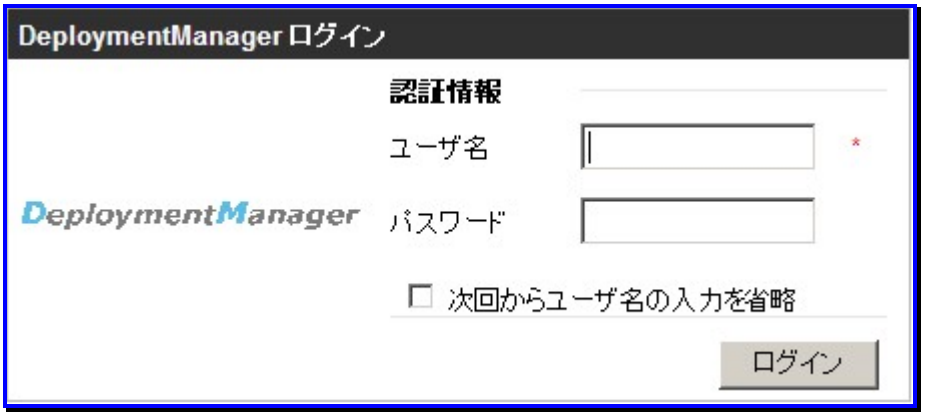
http://ホスト/DPM/
http://ホスト/DPM/Login.aspx
http://ホスト/DPM/Default.aspx

ホストには、Web コンソールから接続する管理サーバの DNS 名、または IP アドレスを入力します。
大文字/小文字を区別しません。

注:

- DPM サーバのホスト名に Windows で推奨されていない文字列(半角英数字と、「-」(ハイフン)以外)が含まれる場合 Web ブラウザのアドレス欄には、IP アドレスを指定してください。
  DNS 名を指定すると Web コンソールの起動に失敗する可能性があります。
- Webサービス(IIS)で使用するポートをデフォルト(80)から変更した場合は、変更したポート番号を含めたURL(以下)を指定してください。
  http://ホスト:ポート番号/DPM/
- DPMサーバと同じサーバからアクセスする場合は、ホストはlocalhostが指定できます。
  http://localhost/DPM/

(3) DPMのWebコンソールが起動し、以下の画面が表示されます。



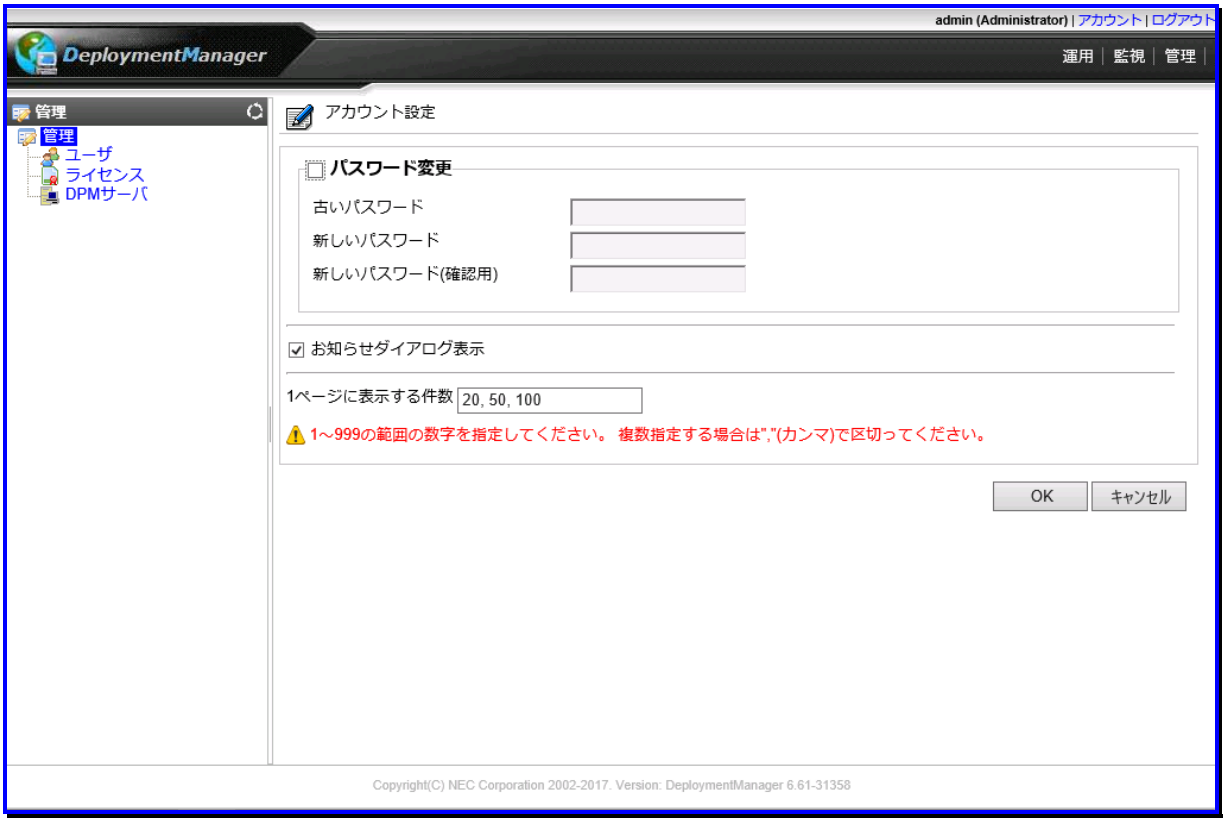
DeploymentManagerログイン	
ユーザ名 (入力必須)	ユーザ名を入力します。
パスワード (入力必須)	パスワードを入力します。
次回からユーザ名の入力を省略	チェックボックスにチェックを入れると、次回からのログインの際、ユーザ名の入力が省略できます。 Internet Explorerの「インターネットオプション」からCookieを削除するとチェックが外れ、ユーザ名を再度入力する必要があります。
ログイン	ユーザ名/パスワードを入力後、「ログイン」ボタンをクリックすると、DPMにログインします。

1.1.2. アカウント

ログインしているユーザのパスワード変更やお知らせダイアログ表示などを設定します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「アカウント」をクリックします。

(2) メインウィンドウに以下の画面が表示されます。



アカウント設定		
	パスワード変更	「パスワード変更」チェックボックスにチェックを入れると、パスワードの変更ができます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
	古いパスワード (入力必須)	現在使用しているパスワードを入力します。
	新しいパスワード (入力必須)	新しく設定するパスワードを入力します。入力できる文字数は、128Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/以下の半角記号です。 ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~
	新しいパスワード(確認用) (入力必須)	「新しいパスワード」で入力した内容を再度入力します。
	お知らせダイアログ表示	「お知らせダイアログ表示」チェックボックスにチェックを入れると、お知らせダイアログ表示の設定ができます。 チェックを入れた場合は、次回のWebコンソール起動時にお知らせダイアログが表示されます。また、任意の画面で「F5」キーを押しても表示されます。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。
	1ページに表示する件数 (入力必須)	「管理対象マシン一覧」のような一覧を複数ページで表示する画面に対して、1ページに表示する件数を設定します。 1ページに表示する上限は、999件です。 件数の設定は、複数の数字を入力して設定できます。 複数設定する場合は、半角数字とカンマで区切って入力してください。 デフォルトは、「20,50,100」です。 複数の数字を設定した場合は、グループボックスの「表示件数」に設定した数字が選択肢として表示されます。 なお、テキストボックスに、先頭に入力した数字がデフォルトとなります。 例) 「50,20,100」と入力した場合は、「50」がデフォルトとなります。
OK		「アカウント設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「アカウント設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.　管理

本章では、DPMの「管理」ビューで管理しているユーザ/ライセンス/DPMサーバの設定について説明します。

2.1. 「管理」ビュー

「管理」ビューでは、DPMのユーザと権限の管理、ユーザー覧、ライセンス管理、およびDPMサーバの設定などDPMを使用するにあたって必要な情報を設定します。

タイトルバーの「管理」をクリックすると、「管理」ビューに切り替わります。メインウィンドウには「管理機能一覧」グループボックスが表示されます。

2.2. 「ユーザ」アイコン

「ユーザ」アイコンでは、DPMを使用するユーザのアカウントを管理します。
「ユーザ」アイコンは、「管理」ビューのツリービュー上の「ユーザ」アイコン、または「管理」ビューのメインウィンドウに表示される「管理機能一覧」グループボックスの「ユーザ」からアクセスできます。
「ユーザ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ユーザー覧」グループボックスが表示されます。画面については、「2.3 ユーザー覧」を参照してください。

各ユーザアカウントには権限を設定する必要があります。設定された権限によってDPMの利用範囲が制限されます。
権限は以下の3種類があります。

Administrator	「管理」、「運用」、「監視」ビューでDPMの設定、変更、マシンの操作やグループの管理など、すべての操作を行うことができます。 Administratorはすべてのユーザのパスワードを変更できます。
Operator	「運用」、「監視」ビューでマシンやマシングループ/シナリオグループの管理などの操作を行うことができます。 「管理」ビューでDPMサーバの管理やユーザと権限の管理、ライセンスの管理を行うことはできません。
Observer	「運用」、「監視」ビューでマシンの稼動状況など、参照のみできます。 「管理」、「運用」、「監視」ビューでの操作はできません。

ユーザアカウント	管理ビュー	運用ビュー	監視ビュー
Administrator	◎	◎	◎
Operator	△	◎	◎
Observer	△	○	○

◎:操作、および参照ができます。
○:参照のみできます。
△:以下の画面のみ参照できます。
・管理サーバの基本情報(詳細は、「2.7 管理サーバの基本情報」を参照してください)
・管理サーバの詳細設定(詳細は、「2.7.1 詳細設定」を参照してください)

注:

■ 権限やパスワードの変更については、「2.3.2 ユーザ編集」を参照してください。
■ SSC から処理を行うため、および DPM コマンドラインを使用するためにインストール時に既に設定されているユーザ(deployment_user)があります。本ユーザについては、以下の制限があります。
・本ユーザによる Web コンソールからのログインはできません。
・本ユーザの削除はできません。
本ユーザの初期パスワードは「dpmmgr」です。DPMコマンドラインを実行する場合には、deployment_user のパスワードを指定してください。

2.3. ユーザ一覧

「ユーザ一覧」グループボックスでは DPM に登録されているユーザの一覧を表示します。「ユーザ一覧」グループボックスは、「ユーザ」アイコンをクリックするとメインウィンドウに表示されます。

ユーザー一覧		
	表示件数	ユーザー一覧の表示件数を選択できます。
	「アクション」リンク	「ユーザ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているユーザを削除します。 複数チェックを入れると、複数のユーザをまとめて削除できます。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているユーザすべてにチェックが入ります。
	ユーザ名	ユーザ名を表示します。編集はできません。 ログイン状態をアイコンで確認できます。 :ログイン中 (グレー):ログオフ
	権限	ユーザの持つ権限を表示します。 権限については、「2.2 「ユーザ」アイコン」を参照してください。
	説明	ユーザの説明を表示します。
	編集	ユーザ情報の編集を行います。「」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ユーザ編集」画面が表示されます。編集画面については、「2.3.2 ユーザ編集」を参照してください。

2.3.1. ユーザ追加

DPMを使用するユーザを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「ユーザ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ユーザ」をクリックします。

(3) 「ユーザ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「ユーザ追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

ユーザ追加		
	ユーザ名 **(入力必須)**	新規に追加するユーザ名を入力します。 入力できる文字数は、32Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 " * + , / : ; < = > ? ¥ アルファベットの大文字/小文字を区別します。
	権限 **(選択必須)**	ユーザの権限を選択します。ユーザの権限は、以下の3種類があります。 ・Administrator ・Operator ・Observer
	パスワード **(入力必須)**	ユーザのパスワードを入力します。 入力できる文字数は、128Byte以内です。入力できる文字は、半角英数字/以下の半角記号です。 ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~ アルファベットの大文字/小文字を区別します。
	パスワード(確認用) **(入力必須)**	確認のため同じパスワードを再度入力します。
	説明	ユーザの説明が入力できます。 入力できる文字数は、128Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。 入力必須ではありません。
OK		ユーザ追加処理をして、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		ユーザ追加処理せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

■ ユーザ追加の最大数に制限はありません。

2.3.2. ユーザ編集

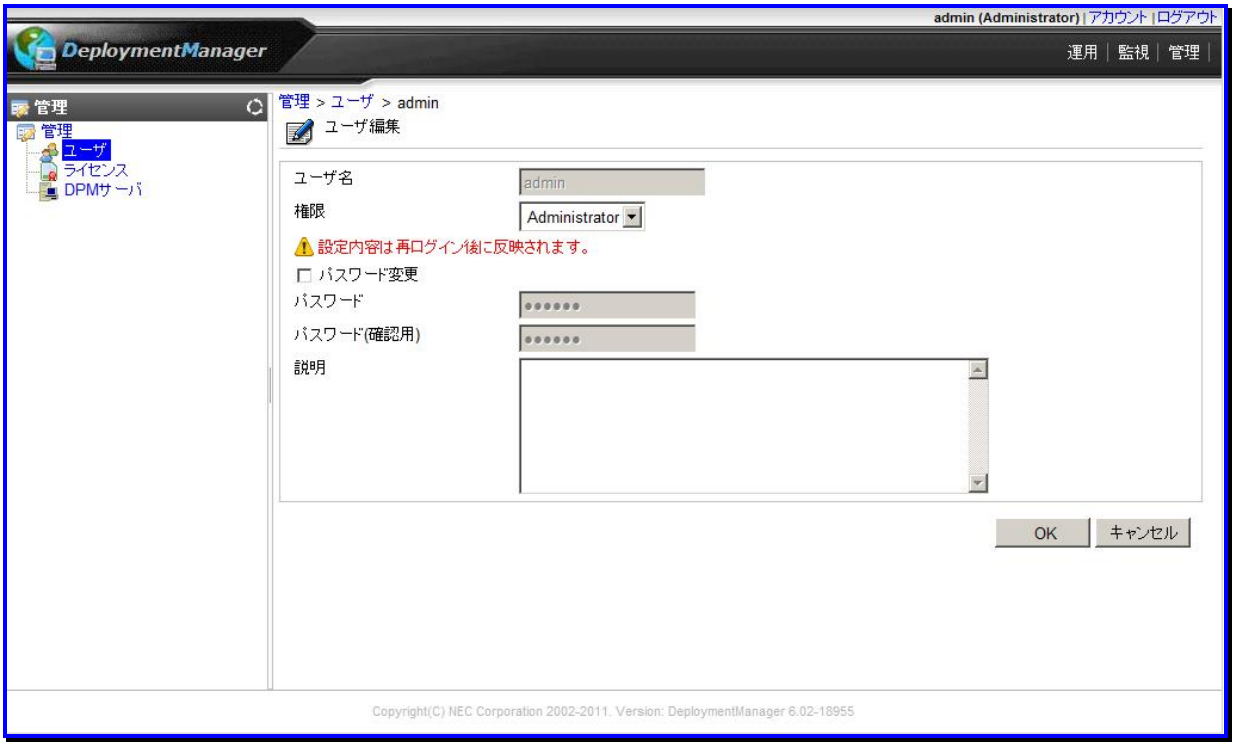
DPMに登録されているユーザを編集します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「ユーザ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ユーザ」をクリックします。

(3) 「ユーザ一覧」グループボックスが表示されますので、編集するユーザの「編集アイコン( )」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集します。



ユーザ編集		
	ユーザ名	ユーザ名を表示します。編集はできません。
	権限	ユーザの権限を表示します。リストボックスから権限を変更できます。 再ログイン後、権限の設定が有効になります。
	パスワード変更	「パスワード変更」チェックボックスにチェックを入れると、パスワードの変更ができます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。 変更したパスワードは、即時反映します。
	パスワード	新しく設定するパスワードを入力します。 入力できる文字数は、128Byte以内です。入力できる文字は、半角英数字/以下の半角記号です。 ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~ アルファベットの大文字/小文字を区別します。
	パスワード(確認用) (入力必須)	「パスワード」で入力した内容を再度入力します。
	説明	ユーザの説明を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、128Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。
OK		「ユーザ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「ユーザ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.3.3. ユーザ削除

DPMで使用しているユーザを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「ユーザ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ユーザ」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「ユーザ一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するユーザ***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「ユーザ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

注:

- ログイン中のユーザ、または自分自身を削除した場合、削除されたユーザは、ログオフするか、Webコンソールがタイムアウトするまで有効です。

2.4. 「ライセンス」アイコン

「ライセンス」アイコンでは、DPM に登録するライセンスを管理します。
「ライセンス」アイコンは、「管理」ビューのツリービュー上の「ライセンス」アイコン、または「管理」ビューのメインウィンドウに表示される「管理機能一覧」グループボックスの「ライセンス」からアクセスできます。「ライセンス」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ライセンス情報」グループボックスと「登録ライセンス一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「2.5 登録ライセンスの詳細情報」を参照してください。

2.5. 登録ライセンスの詳細情報

「ライセンス」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ライセンス情報」グループボックスと「登録ライセンス一覧」グループボックスが表示されます。
「ライセンス情報」グループボックスには、ライセンスの使用状況を表示します。「登録ライセンス一覧」グループボックスでは、DPM に登録されているライセンスの一覧を表示します。

ライセンス情報		
	ライセンス合計	登録したライセンスの合計を表示します。
	使用済	使用済のライセンス数(登録されている管理対象マシン数)を表示します。
	残り	残りのライセンス数を表示します。
登録ライセンス一覧		
	表示件数	登録したライセンス一覧の表示件数を選択できます。
	「アクション」リンク	「ライセンスキー削除」をクリックすると、選択したライセンスを削除します。
	(ラジオボタン)	削除するライセンスを選択します。
	ライセンス名称	ライセンスキーの名称を表示します。
	ライセンスキー	ライセンスキーを表示します。
	登録日	ライセンスキーを登録した日付を表示します。

注:

- SSC向け製品を使用している場合には、DPMのライセンス登録の必要はないため「管理」ビューで「ライセンス」アイコンは表示されません。
  SSC向け製品のライセンス登録については、「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」を参照してください。

2.5.1. ライセンスキー追加

DPMのライセンスキーを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「ライセンス」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ライセンス」をクリックします。

(3) 「ライセンス」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「ライセンスキー追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、ライセンスキーを入力して「OK」ボタンをクリックします。

ライセンスキー追加	
ライセンスキー (入力必須)	ライセンスキーを入力します。大文字/小文字を区別します。 ・ライセンスは、DPMが導入/運用/管理するすべてのマシンの台数分必要です。 ライセンスに関する詳細については、「ファーストステップガイド 2.3 DeploymentManagerの製品体系とライセンス」を参照してください。 ・ライセンスキーの登録を行わない場合は、登録できるマシンは10台まで、試用期間は30日までになります。30日が経過するとDPMが使用できなくなります。
OK	ライセンスを追加して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	ライセンスを追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.5.2. ライセンスキー削除

DPMのライセンスキーを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「ライセンス」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ライセンス」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「登録ライセンス一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するライセンス***」を選択します。

(4) 「アクション」リンクの「ライセンスキー削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

2.6. 「DPM サーバ」アイコン

「DPM サーバ」アイコンでは DPM サーバの動作やイメージ格納用フォルダなど、DPM の環境設定を行います。「DPM サーバ」アイコンは、「管理」ビューのツリービュー上の「DPM サーバ」ノード、または「管理」ビューのメインウィンドウに表示される「管理機能一覧」グループボックスの「DPM サーバ」からアクセスできます。
「DPM サーバ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「基本情報」グループボックスが表示されます。画面については、「2.7 管理サーバの基本情報」を参照してください。

2.7. 管理サーバの基本情報

「基本情報」グループボックスではDPMサーバの基本情報を表示します。「基本情報」グループボックスは、「DPMサーバ」ノードをクリックするとメインウィンドウに表示されます。

基本情報		
	製品名	「DeploymentManager」と表示します。
	製品バージョン	DPMのバージョンを表示します。
	IP構成	
		IPアドレス 管理サーバのIPアドレスを表示します。IPアドレスが複数ある場合は、すべて表示します。
	Webサイト情報	
		説明 Webサイト情報の説明を表示します。
		通信プロトコル Webサイトと接続の通信プロトコルを表示します。
		IPアドレス:TCPポート WebサイトのIPアドレスとポート番号を表示します。

2.7.1. 詳細設定

管理サーバの設定を確認/変更します。

1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

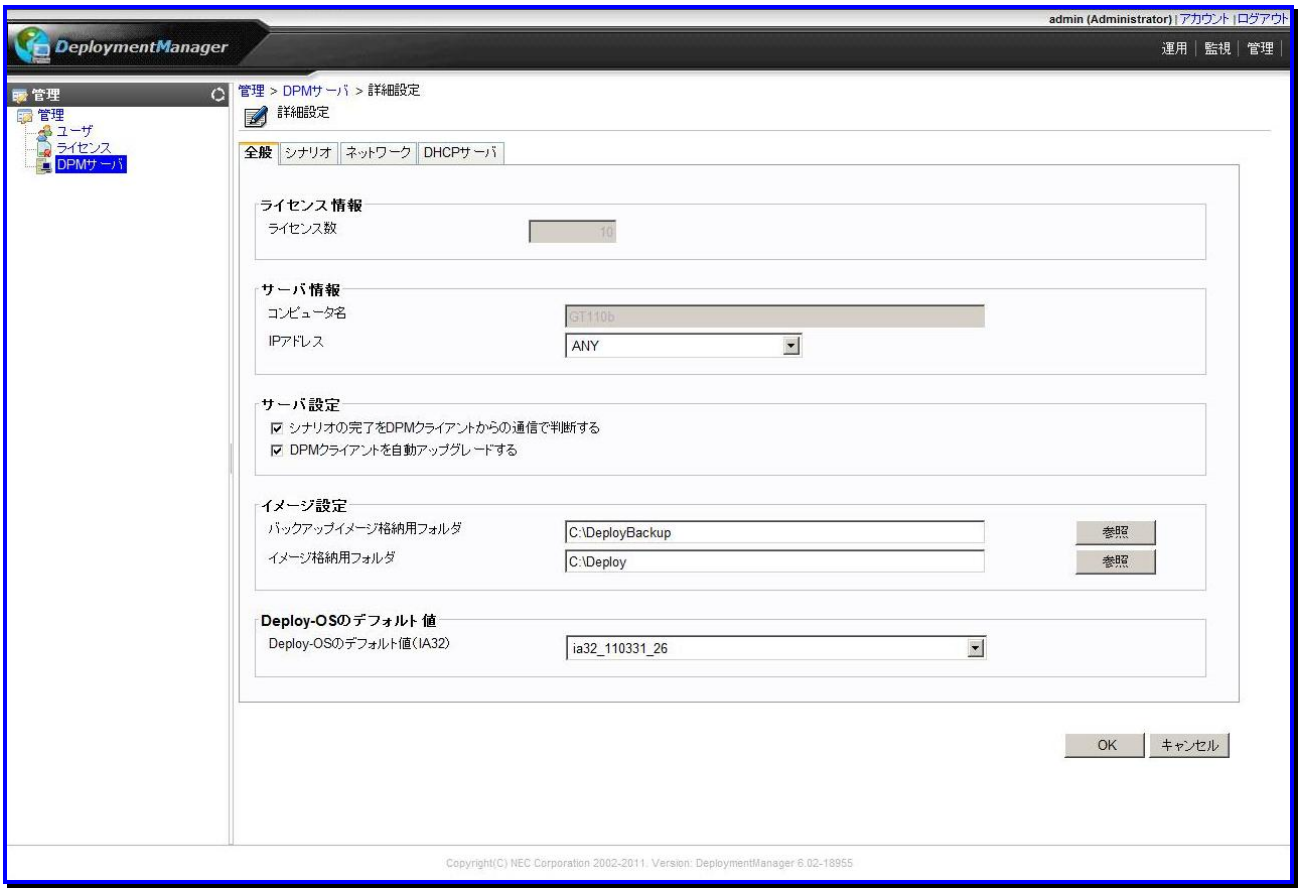
2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「詳細設定」をクリックします。

4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、「全般」、「シナリオ」、「ネットワーク」、「DHCPサーバ」の各タブより、各項目を設定します。
各タブの説明については、「2.7.1.1 「全般」タブ」から「2.7.1.4 「DHCPサーバ」タブ」を参照してください。

2.7.1.1. 「全般」タブ

「全般」タブでは、ライセンス情報/サーバ情報/サーバ設定/バックアップイメージ格納用フォルダやイメージ格納用フォルダを表示/設定します。



全般			
	ライセンス情報		
		ライセンス数	DPMサーバに登録されているライセンス数を表示します。編集はできません。SSC向け製品の場合、「ライセンス」は表示しません。 (DPMのライセンスはSSC製品に含まれるため)
	サーバ情報		
		コンピュータ名	管理サーバのマシン名を表示します。編集はできません。
		IPアドレス	管理対象マシンとの接続に使用するIPアドレスを設定します。 接続に使用するIPアドレスを固定にする場合は、リストボックスからIPアドレスを選択してください。(管理サーバに搭載の全LANボードに設定されているIPアドレスがリストボックスに表示されます。) 接続に使用するIPアドレスは任意でよい場合は、「ANY」を選択してください。 デフォルトは、「ANY」です。(※1)
	サーバ設定		
		シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する	「シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオの終了をリアルタイムで監視します。 DPMサーバとDPMクライアントが通信することにより、シナリオ完了したことが確認できます。 DPMクライアントをインストールしない運用を行う場合は、チェックを入れないでください。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。 なお、SSC向け製品の場合は、必ずチェックを入れた状態で運用してください。
		DPMクライアントを自動アップグレードする	「DPMクライアントを自動アップグレードする」チェックボックスにチェックを入れると、DPMクライアントは起動時にDPMサーバと通信を行い、DPMクライアントのバージョンがDPMサーバと同じ製品に含まれるDPMクライアントのバージョンと異なる場合は、自動的にアップグレードを実行します。 DPMクライアントのバージョンは、「ファーストステップガイド 2.3.1. 製品体系」を参照してください。 DPMクライアントをインストールしない運用を行う場合は、チェックを入れないでください。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。(SSC向け製品の場合、デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。) なお、SSC向け製品の場合は、必ずチェックを外した状態で運用してください。
	イメージ設定		
		バックアップイメージ格納用フォルダ	バックアップイメージ格納用フォルダを設定します。 保存先フォルダは、「参照」ボタンから選択、または直接入力してパスを指定できます。 入力できる文字数は、80Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号と以下の半角記号は使用できません。 ; なお、ファイルパスは「¥」を区切り文字として使用してください。 また、環境変数には対応していません。 デフォルトは、「C:¥DeployBackup」です。 バックアップイメージ格納用フォルダは、十分な空き容量を確保したフォルダを設定してください。 設定必須ではありません。(※2)(※3)

		イメージ格納用フォルダ(設定必須)	DPMでリモートインストールを行うOS、アプリケーション、サービスパックなどを格納するフォルダを設定します。 保存先フォルダは、「参照」ボタンから選択、または直接入力してパスを指定できます。 入力できる文字数は、254Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号と以下の半角記号は使用できません。 ; なお、ファイルパスは「¥」を区切り文字として使用してください。 また、環境変数には対応していません。 デフォルトは、「C:¥Deploy」です。 イメージ格納用フォルダは、十分な空き容量を確保したフォルダを設定してください。(※2)(※4)
	Deploy-OSのデフォルト値		
		Deploy-OSのデフォルト値(IA32)	Deploy-OSのデフォルトを設定します。 リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 デフォルトは、「ia32_110331_26」です。 なお、本項目の変更は、既に「デフォルト値を使用」を指定している管理対象マシンにも適用されます。 管理対象マシンの設定項目の詳細については、「3.5.5 管理対象マシンの登録」を参照してください。
OK			「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 ■ 「IP アドレス」に「ANY」以外を選択する場合は、以下に注意してください。
一つの LAN ボードに複数 IP アドレスが割り当てられている場合は、OS 上で先頭に見える IP アドレスを設定してください。それ以外の IP アドレスを設定するとDPM サーバが正常に動作しない場合があります。

■ 「IP アドレス」に「ANY」を選択し、かつ、リモートアップデートのシナリオでマルチキャストによる配信を行う場合は、配信対象となるすべての管理対象マシンと管理サーバは同じネットワークに接続するようにしてください。

■ リストアシナリオでマルチキャストによる配信を行う場合は、「IP アドレス」に「ANY」以外(使用する LAN ボードに設定している IP アドレス)を設定してください。

※2 ■ バックアップイメージ格納用フォルダを変更した場合は、既に作成したバックアップ/リストアシナリオと、デフォルトで作成されている以下のシナリオのイメージファイルの参照先を変更してください。

・ System_Backup
・ System_Restore_Unicast

■ バックアップイメージ格納用フォルダ、およびイメージ格納用フォルダの参照先として、以下のフォルダを指定できません。

・ バックアップイメージ格納用フォルダとイメージ格納用フォルダが同一のフォルダ
・ イメージ格納用フォルダのサブフォルダ
・ Windowsのシステムフォルダ
・ 他のアプリケーションで使用しているフォルダ
・ ドライブ直下
例)「D:¥」
・ ネットワークドライブ(シナリオ単体でネットワーク上のイメージファイルを直接指定できます。)

なお、バックアップイメージ格納用フォルダ、およびイメージ格納用フォルダの変更は、ユーザーズガイドに記載している手順以外(エクスプローラから直接、編集や削除など)で行わないでください。

※3　バックアップイメージ格納用フォルダの設定を変更した場合には、バックアップイメージファイルは、自動的に変更先に移動しません。手動でファイルの移動を行う必要があります。

※4
- イメージ格納用フォルダには、DPMの操作を行うユーザ、および管理サーバ上の"DeploymentManager"という名称で始まる各種サービスが使用するアカウント(デフォルトではローカルシステムアカウント(SYSTEM))がフルコントロールでアクセスできるようにアクセス許可を与えてください。
- イメージ格納用フォルダ配下の「exports」フォルダをNFS共有フォルダに設定している場合は、「イメージ格納用フォルダ」の変更を行う際、以下の手順で行ってください。
  (1)「exports」フォルダのNFS共有フォルダの設定を外します。
  (2) 詳細設定画面から「イメージ格納用フォルダ」を変更します。
  (3) 新たに移動した先でイメージ格納用フォルダ配下の「exports」フォルダをNFS共有フォルダに設定します。
- 既存のフォルダを新しいイメージ格納用フォルダに設定する場合は、空のフォルダを指定してください。
- イメージ格納用フォルダに OS イメージなどのサイズの大きいイメージが登録されていると、イメージ格納用フォルダ変更時に時間がかかり、Webコンソールでタイムアウトが発生する場合があります。イメージ格納用フォルダの変更を行う前にイメージ格納用フォルダのサイズを確認の上、以下の DPM サーバ、および IIS のタイムアウト値を必要に応じて変更してください。
  なお、タイムアウトが発生した場合は、フォルダ変更処理が終わるまでお待ちください。フォルダ変更処理完了後に Web コンソールで再度、ログインする必要があります。
  (1) DPMサーバのタイムアウト値
  以下のファイルでタイムアウト値を変更してください。
  <DPMサーバのインストールフォルダ>¥WebServer¥App_Data¥Config¥MgrServerList.xml
  項目:TimeOut
  デフォルトでは、1200秒に設定されています。タイムアウト値を変更した場合には、IISを再起動する必要があります。
  (2) IISのタイムアウト値
  以下の手順でタイムアウト値を変更してください。
  以下の手順6)、9)、11)でタイムアウト値を4か所設定します。設定値のうち最小値がタイムアウト値として有効になります。このため、4か所すべて同じ値にすることを推奨します。
  デフォルトの設定では20分でタイムアウトします。
  なお、設定は即時有効になります。
  1) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャー」を選択します。
  2) 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」画面が表示されますので、画面左側の「アプリケーション プール」をクリックします。
  3) 画面中央の「アプリケーション プール」で「ASP.NET v4.0 DeploymentManagerPool」を選択して、画面右側の「アプリケーション プール タスク」で「停止」をクリックします。
  Windows Server 2012以降の場合は、「DeploymentManagerPool」を選択してください。
  4) 画面左側の「Default Web Site」をクリックして、画面右側の「Web サイトの管理」で「停止」をクリックします。
  5) 画面左側の「Default Web Site」直下の「DPM」をクリックして、画面中央の「ASP.NET」で「セッション状態」を選択して、画面右側の「操作」で「機能を開く」をクリックします。
  6) 画面中央の「セッション状態」画面で「Cookie の設定」-「タイムアウト(分)(O):」(デフォルト20分)でタイムアウト値を指定して、画面右側の「操作」で「適用」をクリックします。
  7) 画面左側の「Default Web Site」直下の「DPM」をクリックして、画面中央の「IIS」で「認証」を選択して、画面右側の「操作」で「機能を開く」をクリックします。

8) 画面中央の「認証」画面で「フォーム認証」を選択して、画面右側の「操作」で「編集...」をクリックします。

9) 「フォーム認証設定の編集」画面が表示されますので、「認証 Cookie のタイムアウト(分)(A)」(デフォルト30分)でタイムアウト値を指定して、「OK」ボタンをクリックします。

10) 画面左側の「アプリケーション プール」をクリックして、画面中央の「アプリケーション プール」で「ASP.NET v4.0 DeploymentManagerPool」を選択して、画面右側の「アプリケーション プールの編集」で「詳細設定...」をクリックします。
Windows Server 2012以降の場合は、「DeploymentManagerPool」を選択してください。

11) 「詳細設定」画面が表示されますので、以下の2項目にタイムアウト値を指定して、「OK」ボタンをクリックします。

・「プロセスモデル」-「アイドル状態のタイムアウト(分)」(デフォルト20分)

・「リサイクル」-「定期的な間隔 (分)」(デフォルト1740分)

12) 画面右側の「アプリケーション プールタスク」で「開始」をクリックします。

13) 画面左側の「Default Web Site」をクリックして、画面右側の「Web サイトの管理」で「開始」をクリックします。

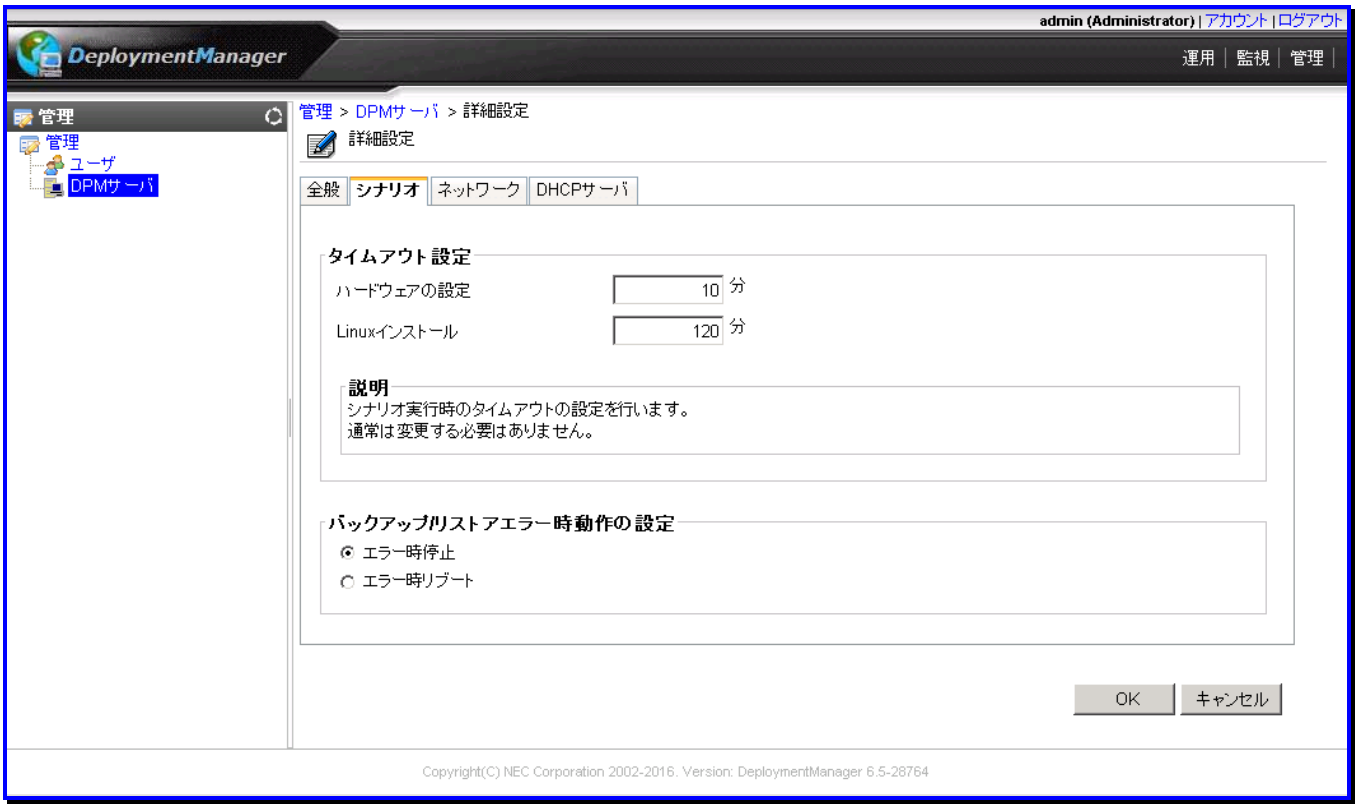
■ イメージビルダは、イメージ格納用フォルダ変更前に一度終了し、フォルダ変更後にあらためて起動してください。

注:

■ IPアドレス、またはイメージ格納用フォルダを変更すると、DPMの各サービスが再起動されます。

2.7.1.2. 「シナリオ」タブ

「シナリオ」タブでは、シナリオのタイムアウト時間を設定します。



シナリオ			
	タイムアウト設定(※1)		
		ハードウェアの設定 (入力必須)	BIOS/ファームウェアアップデート用フロッピーディスクのイメージ配信処理(シナリオの「HW設定」タブ)のタイムアウト時間のデフォルトを設定します。 「1～9999」分までの1分単位で設定できます。 デフォルトは、「10」分です。
		Linuxインストール (入力必須)	LinuxのOSクリアインストール(シナリオの「OS」タブ)のタイムアウト時間を設定します。 「1～9999」分までの1分単位で設定できます。 デフォルトは、「120」分です。
	バックアップ/リストアエラー時動作の設定		
		エラー時停止	バックアップ/リストアシナリオを実行中にエラーが発生した場合、エラー発生原因の特定に役立つ情報を管理対象マシンの画面に出力し、バックアップ/リストア動作を停止します。 デフォルトはエラー時停止です。

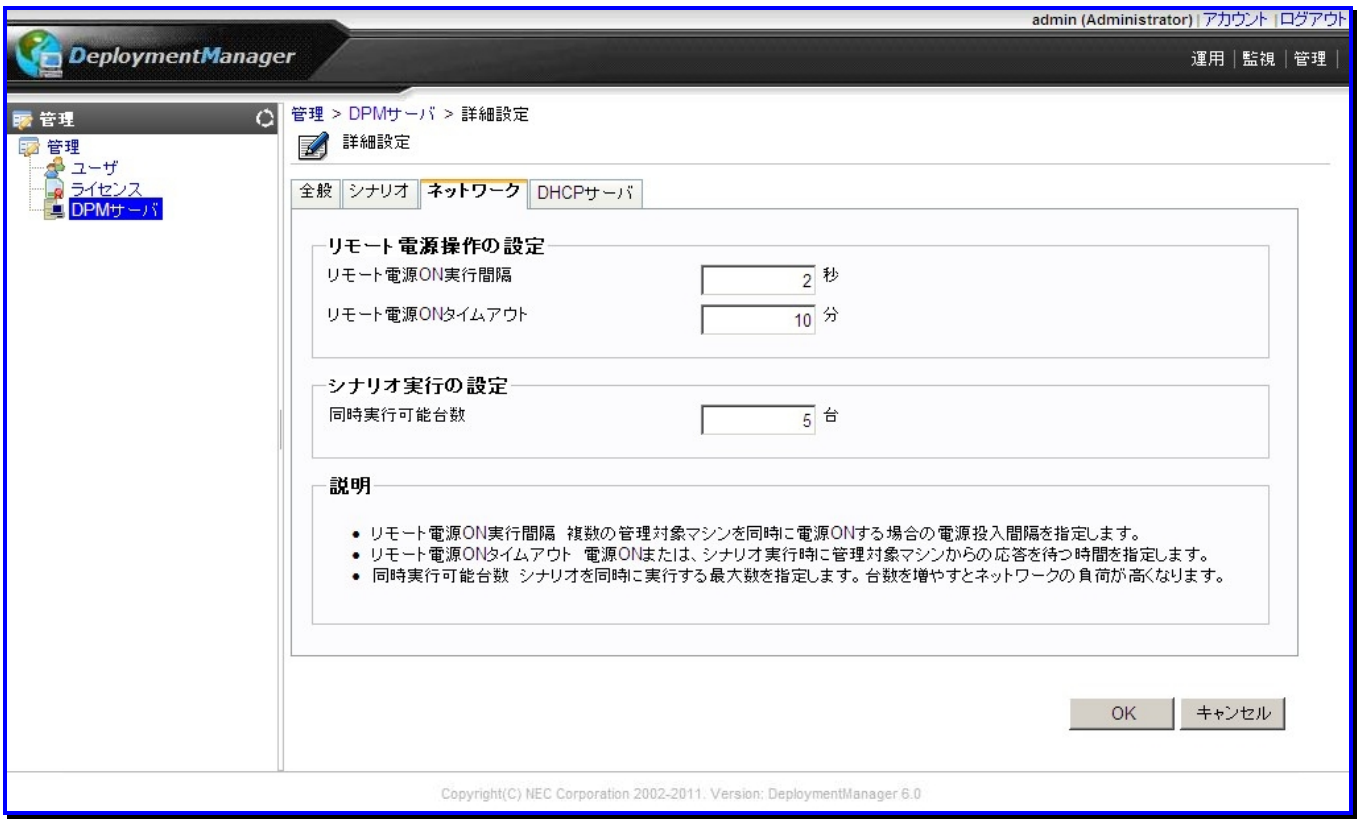
		エラー時リブート	バックアップ/リストアシナリオを実行中にエラーが発生した場合、管理対象マシンをリブートします。 夜間にバックアップやリストアを行い、翌日に利用者がそれを意識せずに管理対象マシンを使用するなど、エラーを表示した状態で停止することを避けたい場合は「エラー時リブート」を選択してください。 - バックアップ/リストアシナリオ実行時のエラー発生のタイミングによってはリブートが行われないことがあります。 - リストアによるデータ復元の途中にエラーが発生してリブートした場合、OSが起動できない、またはOSが不正な状態で起動することがあります。
OK			「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 ■ シナリオタイムアウト時間は、シナリオを開始してからタイムアウトするまでの時間です。各項目で設定した時間を過ぎてもシナリオが終了しない場合は、シナリオ実行エラーとなります。

■ 「シナリオ追加」画面で「HW設定」タブと「OS」タブの両方を設定した場合は、「ハードウェアの設定」、「Linuxインストール」実行時にそれぞれのタイムアウトで設定されている時間が有効になります。

2.7.1.3. 「ネットワーク」タブ

「ネットワーク」タブでは、リモート電源操作の設定とシナリオの同時実行可能台数を設定します。



ネットワーク		
	リモート電源操作の設定	
	リモート電源ON実行間隔 (入力必須)	リモート電源ONが一括で実行される場合の各マシンに対するリモート電源ONの実行間隔を設定します。 「1～99」秒までの1秒単位で設定できます。 デフォルトは、「2」秒です。
	リモート電源ONタイムアウト (入力必須)	リモート電源ON、またはシナリオ実行時にマシンからの応答を待つ時間です。「0～99」分までの1分単位で設定できます。 デフォルトは、「10」分です。 0を指定すると管理対象マシンからの応答を待ち続けます(リモート電源ONタイムアウトしなくなります)。(※1)
	シナリオ実行の設定	
	同時実行可能台数 (入力必須)	シナリオを同時に実行する台数の上限値を設定します。「1～1000」台まで設定できます。デフォルトは、「5」台です。(※2)
OK		「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1　複数台の管理対象マシンに対してリモート電源ONやシナリオ実行を行う場合は、デフォルトのリモート電源ONタイムアウト値ではタイムアウトエラーが発生する可能性があります。

目安としてリモート電源ONタイムアウトを「リモート電源ON実行間隔×シナリオ実行台数と管理対象マシンの起動時間」を加えた程度の値に設定してください。

なお、時間内に反応がない場合はリモート電源ONエラーになります。電源ONはするがリモート電源ONエラーが発生するという場合は、この数値を大きくしてください。

※2 ■ それぞれのシナリオの合計が、同時実行可能台数に設定した値より多い台数に対して同時に実行した場合は、それぞれ以下の動作となります。

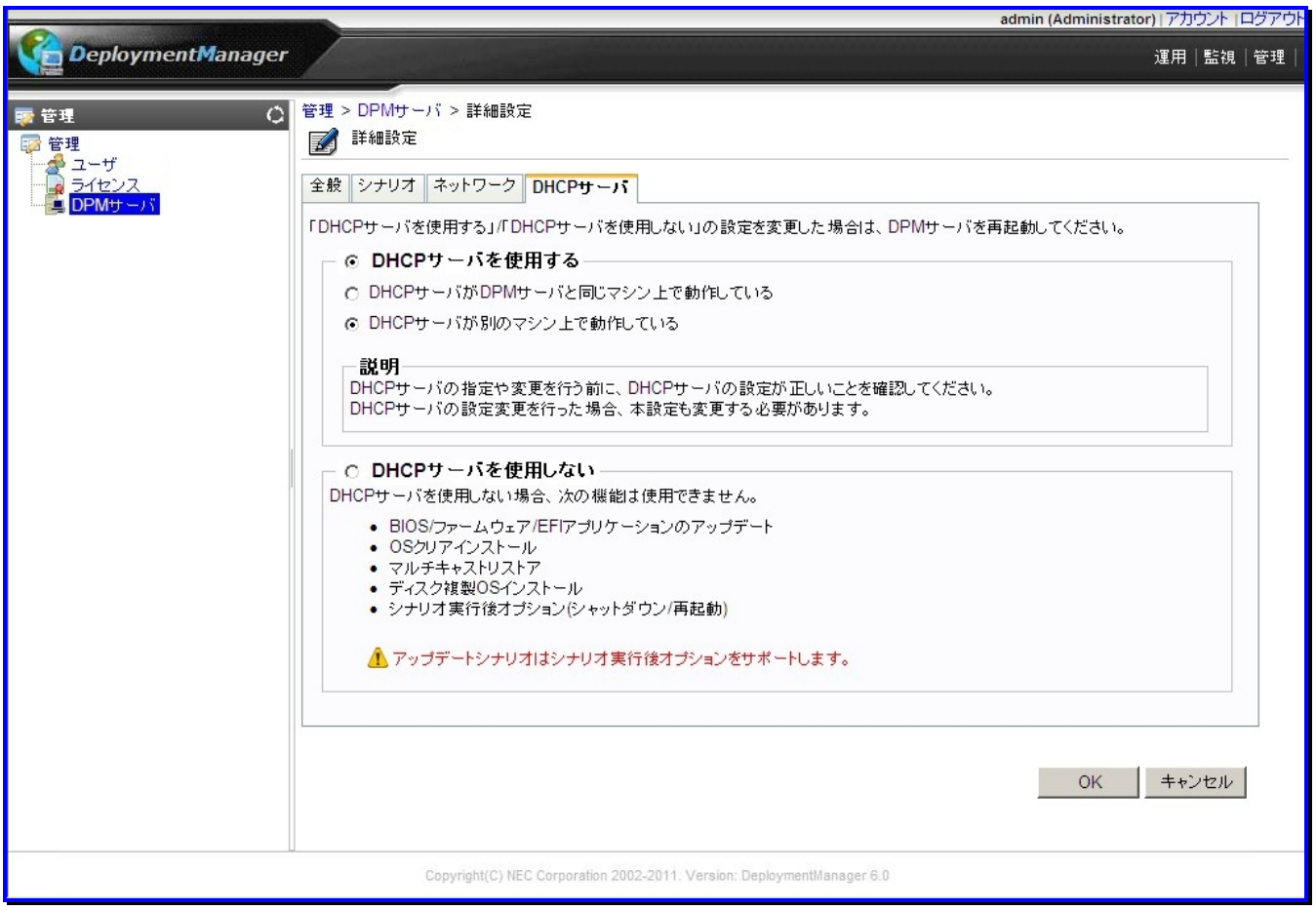
シナリオの種類	同時実行可能台数を超過した分
バックアップ/リストア (ユニキャスト配信), OSクリアインストール	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは待機状態になります。その後、実行中のシナリオが完了すると待機状態の管理対象マシンが順次シナリオ実行状態になります。 なお、シナリオ実行待ちとなっている管理対象マシンの電源を手動で投入した場合は、同時実行可能台数を超えてシナリオが実行されます。
リモートアップデート (ユニキャスト配信)	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは待機状態になります。その後、実行中のシナリオが完了すると待機状態の管理対象マシンが順次シナリオ実行状態になります。
リストア (マルチキャスト配信)	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは待機状態になります。その後、実行中のシナリオがすべて完了すると、待機状態の管理対象マシンのうち、次の同時実行可能台数分がシナリオ実行状態になります。以降、シナリオ実行した管理対象マシンの台数に達するまで同じ動作を繰り返します。
リモートアップデート (マルチキャスト配信)	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは、シナリオ実行エラーとなります。エラー解除をした後に再度シナリオ実行を行ってください。(エラー解除については、「3.8.8 エラー解除」を参照してください。)

■ 同時実行台数の最大値は1000台となっていますが、同時実行するシナリオ数が増えるとネットワークの負荷が高くなります。

■ シナリオと、自動更新が同時に実行できる台数は、1000台までです。そのため、ここで設定した台数と、「管理」ビュー-「DPMサーバ」アイコン-「設定」メニューの「自動更新設定」-「自動更新を行う管理対象マシンの上限(1-1000台)」でどちらも1000台に設定している場合、シナリオ同時実行台数は1000台未満になる場合があります。

2.7.1.4. 「DHCP サーバ」タブ

「DHCPサーバ」タブでは、DHCPサーバの使用の有無と、使用する場所を設定します。



DHCPサーバ		
	DHCPサーバを使用する	DHCPサーバを使用する場合に選択します。
	DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している	DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している場合に選択します。
	DHCPサーバが別のマシン上で動作している	DHCPサーバがDPMサーバと別のマシン上で動作している場合に選択します。
	DHCPサーバを使用しない	DHCPサーバを使用しない場合に選択します。
OK		「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

- DHCPサーバを使用しない運用については、「ファーストステップガイド 付録 B DHCPサーバの導入が困難なお客様へ」を参照してください。

2.7.2. ガードパラメータ設定

ガードパラメータを設定します。ガードパラメータを設定することで、それぞれの処理実行時にログインユーザのパスワードを入力するか、警告メッセージを表示して、操作ミスを防ぐことができます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「ガードパラメータ設定」をクリックします。

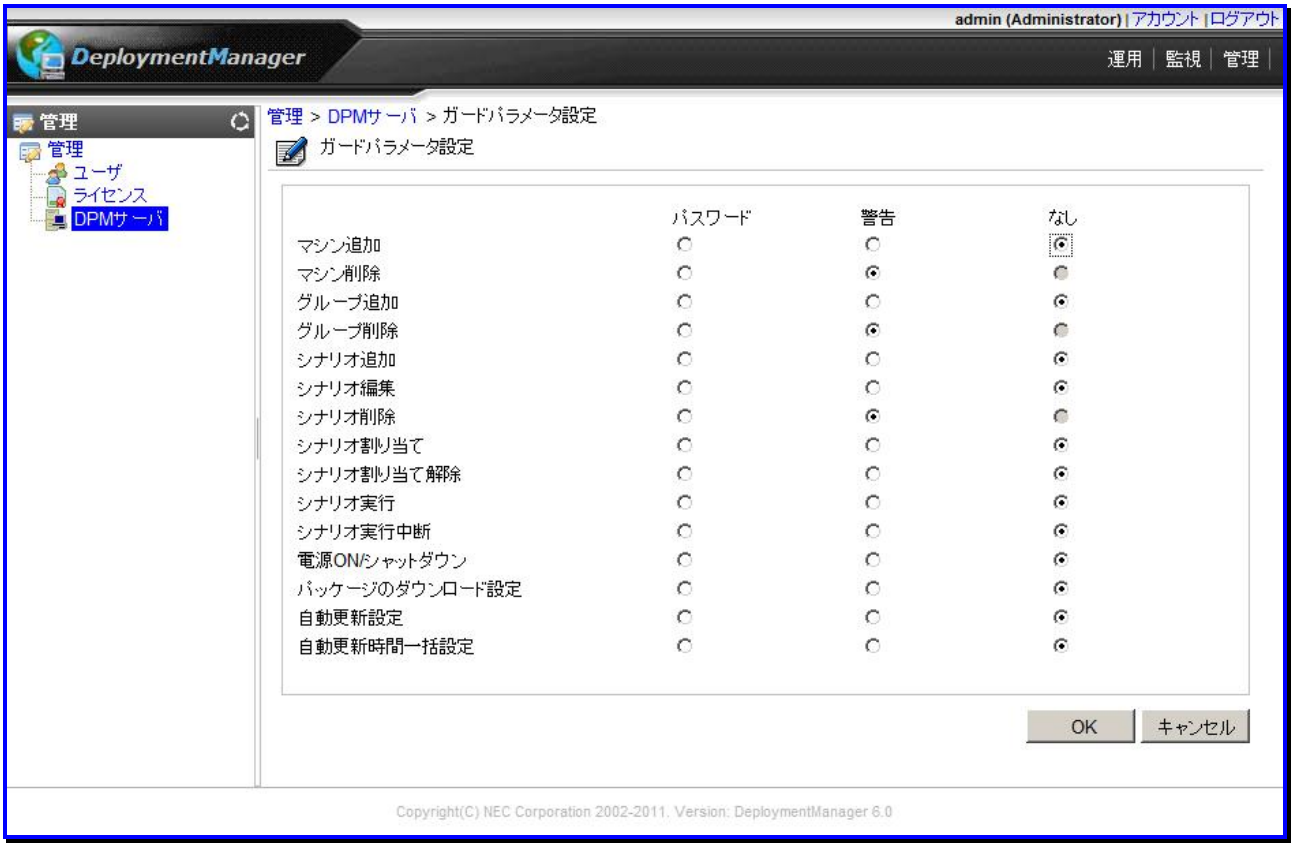
(4) パスワード入力を要求する画面が表示されますので、パスワードを入力します。

注:
- パスワードは、ログインユーザのパスワードを入力してください。

(5) 以下の画面が表示されますので、「パスワード」、「警告」、「なし」のいずれかを選択し、「OK」ボタンをクリックします。設定後は、すぐ有効になります。DPMサーバのサービスは再起動する必要はありません。

選択する「パスワード」、「警告」、「なし」の動作については、以下の表のとおりです。

設定	説明
パスワード	処理実行時に、パスワードを入力する画面を表示し、正しいパスワードを入力しないと処理を実行できません。
警告	処理実行時に、確認メッセージを表示して警告します。
なし	処理実行時に、何も表示しません。



注:

■ 「ガードパラメータ設定」画面の各項目のデフォルトは、上の図のとおりです。

ガードパラメータ設定		
	マシン追加	マシンの追加のガードパラメータを設定します。
	マシン削除	マシンの削除のガードパラメータを設定します。
	グループ追加	グループ追加のガードパラメータを設定します。
	グループ削除	グループ削除のガードパラメータを設定します。
	シナリオ追加	シナリオ追加のガードパラメータを設定します。
	シナリオ編集	シナリオ編集のガードパラメータを設定します。
	シナリオ削除	シナリオ削除のガードパラメータを設定します。
	シナリオ割り当て	シナリオ割り当てのガードパラメータを設定します。
	シナリオ割り当て解除	シナリオ割り当て解除のガードパラメータを設定します。
	シナリオ実行	シナリオ実行のガードパラメータを設定します。
	シナリオ実行中断	シナリオ実行中断のガードパラメータを設定します。
	電源ON/シャットダウン	電源ON/シャットダウンのガードパラメータを設定します。
	パッケージのダウンロード設定	パッケージのダウンロード設定のガードパラメータを設定します。
	自動更新設定	自動更新設定のガードパラメータを設定します。
	自動更新時間一括設定	自動更新時間一括設定のガードパラメータを設定します。
OK		「ガードパラメータ設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「ガードパラメータ設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.7.3. パッケージのダウンロード設定

パッケージWebサーバの追加/編集/削除、およびパッケージの自動ダウンロードを設定します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

パッケージのダウンロード設定		
プロキシ		
	アドレス	プロキシを利用してパッケージWebサーバにアクセスする場合は、プロキシのIPアドレス、またはホスト名を設定します。 入力できる文字数は、127Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 　*？¥ デフォルトは、空白です。
	ポート (入力必須)	プロキシを利用してパッケージWebサーバにアクセスする場合は、プロキシサーバのポート番号を設定します。 「1～65535」の範囲で設定できます。 デフォルトは、「80」です。
自動ダウンロードを行う		「自動ダウンロードを行う」チェックボックスにチェックを入れると、自動ダウンロードするタイミングを設定することができます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。(※1)
	左のリストボックス	自動ダウンロードを実行する周期/曜日を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎時 ・ 毎日 ・ 日曜日～土曜日
	右のリストボックス	自動ダウンロードを実行する時刻を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎時を選択した場合 「0～50」分までの10分単位 ・ 毎日を選択した場合 「0:00～23:00」までの1時間単位 ・ 日曜日～土曜日のいずれかを選択した場合 「0:00～23:00」までの1時間単位
パッケージWebサーバ		
	表示件数	パッケージWebサーバの表示件数を選択できます。
	「アクション」リンク	・「追加」をクリックすると、「パッケージWebサーバ追加」画面が表示され、パッケージWebサーバを追加することができます。追加方法については「2.7.3.1 パッケージWebサーバ追加」を参照してください。 ・「削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているパッケージWebサーバを削除します。 複数チェックを入れると、複数のパッケージWebサーバをまとめて削除できます。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているパッケージWebサーバすべてにチェックが入ります。
	サーバのアドレス	パッケージWebサーバのアドレスを表示します。 パッケージWebサーバが複数登録されている場合は、昇順で表示されます。 表示されているアドレスをクリックすると、メインウィンドウに選択したパッケージWebサーバの基本情報が表示されます。
	サーバID	パッケージWebサーバの識別子を表示します。 パッケージが管理サーバにダウンロードされると、各パッケージのID番号の前にサーバIDを付けます。

		ダウンロード	パッケージWebサーバが自動ダウンロード対象であるかどうかを表示します。
		プロキシ	パッケージWebサーバからパッケージをダウンロードする際に、プロキシを経由するかどうかを表示します。
		最終ダウンロード情報	ダウンロードの成功、失敗、または最終ダウンロードの時刻を表示します。
		編集	パッケージWebサーバの編集を行います。「📖」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「パッケージWebサーバ編集」画面が表示されます。編集画面については、「2.7.3.2 パッケージWebサーバ編集」を参照してください。
OK			「パッケージのダウンロード設定」画面の設定内容を保存して元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「パッケージのダウンロード設定」画面の設定内容を保存せずに元のウィンドウに戻ります。

※1　DPMサーバは、次回ダウンロードを行うまで最新のシステム時刻を取得しないため、自動ダウンロード設定後にWindowsのシステム時刻を変更した場合は、ダウンロードが予定どおり行われないことがあります。

注:

- イメージビルダの登録データの削除機能を利用することにより、管理サーバに自動ダウンロードしたパッケージを一時的に削除できます。
  ただし、パッケージ Web サーバから該当パッケージを削除しない場合は、設定した自動ダウンロード時刻になると再度ダウンロードされます。
- PackageDescriberを使用してパッケージWebサーバからパッケージを削除した場合、次回の自動ダウンロード実行時に管理サーバのパッケージが削除されます。
- 自動ダウンロード中は、「パッケージのダウンロード設定」の変更はできません。

2.7.3.1. パッケージ Web サーバ追加

パッケージWebサーバを追加します。

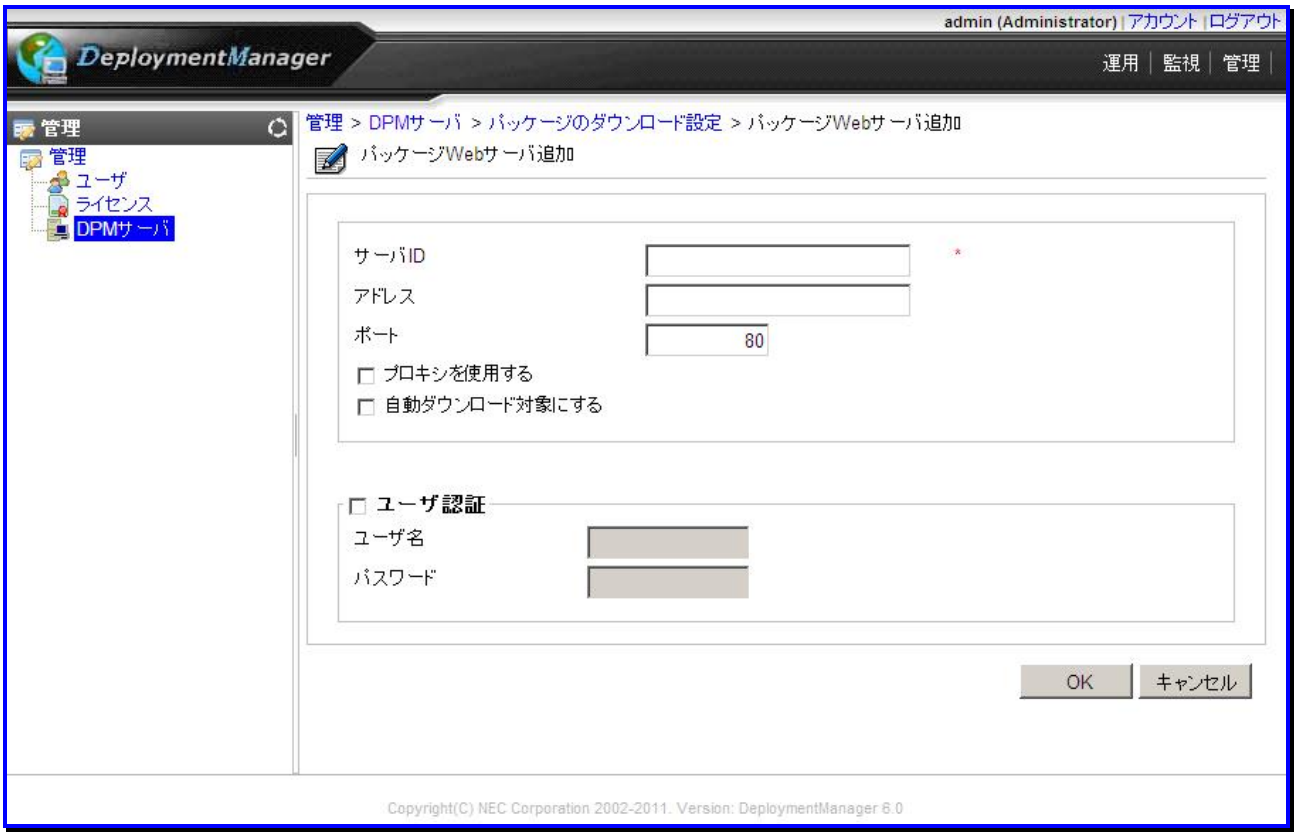
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「アクション」リンクの「追加」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。



パッケージWebサーバ追加	
サーバID **(設定必須)**	パッケージWebサーバのIDを設定します。 入力できる文字数は、7Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/以下の半角記号です。 - _ 「local」(大文字/小文字を区別しません)はあらかじめ予約されているため使用できません。

	アドレス **(設定必須)**		パッケージWebサーバのURLを設定します。 入力できる文字数は、255Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 　＊？￥ デフォルトは、空白です。
	ポート **(設定必須)**		パッケージWebサーバのポート番号を設定します。「1～65535」の範囲で設定できます。デフォルトは、「80」です。
	プロキシを使用する		「プロキシを使用する」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバへアクセスする際にプロキシサーバを使用します。 プロキシサーバを使用する場合は、プロキシサーバにユーザ認証は設定しないでください。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
	自動ダウンロード対象にする		「自動ダウンロード対象にする」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバからパッケージを定期的にダウンロードします。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。(※1)
	ユーザ認証		「ユーザ認証」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバへのアクセス時にユーザ認証を行います。 パッケージWebサーバへのアクセスにユーザ認証が必要な場合は、チェックを入れます。「ユーザ認証」にチェックを入れると「ユーザ名」、「パスワード」の入力が有効になり、「ユーザ名」は必須入力項目となります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		ユーザ名 **(入力必須)**	IISで設定されている基本認証のユーザ名を入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。
		パスワード	IISで設定されている基本認証のパスワードを入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。 入力必須ではありません。
OK			「パッケージWebサーバ追加」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「パッケージWebサーバ追加」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1　管理サーバは、次回ダウンロードを行うまで最新のシステム時刻を取得しないため、自動ダウンロード設定後にWindowsのシステム時刻を変更した場合は、ダウンロードが予定どおり行われないことがあります。

2.7.3.2. パッケージ Web サーバ編集

パッケージWebサーバを編集します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、編集するパッケージWebサーバの「編集アイコン(📖)」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集します。

また、「パッケージWebサーバ編集」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

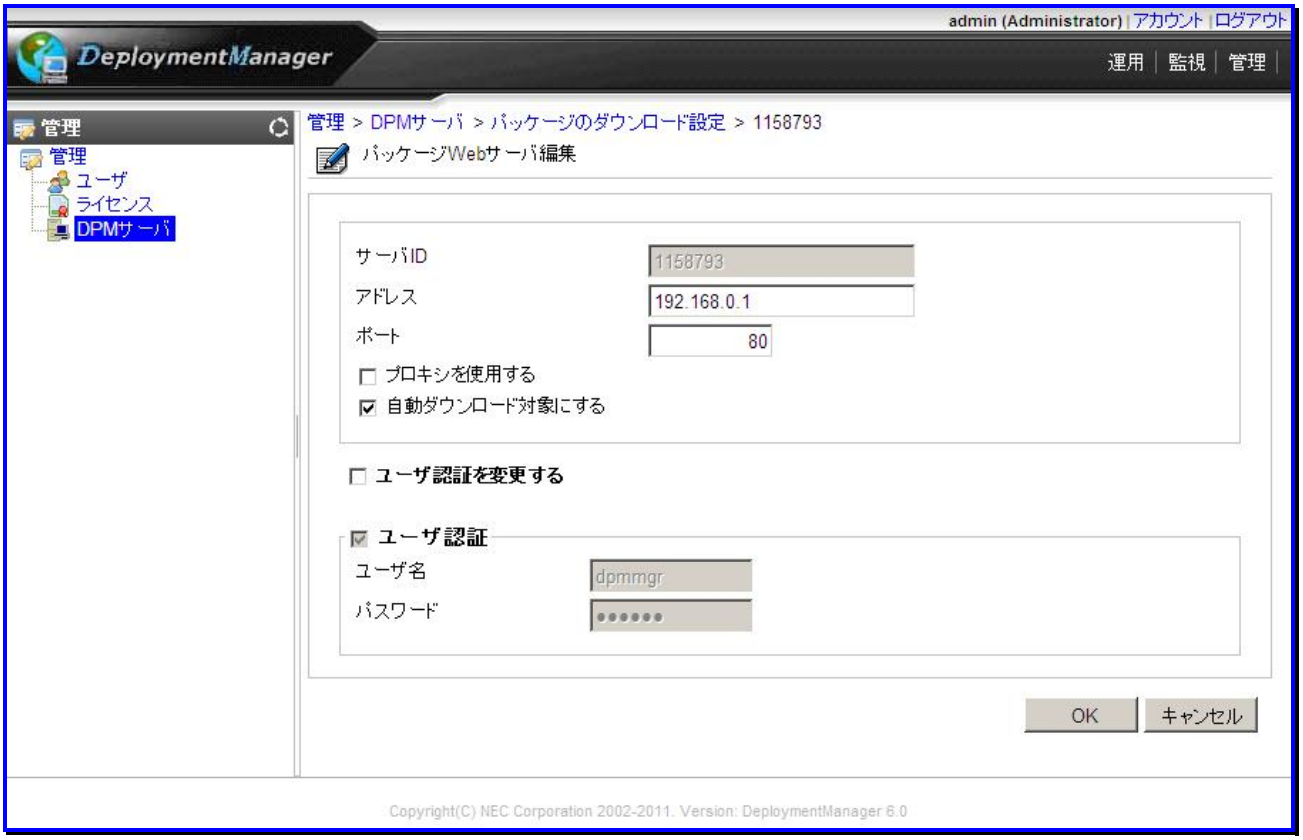
(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「***編集するパッケージWeb サーバ***」のサーバのアドレスをクリックします。

(5) パッケージWebサーバに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージWebサーバ編集」をクリックします。

(6) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集します。



パッケージWebサーバ編集	
サーバID	パッケージWebサーバのIDを表示します。編集はできません。
アドレス **(入力必須)**	パッケージWebサーバのURLを編集できます。 入力できる文字数は、255Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 ＊？¥
ポート **(入力必須)**	パッケージWebサーバのポート番号を編集できます。「1～65535」の範囲で設定できます。デフォルトは、「80」です。
プロキシを使用する	「プロキシを使用する」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバへアクセスする際にプロキシサーバを使用します。プロキシサーバを使用する場合は、プロキシサーバにユーザ認証は設定しないでください。
自動ダウンロード対象にする	「自動ダウンロード対象にする」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバからパッケージを定期的にダウンロードします。

	ユーザ認証を変更する		「ユーザ認証を変更する」チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ認証」チェックボックスが有効になります。
	ユーザ認証		パッケージWebサーバへのアクセスにユーザ認証が必要な場合は、「ユーザ認証」チェックボックスにチェックを入れます。 チェックを入れると、「ユーザ名」「パスワード」の入力が有効になります。
		ユーザ名 (入力必須)	IISで設定されている基本認証のユーザ名を編集します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。
		パスワード	IISで設定されている基本認証のパスワードを編集します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。 入力必須ではありません。
OK			「パッケージWebサーバ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「パッケージWebサーバ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.7.3.3. パッケージ Web サーバ削除

パッケージWebサーバを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「***削除するパッケージWeb サーバ***」の左端のチェックボックスにチェックを入れ、「アクション」リンクの「削除」をクリックします。

(5) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

また、「基本情報」画面からもパッケージWebサーバを削除できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「***削除するパッケージWeb サーバ***」のサーバのアドレスをクリックします。

(5) パッケージWebサーバに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージWebサーバの削除」をクリックします。

(6) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

2.7.3.4. パッケージ Web サーバの基本情報

パッケージWebサーバの基本情報を確認します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「サーバのアドレス」をクリックします。

(5) メインウィンドウにパッケージWebサーバの「基本情報」グループボックスが表示されます。

基本情報		
	サーバID	パッケージWebサーバのIDを表示します。
	アドレス	パッケージWebサーバのアドレスを表示します。
	ポート	パッケージWebサーバのポート番号を表示します。
	プロキシ使用	プロキシを使用している場合は「はい」、プロキシを使用していない場合は「いいえ」を表示します。
	自動ダウンロード対象	自動ダウンロード対象の場合は「はい」、自動ダウンロード対象でない場合は「いいえ」を表示します。
	ユーザ認証	ユーザ認証を行っている場合は「使用」、ユーザ認証を行っていない場合は「未使用」を表示します。
	ユーザ名	ユーザ名を表示します。

2.7.4. 自動更新設定

自動更新を設定します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。

(3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「自動更新設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

自動更新設定			
	自動更新を行う管理対象マシン数の上限(1-1000台)(入力必須)		同時に自動更新を行うマシン数の上限を設定します。 「自動更新を行う管理対象マシン数の上限」は、グループ単位ではなく、DPMサーバに登録されているすべてのマシンが対象になります。 「1～1000」台の範囲で設定できます。デフォルトは、「5」台です。(※1)
	最大転送レート(1-500MB/分)		「最大転送レート」チェックボックスにチェックを入れると、自動更新のファイル転送時、転送レートの制御を行います。 最大転送レートは、1分間に転送する最大のデータ量をMByte単位で指定します。「1～500」の範囲で設定できます。デフォルトは、「500」MByte/分です。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
	グループ追加時の自動更新設定		
		自動更新機能	新規グループの「自動更新機能」のデフォルトを設定します。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※2)
		自動更新時間	新規グループの「自動更新時間」のデフォルトを設定します。
		左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
		右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
		適用契機	新規グループの「適用契機」のデフォルトを設定します。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(※3)
		リトライ回数	新規グループの「リトライ回数」のデフォルトを設定します。設定したリトライ回数までDPMサーバとの接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。デフォルトは、「1」回です。
		リトライ間隔(分)	新規グループの「リトライ間隔(分)」のデフォルトを設定します。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。デフォルトは、「5」分です。
		ログオン中は実行しない	新規グループの「ログオン中は実行しない」のデフォルトを設定します。 チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。

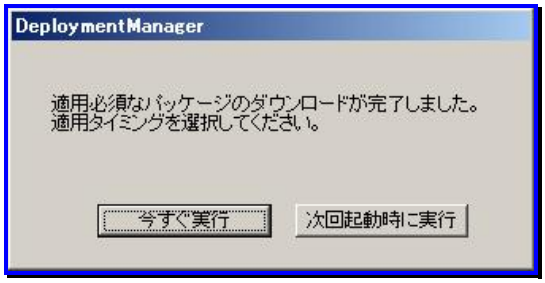
		ログオフまで待つ	新規グループの「ログオフまで待つ」のデフォルトを設定します。 チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		実行可能時間を指定する	新規グループの「実行可能時間を指定する」のデフォルトを設定します。 管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		開始	新規グループの「開始」のデフォルトを設定します。 自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
		終了	新規グループの「終了」のデフォルトを設定します。 自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
OK			「自動更新設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「自動更新設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1　自動更新とシナリオが同時に実行できる台数は、1000台までです。そのため、ここで設定した台数と、「管理」ビュー「DPMサーバ」アイコン→「設定」メニューの「詳細設定」→「ネットワーク」タブ-「シナリオ実行の設定」グループボックスの「同時実行可能台数」を両方1000台に設定している場合は、自動更新の同時実行台数が1000台未満になる可能性があります。

※2　自動更新の設定例と動作

- 自動更新機能を「起動時ON」、自動更新時間を「毎日12:00」に設定した場合は、管理対象マシンの起動時、および毎日「12:00」に自動更新が行われます。
- 自動更新機能を「起動時OFF」、自動更新時間を「水曜日12:00」に設定した場合は、管理対象マシンは毎週水曜日の「12:00」に自動更新が行われます。管理対象マシンの起動時に自動更新は行われません。
- 自動更新機能を「起動時OFF」、自動更新時間を「毎日12:00」、「ログオン中は実行しない」と「ログオフまで待つ」をON、実行可能時間を「開始10:00」、「終了15:00」に設定した場合は、管理対象マシンは毎日「12:00」時、ログオンユーザが存在しない場合、自動更新が行われます。毎日「12:00」時に、ログオンユーザが存在すれば、自動更新が行われません。ユーザログオフ時に、時間は10:00～15:00の間であれば、自動更新は行われますが、時間はその間でない場合、自動更新は行われません。

※3　「適用契機」の各選択肢と動作については、以下の表のとおりです。

選択肢	動作
今すぐ実行	即時にパッケージの適用を行います。 管理対象マシンのステータスは「自動更新パッケージ適用中」に変わります。
次回起動時に実行	次回再起動時にパッケージの適用を行います。 管理対象マシンのステータスは「自動更新再起動待ち中」に変わります。
ユーザ確認画面を表示	管理対象マシン上に以下の画面が表示されます。 「すぐ実行」、または「次回起動時に実行」ボタンをクリックして、実行してください。 

注:

- 新規マシングループに登録されているマシンに対しては、自動更新を行いません。自動更新を行うためには、グループへの追加が必要です。
- 自動更新で配信されるパッケージは、作成時に緊急度を「最高」、または「高」に設定しているものになります。詳細については、「リファレンスガイド ツール編 1.4 パッケージの登録/修正」、または「リファレンスガイド ツール編 2.2. パッケージ作成」を参照してください。

3.　運用

本章では、「運用」ビューでのDPMの運用について説明します。

3.1. 「運用」ビュー

「運用」ビューでは、各種リソース(マシン、シナリオ、イメージなど)に対して、情報の設定、情報の表示、情報の管理(追加、編集、削除)などの機能を提供します。
タイトルバーの「運用」をクリックすると、「運用」ビューに切り替わります。メインウィンドウには「サマリ情報」グループボックスが表示されます。

3.2. 「リソース」アイコン

「リソース」アイコンでは、DPMを使用するリソースを管理します。

サマリ情報	
リソースの種類	
マシン	「マシン」をクリックすると、「グループ一覧」画面を表示します。
シナリオ実行中	「シナリオ実行中」をクリックすると、「監視」ビューの「シナリオ実行一覧」画面で「正常ステータス」のマシンを表示します。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
シナリオ実行エラー	「シナリオ実行エラー」をクリックすると、「監視」ビューの「シナリオ実行一覧」画面で「異常ステータス」のマシンを表示します。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
シナリオ実行中断	「シナリオ実行中断」をクリックすると、「監視」ビューの「シナリオ実行一覧」画面で「異常ステータス」のマシンを表示します。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
シナリオ	「シナリオ」をクリックすると、「シナリオグループ一覧」グループボックスを表示します。画面については、「3.10 「シナリオ」アイコン」を参照してください。
イメージ	「イメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」画面を表示します。画面については、「3.16 「イメージ」アイコン」を参照してください。

			HWイメージ	「HWイメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「HWイメージ」一覧を表示します。画面については、「3.17 イメージの詳細情報」を参照してください。
			OSイメージ	「OSイメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「OSイメージ」一覧を表示します。画面については、「3.17 イメージの詳細情報」を参照してください。
			パッケージ	「パッケージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「パッケージ」の一覧を表示します。画面については、「3.17.1 パッケージイメージの詳細情報」を参照してください。
			バックアップイメージ	「バックアップイメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「バックアップイメージ」の一覧を表示します。画面については、「3.17.3 バックアップイメージの詳細情報」を参照してください。

3.3. 「マシン」アイコン

「マシン」アイコンでは、マシングループ、および管理対象マシンを管理します。
「マシン」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「マシン」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「マシン」からアクセスできます。
「マシン」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ一覧」グループボックスが表示されます。

グループ一覧		
	表示件数	DPMサーバに登録されているグループの表示件数を選択できます。
	「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているグループを削除します。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているグループすべてにチェックが入ります。
	名前	DPMサーバに登録されているグループの名前を表示します。名前をクリックすると、当該グループの詳細情報を表示します。
	サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のグループ数を表示します。
	マシン数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のマシン(管理対象マシン)数を表示します。
	編集	グループ情報の編集を行います。「📖」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」画面が表示されます。「3.5.1 マシングループ編集」を参照してください。

3.3.1. マシングループ追加

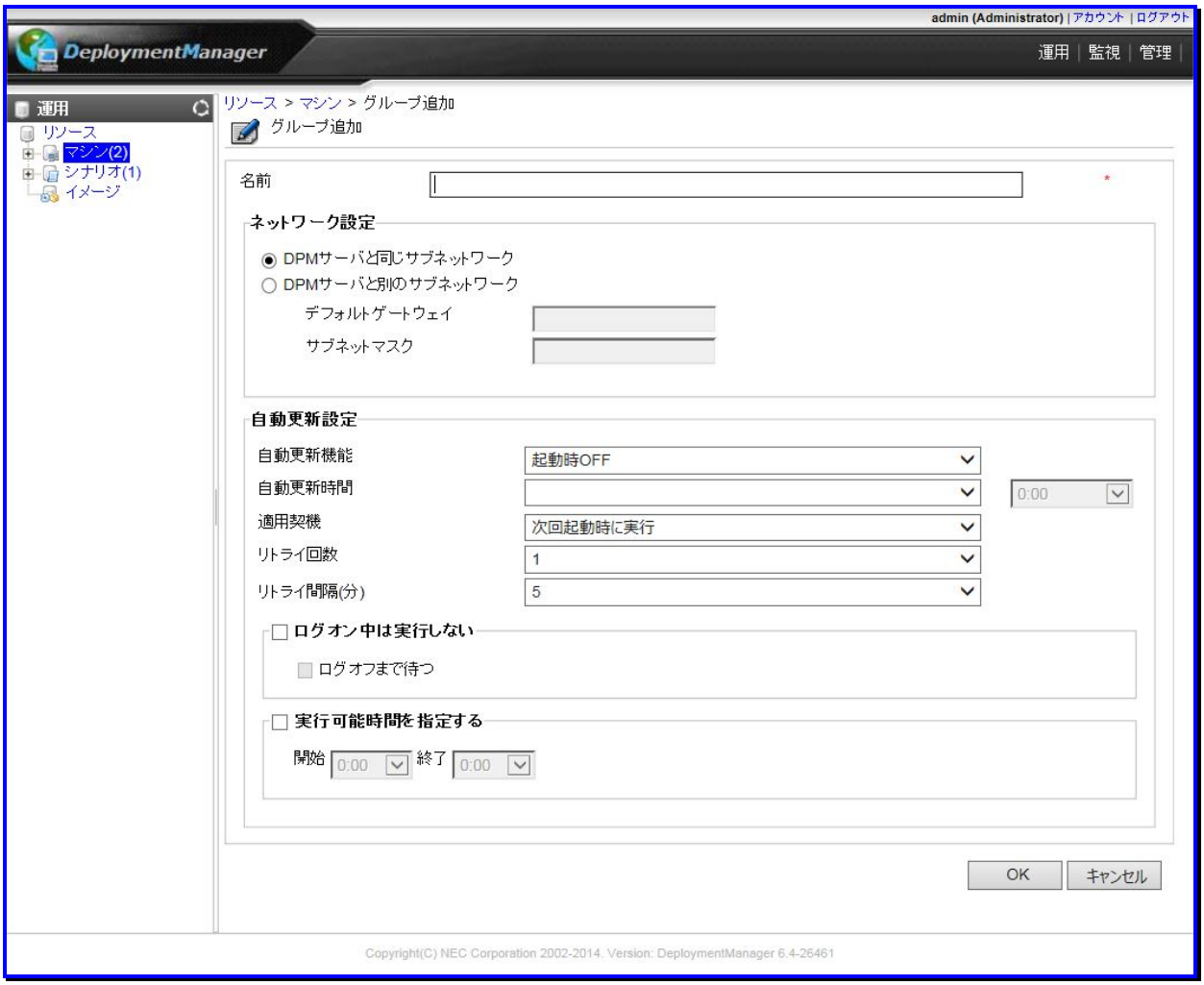
マシングループを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「マシン」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「マシン」をクリックします。

(3) 「マシン」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。



グループ追加	
名前 **(入力必須)**	グループ名を入力します。入力できる文字数は、64Byte以内です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 / ;
ネットワーク設定	グループのネットワークを設定します。 新規に追加されるマシンのデフォルトになります。 デフォルトは、「DPMサーバと同じサブネットワーク」です。
DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
DPMサーバと別のサブネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 グループがルータを介して別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
デフォルトゲートウェイ **(設定必須)**	デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
サブネットマスク **(設定必須)**	サブネットマスクを設定します。
自動更新設定	新規に追加されるマシンのデフォルトになります。 「管理」ビューの「自動更新設定」画面で設定した値がデフォルトとして表示されます。 「自動更新設定」画面については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。
自動更新機能	自動更新機能を設定します。以下の操作が選択できます。 ・ 常にOFF ・ 起動時ON ・ 起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・ 自動更新時間 ・ 適用契機 ・ リトライ回数 ・ リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
自動更新時間	自動更新時間を設定します。
左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎日 ・ 日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。

		適用契機	新規グループの自動更新適用契機のデフォルトを設定します。 ・ すぐ実行 ・ 次回起動時に実行 ・ ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		リトライ回数	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。 デフォルトは、「1」回です。
		リトライ間隔(分)	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 デフォルトは、「5」分です。
		ログオン中は実行しない	チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		ログオフまで待つ	チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		開始	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
		終了	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
OK			「グループ追加」画面の設定内容でマシングループを作成して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「グループ追加」画面の設定内容を作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

なお、マシングループ数、および管理対象マシン台数に関する上限は以下の表のとおりです。

項目	上限値
マシングループ総数(サブマシングループを含む全マシングループの合計数)	1000
マシングループの階層数	20
管理対象マシン総台数(サブマシングループを含めた全マシングループに所属する管理対象マシンの合計数)	40000

3.3.2. マシングループ削除

マシングループを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコンをクリック→「マシン」アイコンをクリックします。

(3) 「グループ一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するマシングループ***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックして、実行してください。

また、「マシングループ削除」は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコンをクリック→→「マシン」アイコンをクリック→「***削除するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。

(4) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

注:

- グループを削除すると、当該グループ配下にあるサブグループと管理対象マシンも削除されます。
- グループ配下に所属するいずれかの管理対象マシンの「状態」欄が以下のステータスの場合は、グループを削除できません。
  - ・ シナリオ実行中
  - ・ シナリオ実行エラー
  - ・ シナリオ実行中断
  - ・ リモート電源ONエラー
  - ・ 自動更新中
  - ・ 自動更新ファイル転送中
  - ・ 自動更新時間設定中

  なお、「状態」欄には表示されませんが、グループに所属するいずれかの管理対象マシンに対して以下を行っている場合もグループを削除できません。
  - ・ ファイル配信
  - ・ ファイル実行
  - ・ ファイル削除
  - ・「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

3.3.3. マシン情報インポート

マシンの情報を一括で登録します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「マシン」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「マシン」をクリックします。

(3) 「マシン」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン情報インポート」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、「CSVファイルの設定」グループボックスの「参照」ボタンからCSVファイルを選択し、エンコードの種類を選択します。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

CSVファイルの設定			
	CSVファイル (設定必須)		CSVファイルのパスを表示します。 「参照」ボタンをクリックして、マシン情報インポート用のCSVファイルを選択します。 「CSVファイルのパス」が空白やCSV形式ではない、またはCSVファイルのフォーマットが無効な場合は、ファイルをインポートできません。 ファイルのインポート後は、「操作」メニュー→「画面更新」をクリックし、正しくインポートされているか確認してください。(※1)
	エンコード		
		UTF-8	エンコードがUTF-8の場合に選択します。
		Shift-JIS	エンコードがShift-JISの場合に選択します。
		ISO-8859-1	エンコードがISO-8859-1の場合に選択します。
OK			「管理対象マシン情報のインポート」画面で設定したCSVファイルの内容でマシンの情報を登録して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			マシンの情報を登録せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 ■ DPM Ver6.0 以降のバージョンの Web コンソールでエクスポートした CSV ファイルをインポートする場合、エンコードは UTF-8 を選択してください。CSV ファイルを手動で作成した場合には、そのファイルと同じエンコードを選択してください。

■ 旧バージョンで作成したマシン情報(CSV ファイル)をインポートする場合は以下に注意してください。

1) DPM Ver5.0より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)をインポートする場合
CSVファイルは、編集せずにそのままインポートできます。
ただし、DPM Ver5.0以降で追加となった「識別名」、「IPアドレス」、「カーネルID」、「カーネル表示名」、「UUID」については、インポートを行うと空欄(指定なし)として設定されます。

2) DPM Ver6.0より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)をインポートする場合
・ エンコードは「Shift-JIS」を選択してください。
・ DPM Ver6.0より前のバージョンではグループの種別(一般グループ/BladeServerグループ)がありましたが、DPM Ver6.0以降はグループの種別がなくなり、一般グループ(DPM Ver6.0以降は単に「グループ」と呼びます)に統一されました。
なお、BladeServerグループで作成したユニットID/スロットID/シナリオ割り当て許可、スロット幅の値は無視されます。シナリオ割り当て許可については、DPM Ver6.0以降、常時シナリオ割り当てとなります。

3) DPM Ver6.02より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)をインポートする場合
DPM Ver6.02以降のバージョンでは、登録するグループの指定方法が、マシンが直属するマシングループの名前からマシンの登録先のグループのパス名に変更となりました。このため、DPM Ver6.02より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)を使用する場合は、グループのパス名を記述するように見直してください。(DPM Ver6.02より前のバージョンで作成した設定ファイルをそのまま使用した場合、「マシン」アイコン直下にマシングループが作成されます。)
また、機能強化で追加となった「識別名」については、インポートを行うと空欄(指定なし)として設定されます。

マシン情報ファイル(CSV ファイル)の記入フォーマットと記入方法を説明します。

・ 1、2 行目は固定(下記に記載の文字列)を記入し、3 行目以降に管理対象マシンの情報を記入します。

```
Version:1.0
管理対象マシン名,識別名,グループパス,MACアドレス,IPアドレス,カーネルID,カーネル表示名,UUID
"1台目のマシン名","1台目の識別名","グループパス","MACアドレス","IPアドレス","カーネルID","カーネル表示名","UUID"
"2台目のマシン名","2台目の識別名","グループパス","MACアドレス","IPアドレス","カーネルID","カーネル表示名","UUID"
…
```

・3行目以降の各項目の記入方法

項目	指定必須/任意	説明
管理対象マシン名	設定必須	管理対象マシン名を入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~ また、数字のみのマシン名は登録できません。
識別名	任意	管理対象マシンの識別名を入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。また、数字のみの識別名は登録できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~
グループパス	設定必須	管理対象マシンを登録するマシングループのフルパスを入力します。 グループパスの最大階層数は20です。 マシングループの階層の区切り文字は"/"(半角スラッシュ)で記述してください。 各階層ともグループ名として入力できる文字数は、64Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 ; 指定したパスに該当するマシングループが存在しない場合は、自動的にマシングループを作成します。
MACアドレス	任意	MACアドレスを入力します。 入力できる文字種は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。 入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。 MACアドレスが複数ある場合は、MACアドレス毎に「|」で区切って記述してください。 例) 「"12-34-56-78-9a-bc|1a-2b-3c-4d-5e-6f"」 MACアドレスを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。 なお、マシン情報のインポートを実行すると、CSVに記述しているすべてのMACアドレスをインポートします。 MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方を入力してください。
IPアドレス	任意	IPアドレスを入力します。 入力できる文字種は、「0～9」です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 複数のIPアドレスをIPアドレス毎に「,」で区切って入力できます。ただし、先頭に記載のIPアドレスのみをインポートします。 IPアドレスを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。

カーネルID	任意	カーネルIDを入力します。 カーネルIDを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。
カーネル表示名	任意	カーネル表示名を入力します。 カーネル表示名を省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。
UUID	任意	UUIDを入力します。 入力できる文字は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。 入力は、「xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx」の形式で入力してください。UUIDを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。 MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方を入力してください。

注:

- 「"」を含む文字列を指定する場合は、「""」を記入し、項目自体を「"」で囲んでください。
  例)
  グループ名が「/grou"p/」の場合、「"/grou""p/"」と記入してください。
- 「マシン情報エクスポート」で出力したCSVファイルを使用した登録もできます。出力したCSVファイルについては、「3.3.4 マシン情報エクスポート」を参照してください。

例)

以下の表の内容でマシン情報を登録するCSVファイルを作成する場合は、sample01.csvのようになります。

管理対象マシン名	識別名	グループパス	MAC アドレス	IP アドレス	カーネル ID	カーネル表示名	UUID
COMP1	IDEN1	/GROUP1/GROUP2/GROUP3	00-11-22-33-44-55	なし	なし	なし	なし
COMP2	IDEN2		00-11-22-33-44-66	192.168.0.1	なし	なし	b4e8f2e4-a2ff-4464-a97c-7e93fef0542a
COMP3	なし		00-11-22-33-44-77	192.168.0.2	kernel1	NEC Express5800 001	なし
COMP4	IDEN4	/GROUP4	00-11-22-33-44-88 00-11-22-33-44-99	192.168.0.3 192.168.0.4	kernel2	NEC Express5800 002	8dda9b94-6918-42ed-bd4c-1aa3cfec750c

・sample01.csv

```
Version:1.0
管理対象マシン名,識別名,グループパス,MACアドレス,IPアドレス,カーネルID,カーネル表示名,UUID
"COMP1","IDEN1","/GROUP1/GROUP2/GROUP3","00-11-22-33-44-55","--","--","--","--"
"COMP2","IDEN2","/GROUP1/GROUP2/GROUP3","00-11-22-33-44-66","192.168.0.1","--","--","b4e8f2e4-a2ff-4464-a97c-7e93fef0542a"
"COMP3","","/GROUP1/GROUP2/GROUP3","00-11-22-33-44-77","192.168.0.2","kernel1","NEC Express5800 001","--"
"COMP4","IDEN4","/GROUP4","00-11-22-33-44-88|00-11-22-33-44-99","192.168.0.3,192.168.0.4","kernel2","NEC Express5800 002","8dda9b94-6918-42ed-bd4c-1aa3cfec750c"
```

3.3.4. マシン情報エクスポート

マシンの情報をCSV形式のファイルにエクスポートします。マシン情報エクスポートを一度行うと、簡単にフォーマットの作成ができます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「マシン」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「マシン」をクリックします。

(3) 「マシン」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン情報エクスポート」をクリックします。

(4) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてください。

注:

- サブグループ配下を含むすべてのマシンがエクスポートされます。
- エクスポート時にUTF-8にエンコードされます。
- エクスポートされるのは、マシンが登録されているグループのみです。
- 「ネットワーク設定」と「自動更新時間設定」情報はエクスポートされません。インポートした場合のデフォルトは、登録されているグループの設定と同じになります。
- 管理対象マシンが複数のMACアドレスを持っている場合は、すべてのMACアドレスをエクスポートします。

3.4. 「グループ」アイコン

「グループ」アイコンでは、マシンをグループごとに分類、管理します。
「グループ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「マシン」アイコン→「グループ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「マシン」→「グループ」アイコンからアクセスできます。
「グループ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ詳細」、「管理対象マシン一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。

3.5. マシングループ詳細

グループの詳細情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「グループ詳細を表示するマシングループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「グループ詳細」、「管理対象マシン一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。

グループ詳細	グループの詳細を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
親グループ名	サブマシングループ(第2階層以下のグループ)の場合のみ、親グループ名が表示されます。マシン直下のマシングループ(第1階層のグループ)の場合、親グループ名は表示されません。
名前	グループ名を表示します。
ネットワーク設定	グループのネットワーク設定を表示します。
ネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークかどうかを表示します。
デフォルトゲートウェイ	DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイが表示されます。
サブネットマスク	DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクが表示されます。編集はできません。
自動更新設定	グループの自動更新設定を表示します。
自動更新機能	自動更新機能を表示します。
自動更新時間	自動更新時間を表示します。
適用契機	自動更新適用契機についての動作を表示します。
リトライ回数	リトライ回数を表示します。
リトライ間隔(分)	リトライ間隔を表示します。
ログオン中は実行しない	自動更新の開始時に、管理対象マシンにログオンユーザが存在する場合の動作を表示します。 ・「はい」の場合 ログオンユーザが存在すると自動更新を中止します。 ・「いいえ」の場合 ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。
ログオフまで待つ	「ログオン中は実行しない」が「はい」の場合の動作を表示します。 「はい」の場合、中止した自動更新は、ユーザがログオフした時に開始します。 「いいえ」の場合、次回の自動更新契機となります。
実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を表示します。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。
開始時間	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。
終了時間	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。

管理対象マシン一覧	
表示件数	グループに登録されている管理対象マシンの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク	・「マシン移動」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている管理対象マシンのグループ間移動を行います。 複数チェックを入れると、複数の管理対象マシンをまとめてグループ間移動できます。 ・「マシン削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている管理対象マシンを削除します。 複数チェックを入れると、複数の管理対象マシンをまとめて削除できます。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されている管理対象マシンすべてにチェックが入ります。
「アクション」メニュー	選択した管理対象マシンの操作を行います。「アクション」メニューは、以下から選択できます。 ・ 電源ON ・ シャットダウン ・ 電源管理スケジュール ・ シナリオ割り当て ・ シナリオ割り当て解除 ・ シナリオ実行 ・ シナリオ実行中断 ・ エラー解除 ・ 中断解除 ・ ファイル/フォルダ詳細 ・ ファイル配信 「電源管理スケジュール」を選択した場合は、「電源管理スケジュール」画面が表示されます。画面については、「3.8.5 電源管理スケジュール」を参照してください。
名前	グループに登録されている管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。編集はできません。
IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。編集はできません。
MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。編集はできません。
状態	管理対象マシンの状態を表示します。状態の種類、および説明ついては、「3.7.1 マシンのステータス」を参照してください。
電源	マシンの電源状態を表示します。
シナリオ名	マシンに割り当てられたシナリオ名を表示します。 「シナリオ名」をクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ詳細」画面が表示されます。 画面については、「3.15 シナリオの詳細情報」を参照してください。
編集	管理対象マシンの編集を行います。「」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「管理対象マシン編集」画面が表示されます。編集画面については、「3.7.2 管理対象マシン編集」を参照してください。
サブグループ一覧	
表示件数	グループに登録されているサブグループの表示件数を選択できます。
「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているサブグループを削除します。 複数チェックを入れると、複数のサブグループをまとめて削除できます。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているサブグループすべてにチェックが入ります。
名前	グループに登録されているサブグループの名前を表示します。編集はできません。
サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のサブグループ数を表示します。

	マシン数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のマシン(管理対象マシン)数を表示します。
	編集	サブグループの編集を行います。「📖」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」画面が表示されます。編集画面については、「3.5.1 マシングループ編集」を参照してください。

3.5.1. マシングループ編集

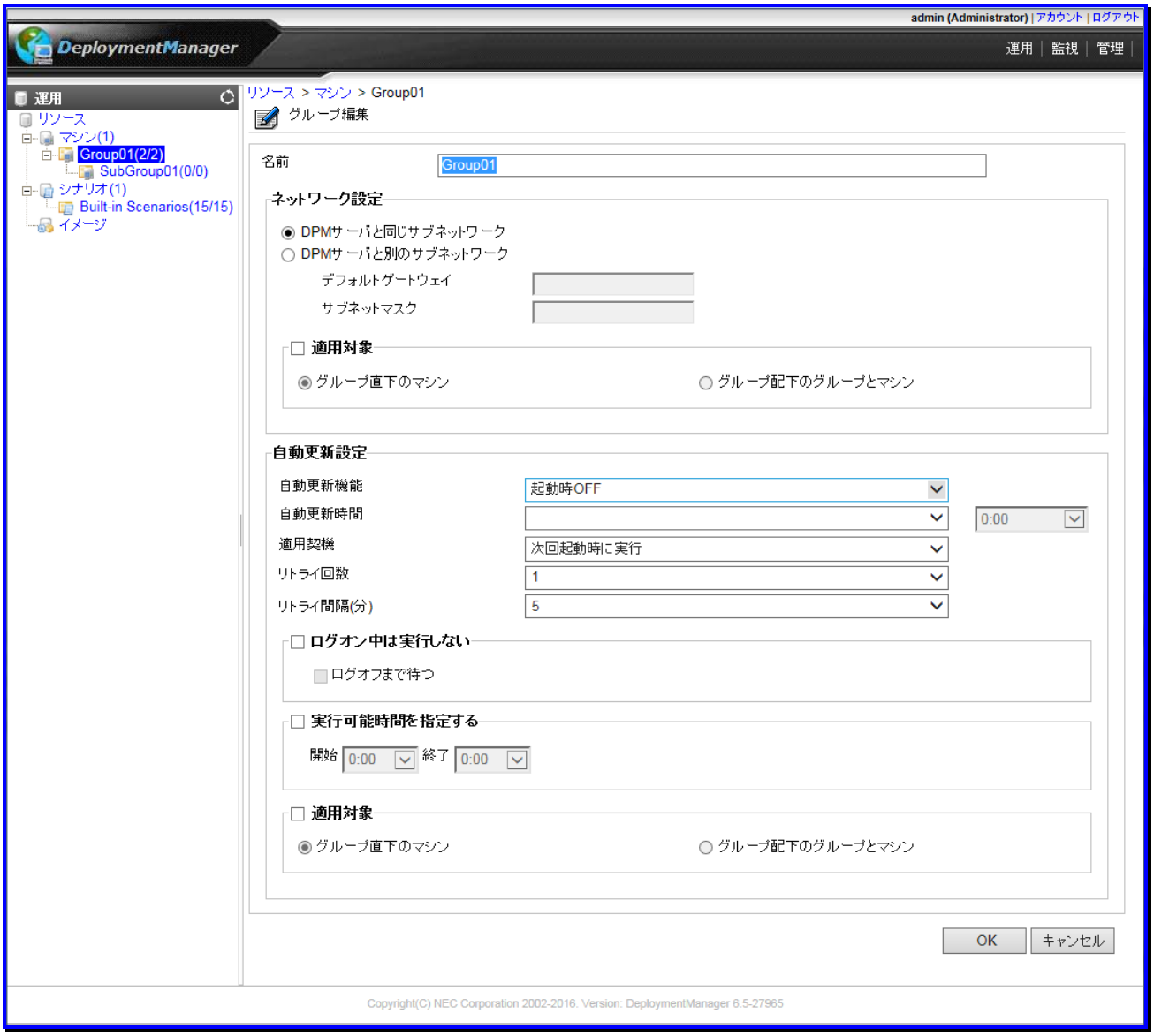
マシングループを編集します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***編集するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ編集」をクリックします。

(4) 「OK」ボタンをクリックすると、メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集してください。



グループ編集			
	親グループ名		サブマシングループ(2階層以下のグループ)の場合のみ、親グループ名が表示されます。 マシン直下のマシングループ(第1階層のグループ)の場合、親グループ名は表示されません。
	名前 (入力必須)		グループ名を入力します。入力できる文字数は、64Byte以内です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 / ;
	ネットワーク設定		グループのネットワーク設定を編集します。 デフォルトは、「グループ追加」画面で設定した値です。「グループ追加」画面ついては、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。 グループのネットワーク設定を編集した場合は、新たに追加されるマシンのデフォルトになります。
		DPM サーバと同じサブネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
		DPM サーバと別のサブネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 グループがルータを介して別のサブネットワークに属する場合に設定してください。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・ デフォルトゲートウェイ ・ サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
			デフォルトゲートウェイ (設定必須)	デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
			サブネットマスク (設定必須)	サブネットマスクを設定します。
	適用対象		「**適用対象**」チェックボックスにチェックを入れると、ネットワーク設定をこのグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映できます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		グループ直下のマシン	設定内容をグループ直下のマシンに反映する場合に選択します。 デフォルトは、「グループ直下のマシン」が選択されています。
		グループ配下のグループとマシン	設定内容を配下のグループとマシンに反映する場合に選択します。
	自動更新設定		グループの自動更新設定を編集します。 デフォルトは、「グループ追加」画面で設定した値です。「グループ追加」画面ついては、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。 グループの自動更新設定の編集を行った場合は、新たに追加されるマシンのデフォルトになります。

		自動更新機能	自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・ 常にOFF ・ 起動時ON ・ 起動時OFF デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・ 自動更新時間 ・ 適用契機 ・ リトライ回数 ・ リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		自動更新時間	自動更新時間を設定します。
		左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎日 ・ 日曜日～土曜日 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		適用契機	パッケージの適用契機の動作を設定します。以下から選択できます。 ・ すぐ実行 ・ 次回起動時に実行 ・ ユーザ確認画面を表示 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。) デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		リトライ回数	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		リトライ間隔(分)	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		ログオン中は実行しない	チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。

		ログオフまで待つ	チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		開始	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
		終了	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
	適用対象		「適用対象」チェックボックスにチェックを入れると、自動更新設定をこのグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映できます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		グループ直下のマシン	設定内容をグループ直下のマシンに反映する場合に選択します。 デフォルトは、「グループ直下のマシン」が選択されています。
		グループ配下のグループとマシン	設定内容を配下のグループとマシンに反映する場合に選択します。
OK			「グループ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「グループ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

■ 管理対象マシンの「状態」欄が以下のステータスの場合は、グループを編集できません。
- シナリオ実行中
- シナリオ実行エラー
- シナリオ実行中断
- リモート電源ONエラー
- 自動更新中
- 自動更新ファイル転送中
- 自動更新時間設定中

3.5.2. マシングループ削除

マシングループを削除します。
詳細については、「3.3.2 マシングループ削除」を参照してください。

3.5.3. サブマシングループ追加

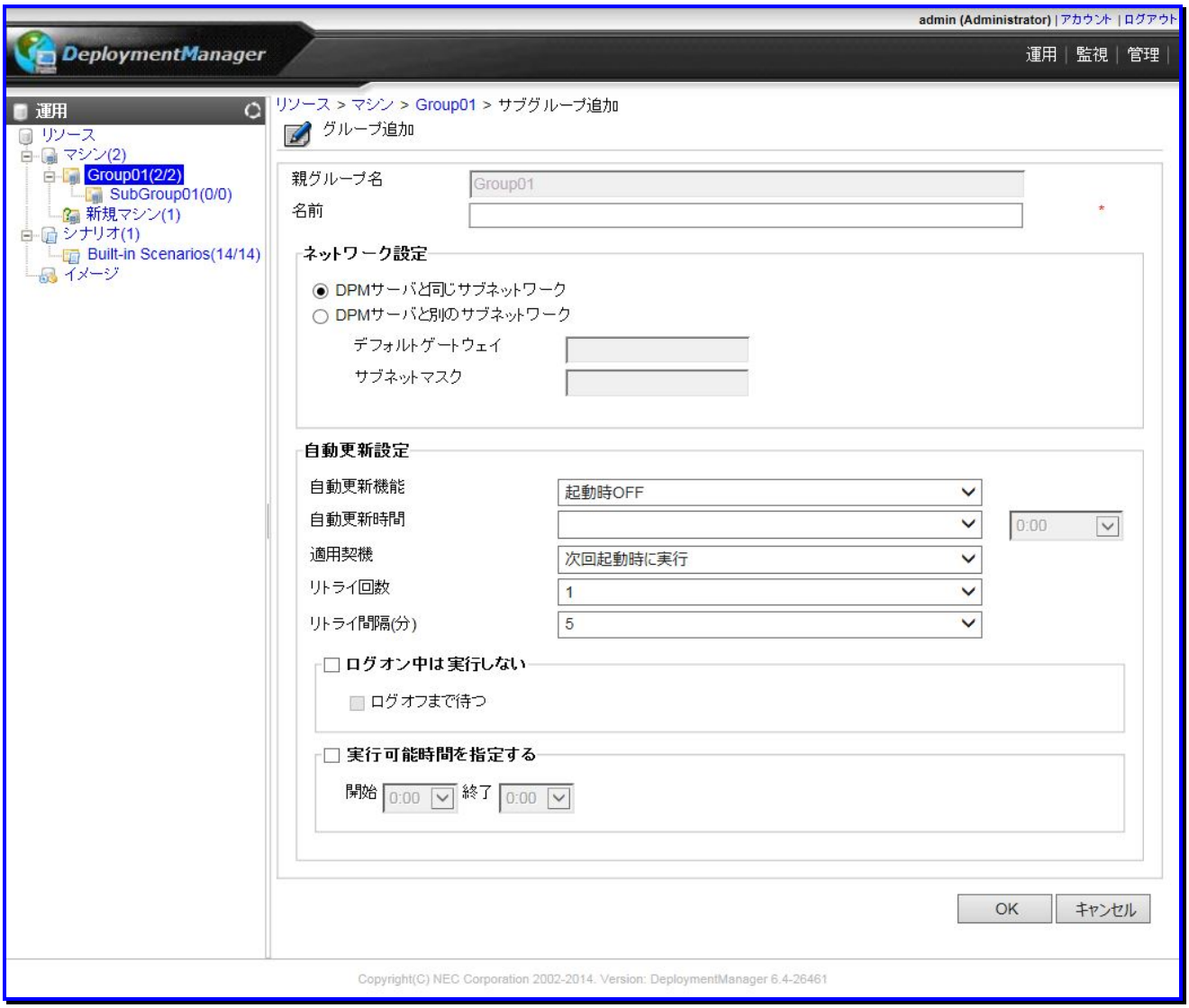
サブマシングループを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「*サブグループを追加するマシングループ*」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「サブグループ追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、サブグループ情報を入力し、各項目を設定します。



サブグループ追加	
親グループ名	親グループの名前を表示します。編集はできません。
名前 **(入力必須)**	サブグループ名を入力します。入力できる文字数は、64Byte以内です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 / ;
ネットワーク設定	サブグループのネットワークを設定します。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。 なお、サブグループでネットワークを設定した場合は、当該グループ配下にあるマシンのデフォルトになります。
DPM サーバと同じサブネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
DPM サーバと別のサブネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 サブグループがルータを介して別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・ デフォルトゲートウェイ ・ サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
デフォルトゲートウェイ **(設定必須)**	デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
サブネットマスク **(設定必須)**	サブネットマスクを設定します。
自動更新設定	サブグループの自動更新設定を行います。 なお、サブグループで自動更新設定を行った場合は、当該グループ配下にあるマシンのデフォルトになります。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
自動更新機能	自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・ 常にOFF ・ 起動時ON ・ 起動時OFF 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定は無効になります。 ・ 自動更新時間 ・ 適用契機 ・ リトライ回数 ・ リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。) デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
自動更新時間	自動更新時間を設定します。
左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎日 ・ 日曜日～土曜日 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。

		適用契機	パッケージ適用契機についての動作を設定します。以下から選択できます。 ・ すぐ実行 ・ 次回起動時に実行 ・ ユーザ確認画面を表示 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。) デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		リトライ回数	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		リトライ間隔(分)	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		ログオン中は実行しない	チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		ログオフまで待つ	チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		開始	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		終了	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
OK			「グループ追加」画面の設定内容でサブマシングループを作成して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「グループ追加」画面の設定内容を作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

なお、マシングループ数、および管理対象マシン台数に関する上限は以下の表のとおりです。

項目	上限値
マシングループ総数(サブマシングループを含む全マシングループの合計数)	1000
マシングループの階層数	20
管理対象マシン総台数(サブマシングループを含めた全マシングループに所属する管理対象マシンの合計数)	40000

3.5.4. サブマシングループ削除

サブマシングループを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「*サブマシングループを削除するマシングループ*」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「サブグループ一覧」グループボックスが表示されますので、「*削除するマシングループ*」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、サブマシングループの削除は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「*削除するサブマシングループ*」アイコンをクリックします。

(3) 「サブマシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。

(4) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

注:

■ グループ配下に所属するいずれかの管理対象マシンの「状態」欄が以下のステータスの場合は、グループを削除できません。

・ シナリオ実行中
・ シナリオ実行エラー
・ シナリオ実行中断
・ リモート電源ONエラー
・ 自動更新中
・ 自動更新ファイル転送中
・ 自動更新時間設定中

なお、「状態」欄には表示されませんが、グループに所属するいずれかの管理対象マシンに対して以下を行っている場合もグループを削除できません。

・ ファイル配信
・ ファイル実行
・ ファイル削除
・ 「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

3.5.5. 管理対象マシンの登録

管理対象マシンを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコンをクリック→「***管理対象マシンを追加するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) グループに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

DeploymentManager

運用 | 監視 | 管理 |

運用

- リソース
- マシン(2)
  - Group01(2/2)
    - SubGroup01(0/0)
  - 新規マシン(1)
- シナリオ(1)
  - Built-in Scenarios(14/14)
- イメージ

リソース > マシン > Group01 > 管理対象マシン追加

管理対象マシン追加

グループ名: Group01

マシン名: *

識別名:

MACアドレス:

UUID:

IPアドレス:

Deploy-OS: デフォルト値を使用

シナリオ設定

○ シナリオ割り当て

シナリオ名: 参照

○ シナリオ割り当て解除

シナリオ実行管理スケジュール

◉ 一回のみ　○ 日単位　○ 週単位　○ 月単位

日付: 2015/01/07

時刻: 時 分

電源管理スケジュール

◉ 一回のみ　○ 曜日指定

電源ON時刻: 2015/01/07 時 分

シャットダウン時刻: 2015/01/07 時 分

カウントダウンダイアログを表示しない

ネットワーク設定

◉ DPMサーバと同じサブネットワーク

○ DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ:

サブネットマスク:

自動更新設定

自動更新機能: 起動時OFF

自動更新時間: 0:00

適用契機: 次回起動時に実行

リトライ回数: 1

リトライ間隔(分): 5

ログオン中は実行しない

ログオフまで待つ

実行可能時間を指定する

開始 0:00 終了 0:00

OK　キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2014. Version: DeploymentManager 6.4-26461

管理対象マシン追加	
グループ名	管理対象マシンの所属するグループの名前を表示します。編集はできません。
マシン名 **(入力必須)**	管理対象マシン名を入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。また、数字のみのマシン名は登録できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~ 追加するマシンに既にOSがインストールされている場合は、必ずマシンと同じ名前にしてください。 DPMクライアントがインストールされている場合は、本オプションで指定したマシン名と実際のマシン名が違っていても、マシンを電源ONしたときに自動で実際のマシン名に変更されます。
識別名	管理対象マシンの識別名を入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。また、数字のみの識別名は登録できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~ 同じDPMサーバ配下に同じ識別名は指定できません。
MACアドレス **(MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方入力必須)**	管理対象マシンのMACアドレスを入力します。 入力できる文字は16進数(0～9/a～f/A～F)です。 入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。
UUID **(MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方入力必須)**	管理対象マシンのUUIDを入力します。 入力できる文字は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。入力は、「xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx」の形式で入力してください。 すべて「0」、またはすべて「f」/「F」を入力した場合は、DPMでは入力値がないものとみなします。 UUIDが不明な場合は、UUIDを空にしてマシンを登録した後に、該当のマシンをネットワークブートさせるか、DPMクライアントのインストールを行ってください。ネットワークブート、またはDPMクライアントのインストールを行うことでUUIDが補完されます。(※1)
IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを入力します。 入力できる文字は、半角数字です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 同じDPMサーバ配下で同じIPアドレスは指定できません。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、DPMサーバと通信するIPアドレスを入力してください。 管理対象マシンにDPMクライアントをインストールしない場合は必ずIPアドレスを入力してください。

	Deploy-OS		バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを選択します。 各機種で設定する値については、以下の製品Webサイトを参照してください。 https://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/dousa2.html リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 使用している機種で設定するDeploy-OSがリストボックスに表示されない場合は、上記製品Webサイトから機種対応モジュールを入手してDPMサーバにインストールすると、対応するDeploy-OSがリストボックスに表示されるようになります。
	シナリオ設定		
		シナリオ割り当て	管理対象マシンにシナリオ割り当てする場合に選択します。「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。
		シナリオ名	管理対象マシンに割り当てるシナリオを設定します。 「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
		シナリオ割り当て解除	シナリオの割り当てを解除する場合に選択します。
	シナリオ実行管理スケジュール		「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールが設定できます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。
	一回のみ	**1回のみ、スケジュールを実行します。**	
		日付 (設定必須)	日付を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 使用できる文字は、半角数字です。
	日単位	**開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		間隔 (設定必須)	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 デフォルトは、「1日に一回」です。

	週単位	**毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 **(設定必須)**	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		曜日指定 **(設定必須)**	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	月単位	**毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始月 **(設定必須)**	開始月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。
		終了月	終了月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		毎月 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「毎月」を選択した場合は、リストボックスから日を設定します。 例) 「月末」日
		曜日 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「曜日」を選択した場合は、リストボックスから曜日を設定します。 例) 第「1」「月曜日」
	電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。
	1回のみ	**1回のみ、スケジュールを実行します。**	
		電源ON時刻 **(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)**	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。

			シャットダウン時刻(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「 」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
			カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
	曜日指定	**設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**		
			電源ON時刻(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
			シャットダウン時刻(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
			カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
			曜日指定(設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	ネットワーク設定			
		DPMサーバと同じサブネットワーク		DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
		DPMサーバと別のサブネットワーク		DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 管理対象マシンがルータを介して別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・ デフォルトゲートウェイ ・ サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
			デフォルトゲートウェイ(設定必須)	デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
			サブネットマスク(設定必須)	サブネットマスクを設定します。

	自動更新設定		
		自動更新機能	自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・ 常にOFF ・ 起動時ON ・ 起動時OFF 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・ 自動更新時間 ・ 適用契機 ・ リトライ回数 ・ リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。) デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		自動更新時間	自動更新時間を設定します。
		左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎日 ・ 日曜日～土曜日 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		適用契機	パッケージ適用契機についての動作を編集します。以下から選択できます。 ・ すぐ実行 ・ 次回起動時に実行 ・ ユーザ確認画面を表示 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。) デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		リトライ回数	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		リトライ間隔(分)	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		ログオン中は実行しない	チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		ログオフまで待つ	チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。

		実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		開始	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
		終了	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。
OK			「管理対象マシン追加」画面の設定内容でマシンを追加して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「管理対象マシン追加」画面の設定内容でマシンを追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1　DPMは登録されたマシンをUUIDで識別するため、UUIDが未登録の場合は、正常にSSC連携が行われないことがあります。その場合はUUIDを登録してください。

3.5.6. マシン移動

管理対象マシンをグループ間移動します。管理対象マシンの状態(自動更新の状態/シナリオの状態/電源の状態)を問わず、いつでも移動できます。

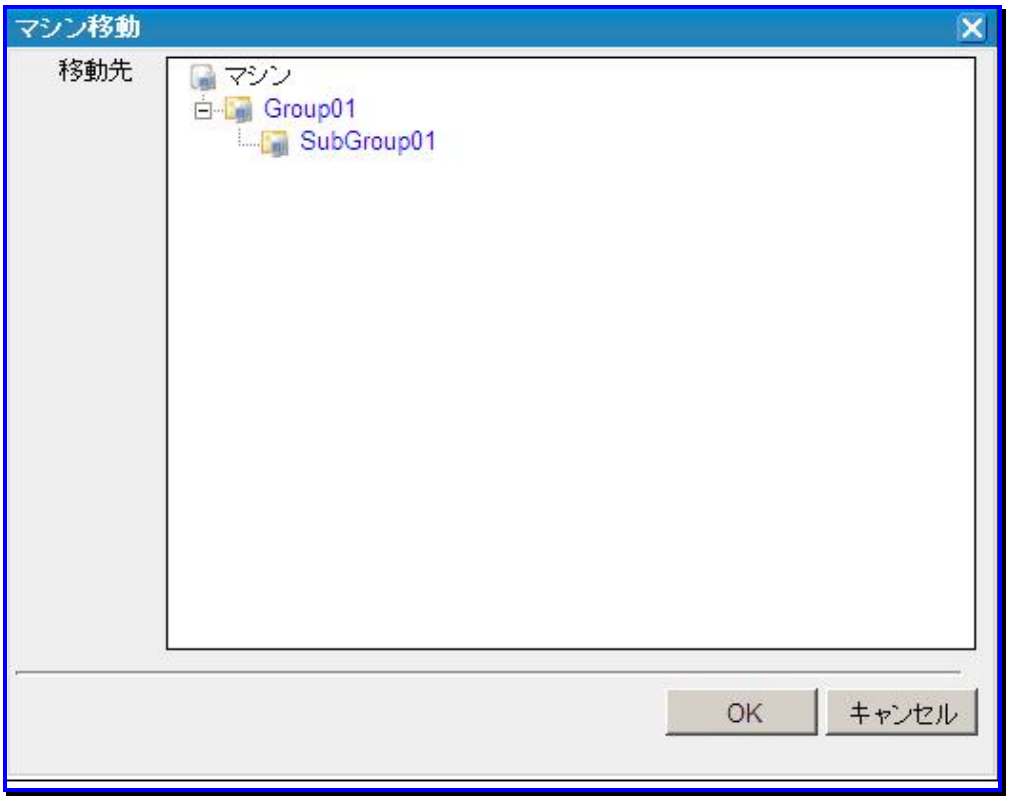
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***移動するマシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「マシン移動」をクリックします。

(5) 以下のダイアログボックスが表示されますので、「***移動先のグループ***」を指定します。



(6) 「OK」ボタンをクリックします。

また、マシン移動は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***移動するマシン***」の名前をクリックします。

(4) マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン移動」をクリックします。

(5) 「マシン移動」ダイアログボックスが表示されますので、「***移動先のグループ***」を指定します。

(6) 「OK」ボタンをクリックします。

3.5.7. マシン削除

管理対象マシンを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するマシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「マシン削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、マシン削除は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するマシン***」の名前をクリックします。

(4) マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン削除」をクリックします。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

注:

■ 管理対象マシンの「状態」欄が以下のステータスの場合は、管理対象マシンを削除できません。
- シナリオ実行中
- シナリオ実行中断
- シナリオ実行エラー
- リモート電源ONエラー
- 自動更新中
- 自動更新ファイル転送中
- 自動更新時間設定中

なお、「状態」欄には表示されませんが、管理対象マシンに対して以下を行っている場合も管理対象マシンを削除できません。
- ファイル配信
- ファイル実行
- ファイル削除
- 「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

3.5.8. ネットワーク一括設定

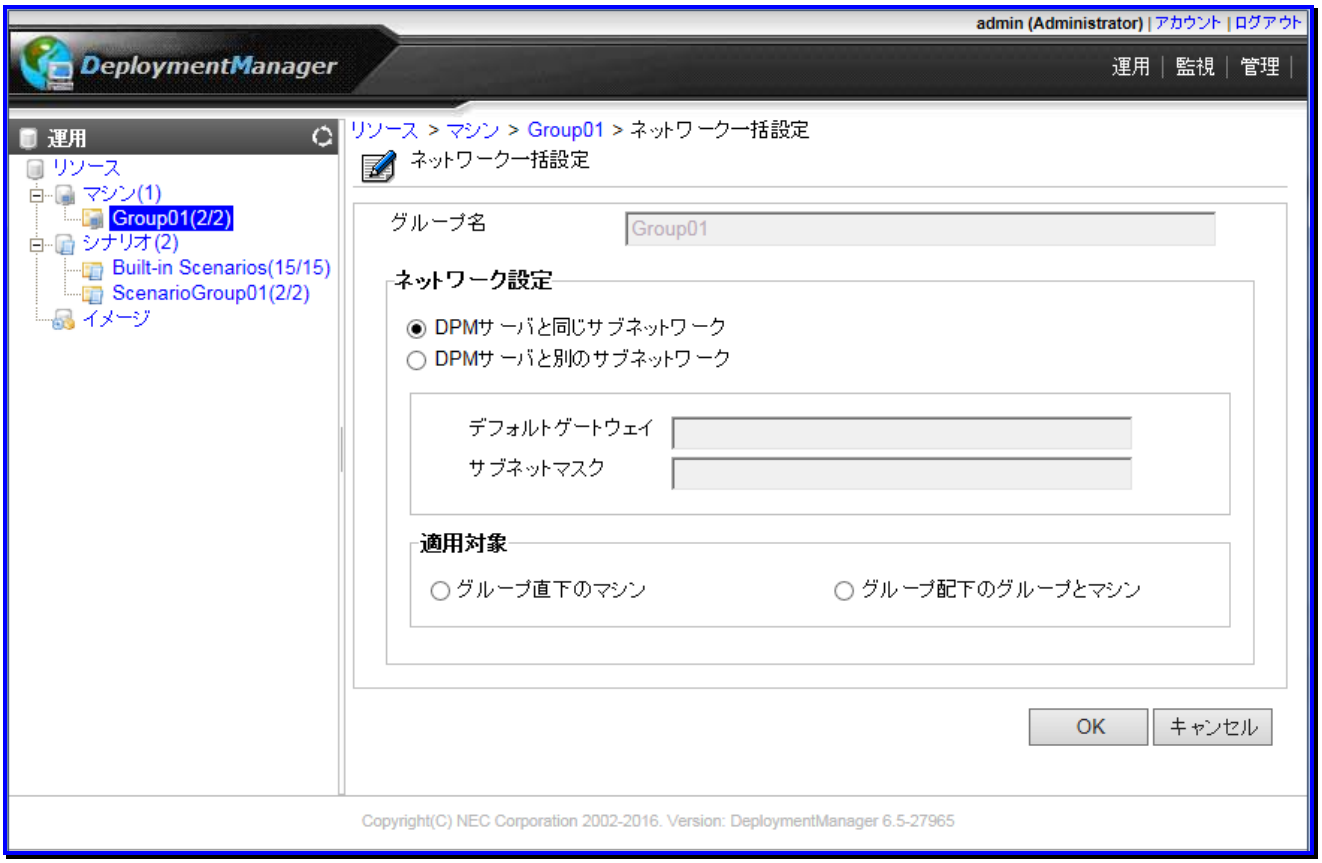
ネットワーク情報を一括設定します。ネットワーク一括設定では、適用対象としてグループ直下のマシン、または配下のグループとマシンに適用できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***ネットワーク一括設定するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「一括設定」より「ネットワーク設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。



ネットワーク一括設定				
	グループ名			グループの名前を表示します。編集はできません。
	ネットワーク設定			ネットワーク設定を行います。 デフォルトは、「DPMサーバと同じサブネットワーク」が選択されています。
		DPMサーバと同じサブネットワーク		DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
		DPMサーバと別のサブネットワーク		DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 「適用対象」に指定するグループや、管理対象マシンがルータを介して別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・ デフォルトゲートウェイ ・ サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
			デフォルトゲートウェイ(設定必須)	デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
			サブネットマスク(設定必須)	サブネットマスクを設定します。
	適用対象			ネットワーク一括設定の適用対象を設定します。
		グループ直下のマシン		直下のマシンに反映する場合に選択します。
		グループ配下のグループとマシン		当該グループ配下のすべてのグループとマシンに反映する場合に選択します。
OK				「ネットワーク一括設定」画面の設定内容で一括設定して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル				「ネットワーク一括設定」画面の設定内容で一括設定せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.5.9. 自動更新時間一括設定

グループに登録されている管理対象マシンに自動更新時間を一括設定します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***自動更新時間一括設定するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「一括設定」より「自動更新時間設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

自動更新時間一括設定			
	グループ名		グループの名前を表示します。編集はできません。
	自動更新時間設定		
		自動更新機能	グループの自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・ 常にOFF ・ 起動時ON ・ 起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・ 自動更新時間 ・ 適用契機 ・ リトライ回数 ・ リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		自動更新時間	グループの自動更新時間を設定します。
			左のリストボックス 自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎日 ・ 日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
			右のリストボックス 「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
		適用契機	パッケージ適用契機を以下から選択します。 ・ すぐ実行 ・ 次回起動時に実行 ・ ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		リトライ回数	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。 デフォルトは、「1」回です。
		リトライ間隔(分)	DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 デフォルトは、「5」分です。
		ログオン中は実行しない	チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		ログオフまで待つ	チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。

		実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		開始	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
		終了	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
	適用対象		自動更新時間一括設定の適用対象を設定します。
		グループ直下のマシン	直下のマシンに反映する場合に選択します。
		グループ配下のグループとマシン	配下のすべてのグループとマシンに反映する場合に選択します。
OK			「自動更新時間一括設定」画面の設定内容で一括設定して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「自動更新時間一括設定」画面の設定内容で一括設定せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.5.10. 自動更新通知一括発行

グループに登録されている管理対象マシンに自動更新通知発行を一括実行します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***自動更新通知発行一括実行するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「操作」メニューが表示されますので、「グループ一括操作」より「自動更新通知発行」をクリックします。

注:

■ 自動更新通知発行では、以下の自動更新契機と同じで、自動更新設定(※1)と関係なく、即座に自動更新が行われます。

- 緊急度が最高のパッケージをパッケージWebサーバから管理サーバへダウンロードした時。
- イメージビルダで緊急度が最高のパッケージを登録して「パッケージの登録/修正画面」を閉じた時。

※1

- 自動更新時間
- ログオン中は実行しない
- ログオフまで待つ
- 実行可能時間を指定する

---

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

自動更新通知一括発行			
	グループ名		グループの名前を表示します。編集はできません。
	適用対象		自動更新通知一括発行の適用対象を設定します。
		グループ直下のマシン	直下のマシンに通知する場合に選択します。
		グループ配下のグループとマシン	配下のすべてのマシンに通知する場合に選択します。
OK			「自動更新通知一括発行」画面の設定内容で一括通知して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「自動更新通知一括発行」画面の設定内容で一括通知せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.6. グループへのメニュー操作

グループで使用する操作に関するメニューについて説明します。

3.6.1. グループ一括操作

グループに所属するすべての管理対象マシンに対して、「シナリオ割り当て」、「シナリオ割り当て解除」、「電源ON」、「シャットダウン」、「シナリオ実行」、「シナリオ実行中断」を一括操作します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***一括操作するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「操作」メニューの「グループ一括操作」から、それぞれ操作してください。なお、各「操作」メニューに対する設定項目/注意事項については、管理対象マシンに対する「操作」メニューと同様となります。「3.8 マシンへのメニュー操作」の該当章も参照してください。

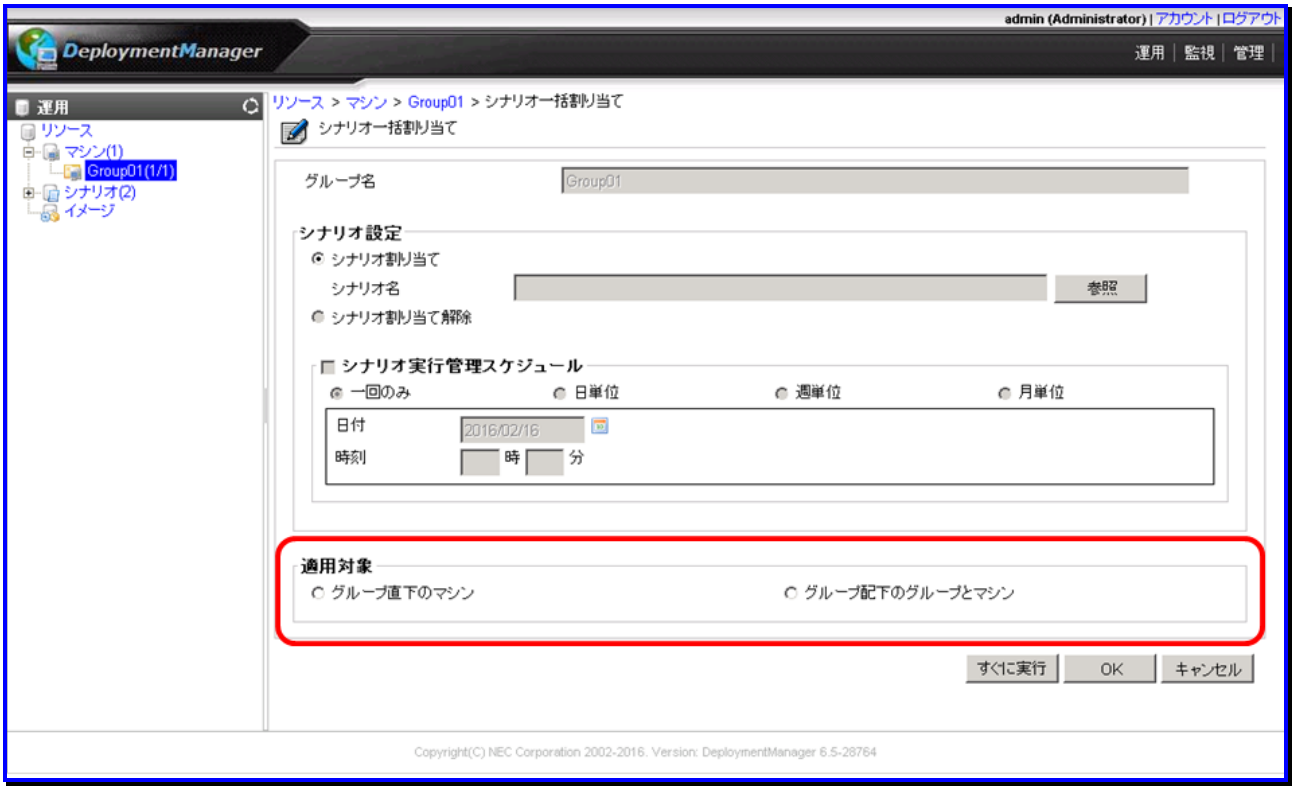
グループ一括操作	
シナリオ割り当て	グループに所属するすべての管理対象マシンに一括シナリオ割り当てします。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シナリオ割り当て解除	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括シナリオ割り当て解除します。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
電源ON	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括電源ONします。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シャットダウン	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括シャットダウンします。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シナリオ実行	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括シナリオ実行します。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シナリオ実行中断	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括シナリオ実行中断します。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
自動更新通知発行	グループに所属するすべての管理対象マシンに一括自動更新通知発行します。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。

注:

- シナリオ実行中断を行った管理対象マシンは、実行中のシナリオが中断された後、PXE ブートするタイミングで電源 OFF されます。
- 同時実行可能台数を超えた管理対象マシンにシナリオ実行を行っている場合は、タイミングによっては、管理対象マシンで実行処理を開始した後にシナリオ実行中断処理が行われる可能性があります。

例)

「操作」メニューの「グループ一括操作」から「シナリオ割り当て」をクリックした場合は、以下の画面が表示されます。



シナリオ一括割り当て		
	グループ名	グループの名前を表示します。編集はできません。
	適用対象	一括操作の適用対象を設定します。
		グループ直下のマシン 直下のマシンにシナリオ割り当てを適用する場合に選択します。
		グループ配下のグループとマシン 配下すべてのマシンにシナリオ割り当てを適用する場合に選択します。
すぐに実行		適用対象のマシンに、すぐにシナリオ実行します。適用対象のマシンにシナリオが割り当てられていない場合は、エラーメッセージが表示されます。
OK		画面上で設定した内容で一括操作して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		画面上で設定した内容で一括操作せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.7. 管理対象マシン詳細

マシンの詳細情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***詳細を表示するマシン***」の名前をクリックします。

(4) メインウィンドウに「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されます。

管理対象マシン詳細		
	マシン名	管理対象マシンのマシン名を表示します。編集はできません。
	識別名	管理対象マシンの識別名を表示します。編集はできません。
	グループ	管理対象マシンの所属するグループの名前を表示します。編集はできません。
	UUID	管理対象マシンのUUIDを表示します。
	IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、すべてのIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報がない場合は、空白を表示します。
	IPv6アドレス	管理対象マシンのIPv6アドレスを表示します。 管理対象マシンに複数のIPv6アドレスが存在する場合は、すべてのIPv6アドレスを表示します。IPv6アドレスの情報がない場合は、空白を表示します。
	MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。 管理対象マシンのキーとなるMACアドレスに(*)が付きます。
	Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを表示します。
	状態	管理対象マシンの状態を表示します。状態については、「3.7.1 マシンのステータス」を参照してください。 「状態」をクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」画面が表示されます。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
	電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。電源状態については、「3.8.1 電源ON」から「3.8.2 シャットダウン」を参照してください。
	オペレーティングシステム	管理対象マシンのOS名を表示します。(※1)
	サービスパック	管理対象マシンのサービスパックの情報を表示します。
	OS言語	管理対象マシンのOS言語を表示します。
	HotFix/アプリケーション	HotFix、およびアプリケーションがある場合は、「詳細」を表示します。 「詳細」をクリックすると、メインウィンドウに「HotFix/アプリケーション一覧」画面が表示されます。 詳細については「3.7.1.1 HotFix/アプリケーション一覧」を参照してください。
	パッケージ適用状況	「詳細」リンクを表示します。 「詳細」をクリックすると、メインウィンドウに「パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」画面が表示されます。 画面については、「3.7.1.2 パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」を参照してください。
	ディスク情報	「詳細」リンクを表示します。 「詳細」をクリックすると、メインウィンドウに「ディスク情報(ディスクビューア)」画面が表示されます。 画面については、「3.7.1.3 ディスク情報」を参照してください。
	シナリオ割り当て	
		シナリオ名	管理対象マシンに割り当てられたシナリオ名を表示します。 「シナリオ名」をクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ詳細」画面が表示されます。 画面については、「3.15 シナリオの詳細情報」を参照してください。
		シナリオ実行管理スケジュール	シナリオ実行管理スケジュールを表示します。
		スケジュール	シナリオ実行管理スケジュール時刻を表示します。
	電源管理スケジュール	
		スケジュール	電源管理スケジュールを表示します。
		電源ON時刻	電源ON時刻を表示します。

		シャットダウン時刻	シャットダウン時刻を表示します。
		カウントダウンダイアログを表示しない	シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示するかどうかを表示します。
	ネットワーク設定		
		ネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークかどうかを表示します。
		デフォルトゲートウェイ	DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイが表示されます。
		サブネットマスク	DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクが表示されます。
	自動更新設定		
		自動更新機能	自動更新機能を表示します。
		自動更新時間	自動更新時間を表示します。
		適用契機	適用契機を表示します。
		リトライ回数	リトライ回数を表示します。
		リトライ間隔(分)	リトライ間隔を表示します。
		ログオン中は実行しない	自動更新の開始時に、管理対象マシンにログオンユーザが存在する場合の動作を表示します。 「はい」の場合は、ログオンユーザが存在すると自動更新を中止します。 「いいえ」の場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。
		ログオフまで待つ	「ログオン中は実行しない」が「はい」の場合の動作を表示します。 「はい」の場合、中止した自動更新は、ユーザがログオフした時に開始します。 「いいえ」の場合、次回の自動更新契機開始となります。
		実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を表示します。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。
		開始時間	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。
		終了時間	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。

※1　Windows Server 2012以降のOSでServer Coreインストール、または最小サーバー インターフェイスとしている場合も、OS名とエディション名のみの表示となります。

注:

- Webコンソールに表示されるマシン名は、FQDNのうちホスト名の部分となります。ドメインサフィックスは表示されません。

3.7.1. マシンのステータス

DPMは、マシンごとにステータス情報を表示します。
「管理対象マシン詳細」画面の「状態」と「電源」に表示されるステータス情報は、シナリオ実行ステータスと自動更新ステータス、電源状態が表示されます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ステータスを確認するマシン***」の名前をクリックします。

(4) メインウィンドウに「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されますので、「状態」欄、および「電源」欄を確認してください。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

DeploymentManager

運用 | 監視 | 管理

運用

- リソース
- マシン(1)
  - Group01(1/1)
- シナリオ(1)
- イメージ

リソース > マシン > Group01 > Server01

管理対象マシン詳細

マシン名	Server01
識別名	
グループ	Group01
UUID	7459bebb-6668-e011-bbda-b59857ee78e3
IPアドレス	172.28.197.151
	192.168.126.1
	192.168.134.1
IPv6アドレス	fe80::9461:4b43:4b12:790f
	fe80::a03d:fc79:9572:9848
	fe80::b49a:7f9d:7a88:59e2
MACアドレス	78-e3-b5-98-57-ee(*)
	00-50-56-c0-00-01
	00-50-56-c0-00-08
Deploy-OS	デフォルト値を使用
状態	
電源	On
オペレーティングシステム	Microsoft Windows 7 Enterprise x64
サービスパック	Service Pack 1
OS言語	
HotFix/アプリケーション	詳細
パッケージ適用状況	詳細
ディスク情報	詳細
シナリオ割り当て	
シナリオ名	
シナリオ実行管理スケジュール	
スケジュール	
電源管理スケジュール	
スケジュール	
電源ON時刻	
シャットダウン時刻	
カウントダウンダイアログを表示しない	
ネットワーク設定	
ネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワーク
デフォルトゲートウェイ	
サブネットマスク	
自動更新設定	
自動更新機能	起動時OFF
自動更新時間	
適用契機	次回起動時に実行
リトライ回数	1
リトライ間隔(分)	5
ログオン中は実行しない	いいえ
ログオフまで待つ	いいえ
実行可能時間を指定する	いいえ
開始時間	
終了時間	

設定

- マシン編集
- マシン移動
- マシン削除

操作

- 電源ON
- シャットダウン
- 電源管理スケジュール
- シナリオ割り当て
- シナリオ割り当て解除
- シナリオ実行
- シナリオ実行中断
- エラー解除
- 中断解除
- ファイル/フォルダ詳細
- ファイル配信
- 画面更新

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2014. Version: DeploymentManager 6.4-26461

■ 状態

マシンのシナリオ実行状態ステータスと自動更新ステータスを表示します。

状態	説明
(空白)	シナリオ実行や自動更新中でない場合は、空白です。
シナリオ実行中	シナリオ実行中の場合に表示されます。
シナリオ実行中断	マシンに対するシナリオ実行が中断された場合に表示されます。 「状態」欄に表示される「シナリオ実行中断」をクリックすると、シナリオ実行一覧が表示されます。シナリオ実行一覧については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
シナリオ実行エラー	シナリオ実行エラーの場合に表示されます。 「状態」欄に表示される「シナリオ実行エラー」をクリックすると、シナリオ実行一覧が表示されます。シナリオ実行一覧については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。 なお、管理対象マシンの状態が、シナリオ実行エラーと、自動更新エラーの両方の場合は、シナリオ実行エラーと表示されます。 エラーの状態については、「4.7 自動更新結果一覧の詳細」を参照してください。
リモート電源ONエラー	電源ONの操作がエラーになった場合に表示されます。 「状態」欄に表示される「リモート電源ONエラー」をクリックすると、シナリオ実行一覧が表示されます。シナリオ実行一覧については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
自動更新パッケージ適用中	自動更新パッケージを適用している場合に表示されます。
自動更新ファイル転送中	管理対象マシンへ自動更新ファイルを転送している場合に表示されます。
自動更新ユーザ確認中	自動更新するユーザを確認している場合に表示されます。
自動更新再起動待ち中	マシンの再起動を待っている場合に表示されます。
自動更新中	自動更新開始後、パッケージの確認中に表示されます。
自動更新実行エラー	自動更新がエラーになった場合に表示されます。
自動更新時間設定中	管理対象マシンに対して自動更新時間設定中に表示されます。
自動更新設定エラー	自動更新設定エラーになった場合に表示されます。

注:

■ シナリオに関するエラー、自動更新に関するエラーに対し、それぞれ対処方法が異なります。

・ シナリオに関するエラー
エラー解除を行ってください。解除方法については、「3.8.8 エラー解除」を参照してください。
なお、「2.7.1.2 「シナリオ」タブ」で設定したタイムアウト時間を過ぎてもシナリオが終了しない場合は、シナリオ実行エラーとなります。

・ 自動更新に関するエラー
再度実行するか、またはDPMクライアントの再起動にて対処してください。

■ 電源

マシンの電源状態を表示します。

電源状態	説明
On	マシンの電源がオンの状態です。
Off	マシンの電源がオフの状態です。

電源状態	説明
Unknown	マシンの電源状態が不明な状態です。 管理対象マシンにIPアドレスが設定されていない場合に表示します。 シャットダウンなど一部の機能が使用できません。

3.7.1.1. HotFix/アプリケーション一覧

マシンに適用されたHotFix/アプリケーション一覧を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***HotFix/アプリケーションを適用したマシン***」の名前をクリックします。

(4) 「管理対象マシン詳細」グループボックス内の「HotFix/アプリケーション」→「詳細」をクリックします。

(5) メインウィンドウに「適用されたHotFix」、「インストールされたアプリケーション」グループボックスが表示されます。

適用されたHotFix	
HotFix名	適用されたHotFix一覧を表示します。
インストールされたアプリケーション	
アプリケーション名	インストールされたアプリケーション一覧を表示します。

3.7.1.2. パッケージ適用状況(パッケージ一覧)

管理対象マシンのパッケージ適用状況(パッケージ一覧)を表示します。
パッケージ適用状況が表示されるのはWindows OSのパッケージのみです。Linux OSのパッケージは表示されません。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***パッケージを適用したマシン***」の名前をクリックします。

(4) 「管理対象マシン詳細」グループボックス内の「パッケージ適用状況」→「詳細」をクリックします。

(5) メインウィンドウに「パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」グループボックスが表示されますので、パッケージIDの「適用状態」欄を確認してください。

パッケージ適用状況(パッケージ一覧)	
表示件数	パッケージ一覧の表示件数が選択できます。
パッケージID	パッケージIDを表示します。
概要	パッケージの概要を表示します。
適用日付	パッケージの適用日付を表示します。
適用状態	パッケージの適用状態を表示します。(※1)

注:

■ 管理対象マシンに適用できないパッケージは、一覧に表示されません。

※1　パッケージ適用状況の表示について説明します。

パッケージ適用状況の表示	説明
適用済み	パッケージが管理対象マシンに適用済みの状態です。 パッケージを適用する際の前提条件(パッケージ作成時に「依存情報」タブで指定した条件)を満たし、かつパッケージ適用済みの条件(「MS番号」、「識別情報」、アプリケーションの情報で指定した条件)を満たしている場合に表示します。 吸収されたサービスパックについては、自動更新処理において管理対象マシンのサービスパックのバージョンが"吸収されたサービスパック"と同じかそれ以後であれば、パッケージ適用済みの条件を満たしていると判断します。
未適用	パッケージが未適用の状態です。 「依存情報」タブで指定した条件を満たしていますが、「MS番号」、「識別情報」、アプリケーションの情報で指定した条件を満たしていない場合に表示します。
適用不要	パッケージは適用不要です。 「依存情報」タブで指定した条件を満たしていない場合に表示します。
識別不可	適用状況を識別できません。 「MS番号」、および「識別情報」タブの指定がない場合に表示します。

以下の場合にはパッケージ適用対象外のため一覧には表示しません。
イメージビルダ、およびPackageDescriberでパッケージ作成時の「対応OSと言語」で指定しているOS/言語/ベースとなるサービスパック/吸収されるサービスパックが管理対象マシンのOS/言語/サービスパックを満たしていない場合は、パッケージ適用対象外のため、一覧には表示しません。
これらの指定方法の詳細については、「リファレンスガイド ツール編 1 イメージビルダ」、および「リファレンスガイド ツール編 2 PackageDescriber」を参照してください。

パッケージの適用状態の表示の条件を以下にまとめます。

<table>
<tr><td colspan="6">OS/言語/サービスパック/グループ情報</td></tr>
<tr><td colspan="5">条件を満たす</td><td>条件を
満たさない</td></tr>
<tr><td colspan="5">管理対象マシンの情報調査</td><td rowspan="6">一覧に
表示しない</td></tr>
<tr><td colspan="4">調査済み</td><td>調査未</td></tr>
<tr><td colspan="4">MS番号/識別情報/サービスパック</td><td rowspan="4">"未適用"
(※2)</td></tr>
<tr><td>条件を
満たす</td><td colspan="2">条件を
満たさない</td><td>パッケージに
MS番号および
識別情報がない</td></tr>
<tr><td rowspan="3">"適用済み"
(※1)</td><td colspan="2">依存関係</td><td rowspan="3">"識別不可"</td></tr>
<tr><td>条件を
満たす</td><td>条件を
満たさない</td></tr>
<tr><td>"未適用"</td><td>"適用不要"</td></tr>
</table>

※1　パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)では、一覧に表示しません。

※2　自動更新処理、および情報送付時において調査未の状態では"未適用"と表示します。

3.7.1.3. ディスク情報

管理対象マシンのディスク情報を表示します。
ディスク構成チェックを行うことにより、本画面を表示することができます。
詳細については、「リファレンスガイド ツール編 4.1 ディスク構成チェックツール」を参照してください。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ディスク情報を表示する管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 「管理対象マシン詳細」グループボックス内の「ディスク情報」→「詳細」をクリックします。

(5) メインウィンドウに「ディスク詳細」グループボックス、「ディスク一覧」グループボックスが表示されます。

マシン名		管理対象マシンのマシン名を表示します。
ディスク詳細		
	表示件数	ディスク情報の表示件数が選択できます。
	ディスク情報	ディスク情報を表示します。
	パーティション情報	パーティション情報を表示します。 デフォルトでは、隠しパーティションは表示されません。(※1)

※1　パーティション番号は、プライマリパーティション、拡張パーティションの論理ドライブの順で番号が割り振られます。(Windows OSの「ディスクの管理」で表示されるパーティションの表示順序と異なる場合があります。)

例)

ディスク装置が下図に示す構成である場合、パーティション(A)は「1」、拡張パーティションの論理ドライブ(B)は「3」、拡張パーティションの論理ドライブ(C)は「4」、パーティション(D)は「2」となります。

<table>
<tr><td rowspan="2">プライマリ
パーティション(A)</td><td colspan="2">拡張パーティション</td><td rowspan="2">プライマリ
パーティション(D)</td></tr>
<tr><td>論理ドライブ(B)</td><td>論理ドライブ(C)</td></tr>
</table>

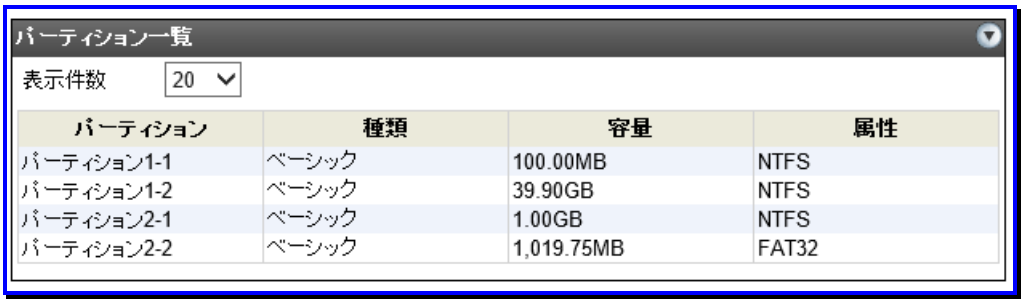
注:

- 本画面で表示されるディスクサイズ/パーティションサイズと管理対象マシンで表示されるディスクサイズ/パーティションサイズでは誤差が生じる場合があります。
- ディスク構成チェックシナリオを行った際に、「バックアップ/リストア」タブの「パーティション設定」グループボックスで「隠しパーティションを無視する」にチェックを入れている場合でも、隠しパーティションをカウントします。

■ ディスク一覧
ディスクの一覧を表示します。
メインウィンドウには、デフォルトで「ディスク一覧」グループボックスが表示されます。

ディスク一覧		
	表示件数	ディスク情報の表示件数が選択できます。
	ディスク	ディスク番号を表示します。
	種類	ディスクの種類を表示します。
	容量	ディスクの容量を表示します。

■ パーティション一覧
パーティションの一覧を表示します。
「操作」メニュー→「パーティション一覧」を選択して、メインウィンドウに表示されている「ディスク一覧」グループボックスを「パーティション一覧」グループボックスに切り替えて表示できます。



パーティション一覧		
	表示件数	パーティション情報の表示件数が選択できます。
	パーティション	パーティション番号を表示します。 「パーティション ***ディスク番号-パーティション番号***」の形式で表示します。 デフォルトでは、隠しパーティションは表示されません。
	種類	パーティションの種類を表示します。
	容量	パーティションの容量を表示します。
	属性	パーティションの属性を表示します。

■ 隠しパーティションを表示
隠しパーティションを表示します。
「操作」メニュー→「隠しパーティションを表示」を選択すると、隠しパーティションを表示できます。

■ 隠しパーティションを非表示
隠しパーティションを非表示にします。
「操作」メニュー→「隠しパーティションを非表示」を選択すると、隠しパーティションを非表示にできます。

3.7.2. 管理対象マシン編集

管理対象マシンの設定情報を編集します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***編集するマシン***」の名前をクリックします。

(4) マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン編集」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集してください。

また、「管理対象マシン編集」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、編集する管理対象マシンの「編集アイコン()」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集してください。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

DeploymentManager

運用 | 監視 | 管理 |

運用

- リソース
- マシン(1)
  - Group01(1/1)
- シナリオ(1)
  - Built-in Scenarios(15/15)
- イメージ

リソース > マシン > Group01 > Client01-PC

管理対象マシン編集

グループ名: Group01

マシン名: Client01-PC

識別名:

MACアドレス: 00-0c-29-ad-4b-90

UUID: 564d3cad-1ed6-92c8-bf26-b0d117ad4b90

IPアドレス: 192.168.220.148

Deploy-OS: デフォルト値を使用

シナリオ設定

- シナリオ割り当て
  - シナリオ名 [参照]
- シナリオ割り当て解除

シナリオ実行管理スケジュール

- 一回のみ / 日単位 / 週単位 / 月単位

日付: 2015/12/21

時刻: 時 分

電源管理スケジュール

- 一回のみ / 曜日指定

電源ON時刻: 2015/12/21 時 分

シャットダウン時刻: 2015/12/21 時 分

カウントダウンダイアログを表示しない

ネットワーク設定

- DPMサーバと同じサブネットワーク
- DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ:

サブネットマスク:

自動更新設定

自動更新機能: 起動時OFF

自動更新時間: 0:00

適用契機: 次回起動時に実行

リトライ回数: 1

リトライ間隔(分): 5

ログオン中は実行しない

ログオフまで待つ

実行可能時間を指定する

開始 0:00 終了 0:00

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2016. Version: DeploymentManager 6.5-27965

管理対象マシン編集		
	グループ名	管理対象マシンの所属するグループの名前を表示します。編集はできません。
	マシン名 **(入力必須)**	管理対象マシン名を編集します。入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。また、数字のみのマシン名には変更できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~ DPMクライアントがインストールされている場合は、Webコンソール上で登録したマシン名と実際のマシン名が違っていても、マシンを電源ONしたときに自動でWebコンソール上のマシン名を実際のマシン名に変更します。
	識別名	識別名を編集します。入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。また、数字のみの識別名には変更できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~ 同じDPMサーバ配下で同じ識別名に変更できません。
	MACアドレス	管理対象マシンの(*)が付加されたMACアドレスを編集します。(*)が付加されたMACアドレスがない場合、「管理対象マシン詳細」画面の「MACアドレス」で一番上のMACアドレスを編集します。 入力できる文字は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。 上記以外のMACアドレスを編集する場合は、DPMコマンドラインから編集を行ってください。詳細は「リファレンスガイド ツール編 3 DPMコマンドライン」を参照してください。
	UUID	管理対象マシンのUUIDを編集します。入力できる文字は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。入力は、「xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx」の形式で入力してください。すべて「0」、またはすべて「f」/「F」を入力した場合は、入力値がないものとみなします。
	IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを編集します。入力できる文字は、半角数字です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 同じDPMサーバ配下で同じIPアドレスには、変更できません。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、DPMサーバと通信するIPアドレスを入力してください。 管理対象マシンにDPMクライアントをインストールしない場合は必ずIPアドレスを入力してください。
	Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを設定します。 各機種で設定する値については,以下の製品Webサイトを参照してください。 https://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/dousa2.html リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 使用している機種で設定するDeploy-OSがリストボックスに表示されない場合は、上記製品Webサイトから機種対応モジュールを入手してDPMサーバにインストールすると、対応するDeploy-OSがリストボックスに表示されるようになります。
	シナリオ設定	
		シナリオ割り当て	管理対象マシンにシナリオ割り当てする場合に選択します。「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。

		シナリオ名	管理対象マシンに割り当てるシナリオを設定します。「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
		シナリオ割り当て解除	管理対象マシンのシナリオの割り当てを解除する場合に選択します。
	シナリオ実行管理スケジュール		「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールが編集できます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。
	一回のみ	**1回のみ、スケジュールを実行します。**	
		日付 **(設定必須)**	日付を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	日単位	**開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 **(設定必須)**	開始日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		間隔 **(設定必須)**	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 デフォルトは、「1日に一回」です。
	週単位	**毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 **(設定必須)**	開始日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		曜日指定 **(設定必須)**	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	月単位	**毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	

		開始月 **(設定必須)**	開始月を編集します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「 」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。
		終了月	終了月を編集します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「 」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		毎月 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「毎月」を選択した場合は、リストボックスから日を設定します。 例) 「月末」日
		曜日 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「曜日」を選択した場合は、リストボックスから曜日を設定します。 例) 第「1」「月曜日」
	電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、管理対象マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。
	一回のみ	**1回のみ、スケジュールを実行します。**	
		電源ON時刻 **(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)**	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を編集できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「 」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。
		シャットダウン時刻 **(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)**	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を編集できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「 」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
		カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。

	曜日指定		**設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
			電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を編集できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
			シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を編集できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
			カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
			曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	ネットワーク設定			
		DPMサーバと同じサブネットワーク		DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
		DPMサーバと別のサブネットワーク		DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 管理対象マシンがルータを介して別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・ デフォルトゲートウェイ ・ サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
			デフォルトゲートウェイ (設定必須)	デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
			サブネットマスク (設定必須)	サブネットマスクを編集します。
	自動更新設定(※1)			
		自動更新機能		自動更新機能を設定します。以下の操作が選択できます。 ・ 常にOFF ・ 起動時ON ・ 起動時OFF 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・ 自動更新時間 ・ 適用契機 ・ リトライ回数 ・ リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		自動更新時間		自動更新時間を設定します。
			左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・ 毎日 ・ 日曜日～土曜日

		右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
	適用契機		自動更新適用契機についての動作を設定します。以下から選択できます。 ・ すぐ実行 ・ 次回起動時に実行 ・ ユーザ確認画面を表示 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
	リトライ回数		DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。
	リトライ間隔(分)		DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。
	ログオン中は実行しない		チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。
	ログオフまで待つ		チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。
	実行可能時間を指定する		管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。
	開始		自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。
	終了		自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。
OK			「管理対象マシン編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「管理対象マシン編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1　管理対象マシンのステータスが以下のいずれかの場合は、次回マシン起動時に設定されます。
ステータスの詳細については、「3.7.1 マシンのステータス」を参照してください。

- 「状態」欄
  - シナリオ実行中
  - シナリオ実行中断
  - 自動更新パッケージ適用中
  - 自動更新ファイル転送中
  - 自動更新ユーザ確認中
  - 自動更新再起動待ち中
  - 自動更新中
- 「電源」欄
  - Off

なお、「状態」欄には表示されませんが、管理対象マシンに対して以下を行っている場合も次回マシン起動時に設定されます。

- ファイル配信
- ファイル実行
- ファイル削除
- 「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

注:

■ 管理対象マシンの「状態」欄が以下のステータスの場合は、管理対象マシンの編集(自動更新設定を除く)はできません。

- シナリオ実行中
- シナリオ実行エラー
- シナリオ実行中断
- リモート電源ONエラー
- 自動更新中
- 自動更新ファイル転送中
- 自動更新時間設定中

なお、「状態」欄には表示されませんが、管理対象マシンに対して以下を行っている場合も管理対象マシンを編集できません。

- ファイル配信
- ファイル実行
- ファイル削除
- 「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

3.7.3. マシン移動

マシンを移動します。
マシン移動については、「3.5.6 マシン移動」を参照してください。

3.7.4. マシン削除

マシンを削除します。
マシン削除については、「3.5.7 マシン削除」を参照してください。

3.8. マシンへのメニュー操作

マシンに対する「アクション」メニュー、「操作」メニューについて説明します。

3.8.1. 電源 ON

管理対象マシンを電源ONします。
「電源ON」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・ 管理対象マシン1台のみ操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***電源ONする管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「操作」メニューの「電源ON」をクリックします。

・ 管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***電源ONする管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「電源ON」をクリックします。

「電源ON」した場合、「電源」欄のアイコンは、「(緑)On」になります。
「電源ON」に失敗した場合、「リモート電源ONエラー」が表示されます。また、エラーメッセージが表示されます。

注:

- 「電源 ON」を選択後も「管理対象マシン一覧」グループボックスの状態が電源 OFF のままの場合は、「操作」メニューから「画面更新」をクリックし、最新の情報に更新してください。
- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括電源 ON」については、「3.6.1 グループ一括操作」を参照してください。

3.8.2. シャットダウン

管理対象マシンをシャットダウンします。
「シャットダウン」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シャットダウンする管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シャットダウン」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シャットダウンする管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シャットダウン」をクリックします。
「シャットダウン」した場合、「電源」欄のアイコンは、「(黒)Off」になります。
「シャットダウン」に失敗した場合は、何も表示しません。

注:

- シャットダウンを行う場合は、マシンに DPM クライアントをインストールしてください。詳しくは「インストレーションガイド 2.2 DPM クライアントをインストールする」を参照してください。
- Windowsの管理対象マシンの状態が以下の場合は、シャットダウンできません。
  - ・ ワークステーションロックによりロックされている状態
  - ・ パスワード付きスクリーンセーバによりロックされている状態
  - ・ リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態
  - ・ 編集中のデータやシャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態

  既定でパスワードロックがかかるOSの場合は、必ず、パスワードロックを解除してから、シャットダウンしてください。
- LinuxのマシンがX Windowシステムで動作している場合は、コンソールが起動していないとシャットダウンを実行されたことが認識できません。

■ 「シャットダウン」を選択後も「管理対象マシン一覧」グループボックスの状態が電源 ON のままの場合は、「操作」メニューから「画面更新」をクリックし、最新の情報に更新してください。

■ 管理対象マシン上で、以下の操作を行うことによりシャットダウンを中止することができます。

・ Windows OS の場合
管理対象マシンにカウントダウンのダイアログボックスが表示されますので、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

・ Linux OS の場合
- Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合
管理対象マシンであらかじめコンソールが起動している場合は、カウントダウンメッセージが表示されますので、コンソール上で/usr/local/bin/depcancel を実行してください。
コンソールが起動していない場合は、カウントダウンメッセージは表示されませんので、手動でコンソールを起動し、/usr/local/bin/depcancel を実行してください。
- Red Hat Enterprise Linux 7 より前、または SUSE Linux Enterprise の場合
管理対象マシンのコンソールにカウントダウンメッセージが表示されますので、コンソール上で/usr/local/bin/depcancel を実行してください。
なお、SUSE Linux Enterprise で X-Window が起動していない環境(ランレベル 3)の場合、メッセージが 2 行表示されることがありますが動作に影響はありません。

■ すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シャットダウン」については、「3.6.1 グループ一括操作」を参照してください。

3.8.3. シナリオ割り当て

管理対象マシンに対してシナリオ割り当てします。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ割り当てする管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ割り当て」をクリックします。

(5) 以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

また、「シナリオ割り当て」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ割り当てする管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ割り当て」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

シナリオ割り当て			
	シナリオ設定		
		シナリオ割り当て	シナリオの割り当てをする場合に選択します。 本項目を選択すると、「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。
		シナリオ名	マシンに割り当てるシナリオを設定します。「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
		シナリオ割り当て解除	この画面では、「シナリオ割り当て解除」は選択できません。 「シナリオ割り当て解除」する場合は、「管理対象マシン一覧」グループボックス→「アクション」メニュー→「シナリオ割り当て解除」から実行してください。詳細は、「3.5 マシングループ詳細」を参照してください。(※1)
	シナリオ実行管理スケジュール		「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールの設定ができます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。
	一回のみ	**1回のみ、スケジュールを実行します。**	
		日付 (設定必須)	日付を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	日単位	**開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。

		終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		間隔 **(設定必須)**	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 デフォルトは、「1日に一回」です。
	週単位	**毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 **(設定必須)**	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		曜日指定 **(設定必須)**	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	月単位	**毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始月 **(設定必須)**	開始月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。
		終了月	終了月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		毎月 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「毎月」を選択した場合は、リストボックスから日を選択してください。 例） 「月末」日
		曜日 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「曜日」を選択した場合は、リストボックスから曜日を選択してください。 例） 第「1」「月曜日」
すぐに実行			シナリオ割り当てを行い、すぐにシナリオ実行します。

OK	「シナリオ割り当て」画面の設定内容でシナリオ割り当てして、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオ割り当て」画面の設定内容でシナリオ割り当てせずに、元のウィンドウに戻ります。

※1　「操作」メニュー→「一括シナリオ割り当て」画面の「シナリオ割り当て解除」も同様に、常時ラジオボタンを選択できません。

注:

- 以下のいずれかに該当すると、シナリオ実行が正常に行われない場合があります。
  - シナリオ実行時刻の設定後に管理サーバの時計の日付と時刻をシナリオ実行時刻を跨ぐ(未来から過去、または過去から未来)ように変更した。
  - シナリオ実行時刻を電源 ON/シャットダウンの時刻と同一時刻に設定した。
- 月単位で、毎月 29 日/30 日/31 日のいずれかを指定すると、月によって存在しない日がありますので、その場合、スケジュールは実行されません。
  例)
  月単位の毎月31日を指定した場合、2月/4月/6月/9月/11月には、スケジュールは実行されません。1月/3月/5月/7月/8月/10月/12月にスケジュールが実行されます。
- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ割り当て」については、「3.6.1 グループ一括操作」を参照してください。

3.8.4. シナリオ割り当て解除

管理対象マシンに割り当てたシナリオを割り当て解除します。
「シナリオ割り当て解除」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・ 管理対象マシン1台のみ操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ割り当て解除する管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ割り当て解除」をクリックします。

・ 管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ割り当て解除する管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ割り当て解除」を選択して実行してください。

注:

- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ割り当て解除」については、「3.6.1 グループ一括操作」を参照してください。

3.8.5. 電源管理スケジュール

管理対象マシンに対して電源管理スケジュールを設定します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***電源管理をスケジュールする管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「電源管理スケジュール」→「OK」ボタンをクリックします。

(5) 「OK」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

また、「電源管理スケジュール」画面は、以下の手順でも表示できます。

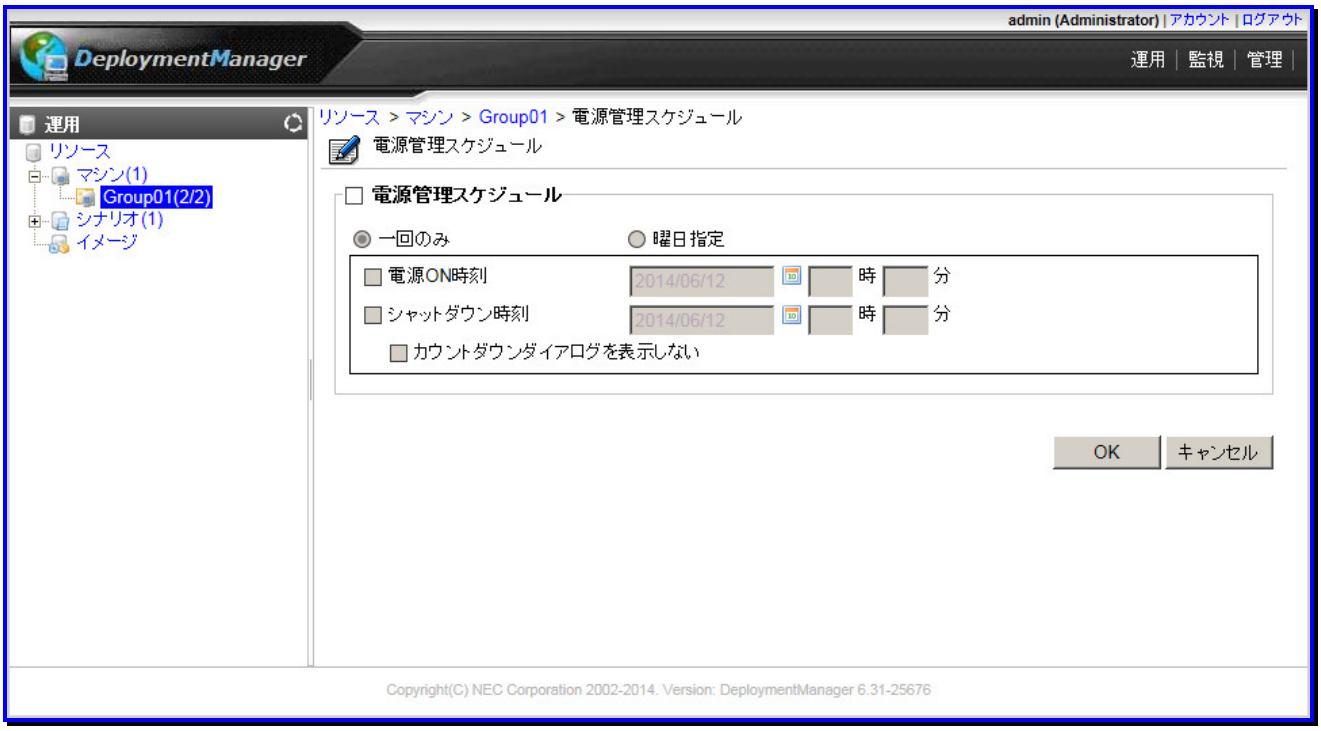
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***電源管理をスケジュールする管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「電源管理スケジュール」→「OK」ボタンをクリックします。

(5) 「OK」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。


admin (Administrator) | アカウント | ログアウト
DeploymentManager
運用 | 監視 | 管理 |
運用
リソース
マシン(1)
Group01(2/2)
シナリオ(1)
イメージ
リソース > マシン > Group01 > 電源管理スケジュール
電源管理スケジュール
電源管理スケジュール
一回のみ
曜日指定
電源ON時刻
2014/06/12
時
分
シャットダウン時刻
2014/06/12
時
分
カウントダウンダイアログを表示しない
OK
キャンセル
Copyright(C) NEC Corporation 2002-2014. Version: DeploymentManager 6.31-25676

電源管理スケジュール			
	電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。
	一回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。	
		電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
		カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
	曜日指定	設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールが実行されます。	
		電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
		カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
		曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
OK			「電源管理スケジュール」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「電源管理スケジュール」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.8.6. シナリオ実行

管理対象マシンに割り当てたシナリオを実行します。
「シナリオ実行」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ実行する管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ実行」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ実行する管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

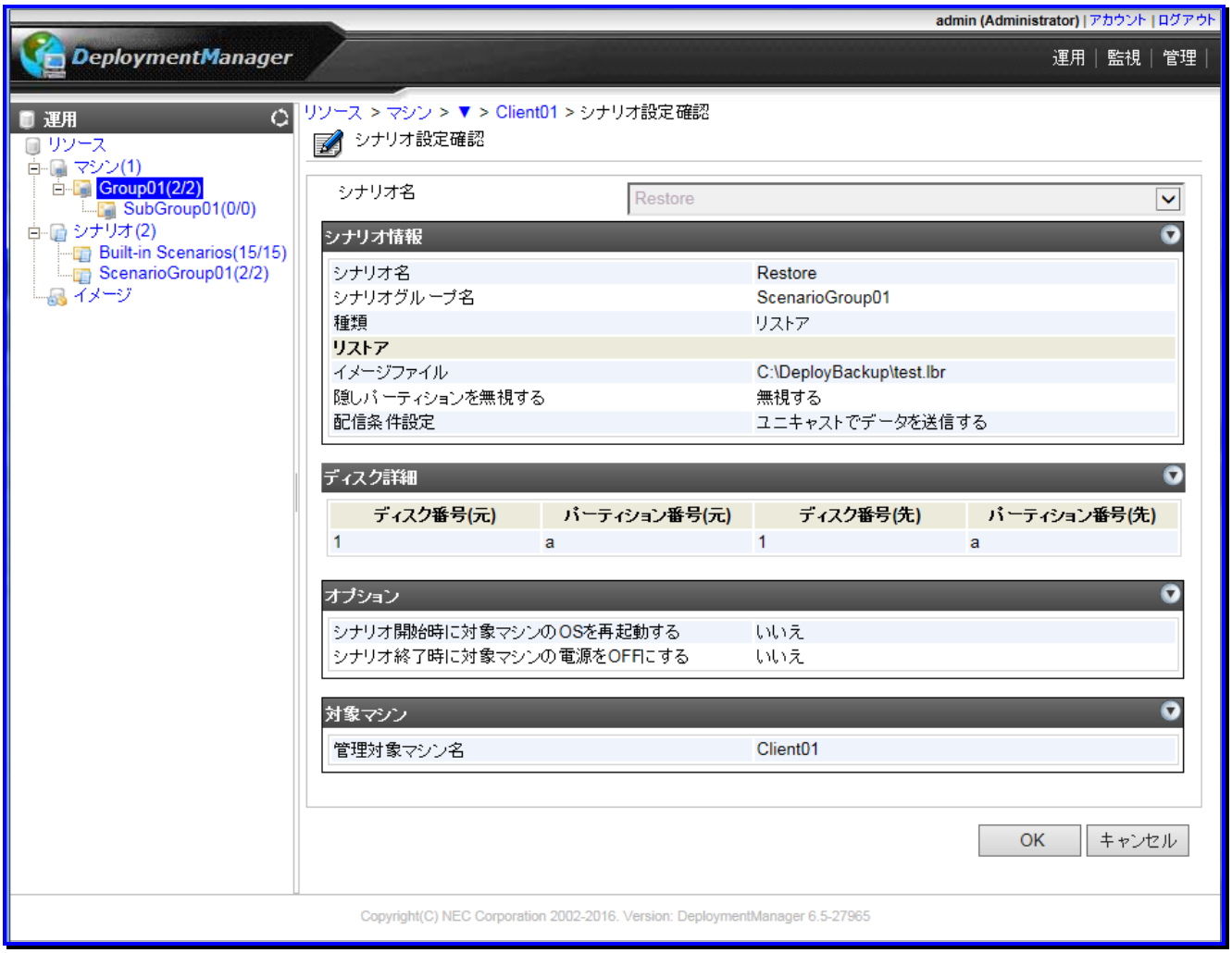
(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ実行」をクリックします。

注:

- バックアップ/リストア/ディスク構成チェックのシナリオを実行するには、シナリオ実行前に管理対象マシンに対して使用している機種に応じた Deploy-OS を設定する必要があります。詳細については、「3.7.2 管理対象マシン編集」を参照してください。
- リモートアップデートシナリオ以外のシナリオを実行する際に管理対象マシンの電源が ON 状態でシナリオ実行が開始されない場合には以下のいずれかの操作を行ってください。
  - 「シナリオ編集」画面から、「オプション」タブ→「シナリオ実行動作設定」グループボックスにて、「シナリオ開始時に対象マシンの OS を再起動する」のチェックを入れる。
    ※Windows の管理対象マシンが以下の状態の場合は、「シナリオ開始時に対象マシンの OS を再起動する」にチェックを入れていても再起動できません。
    - ワークステーションロックによりロックされている状態
    - パスワード付きスクリーンセーバによりロックされている状態
    - リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態
    - 編集中のデータやシャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態
  - 手動で管理対象マシンを再起動する。

- DPM は、マルチキャストでデータを送信する場合は、UDP 通信を行います。
  UDP 通信では転送速度が異なる機器が経路上にある場合などで、送信側と受信側で転送するデータ量に差が生じ、データがうまく転送できない状態になることがあります。
  このような場合は、シナリオ完了までの時間が長くなる場合があります。
- DPM を用いて Express5800 シリーズ向けの RUR(リビジョンアップリリース)モジュールを適用する場合は、適用対象のマシンに任意のユーザでログインし、スクリーンセーバが起動していない状態でシナリオを実行する必要があります。ログインしていてもマシンのロック状態や、適用中にスクリーンセーバが起動した場合、自動インストールが継続できない場合があります。
- サービスパック適用前後で、ファイアウォール機能が無効から有効に切り替わるサービスパックをシナリオ実行した場合は、サービスパック適用時にほぼすべてのポートがブロックされ、管理対象マシンと通信できない状態となるため、シナリオ実行エラーとなってしまいます。その場合は、エラー解除した後にポート開放ツールにて、DPMで使用するポートを開放してください。
  ポート開放ツールについては、「リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編 1.8 ポート開放ツール」を参照してください。
- 再起動前の管理対象マシンは、シナリオの「パッケージ」タブ-「実行タイミング設定」の「次回起動時にパッケージを実行」を指定したシナリオを合計100個実行することができます。101個以上のシナリオを実行する場合は、管理対象マシンを再起動してください。再起動することにより新たに100個のシナリオを実行することができます。
- サービスパック/HotFix/Linux パッチファイルの適用と同時にアプリケーションも設定した場合は、サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル適用の後にアプリケーションのインストールを実行します。
- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ実行」については、「3.6.1 グループ一括操作」を参照してください。

また、「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「ガードパラメータ設定」画面の「シナリオ実行」に「パスワード」、または「警告」を設定している場合は、シナリオ実行時に以下の画面が表示されます。



シナリオ設定確認		
	シナリオ名	シナリオ名を表示します。
	シナリオ情報	
		シナリオ名 シナリオ名を表示します。
		シナリオグループ名 シナリオグループ名を表示します。
		種類 シナリオの種類を表示します。
		ここに表示されるシナリオの情報については、「シナリオ名」で選択するシナリオの種類によって異なります。詳細については、「3.15 シナリオの詳細情報」を参照してください。
	オプション	
		「シナリオ追加」画面-「オプション」タブで設定した「シナリオ実行動作設定」が表示されます。設定については、「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。
	対象マシン	
		管理対象マシン名 シナリオ実行する管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。
OK		「シナリオ設定確認」画面の設定内容でシナリオ実行して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「シナリオ設定確認」画面の設定内容でシナリオ実行せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.8.7. シナリオ実行中断

管理対象マシンに割り当てたシナリオ実行を中断します。
「シナリオ実行中断」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・ 管理対象マシン1台のみ操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ実行中断する管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ実行中断」をクリックします。

・ 管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ実行中断する管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ実行中断」をクリックします。

「シナリオ実行中断」した場合、マシン名のアイコンは、「」になり、「シナリオ実行中断」が表示されます。「シナリオ実行中断」に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

注:

- シナリオ中断したシナリオを、再開して実行できません。再度、シナリオを実行する時は、シナリオ実行中断処理が終わってから、再度シナリオ実行を行ってください。
- シナリオ実行中断を行った管理対象マシンは、実行中のシナリオが中断された後、PXEブートするタイミングで電源OFFされます。
- 同時実行可能台数を超えた管理対象マシンにシナリオ実行を行っている場合は、タイミングによっては、管理対象マシンで実行処理を開始した後にシナリオ実行中断処理が行われる可能性があります。
- 「シナリオ実行中断中」のステータスは、中断処理が完了すれば自動的にクリアされ正常に戻ります。実行していたシナリオによっては、中断処理に時間がかかる場合があります。
- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ実行中断」については、「3.6.1 グループ一括操作」を参照してください。

3.8.8. エラー解除

管理対象マシンに割り当てたシナリオの「シナリオ実行エラー」、または「リモート電源ONエラー」のエラーを解除します。
「エラー解除」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・ 管理対象マシン1台のみ操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***エラー解除する管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「エラー解除」をクリックします。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

・ 管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***エラー解除するマシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***エラー解除する管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「エラー解除」をクリックします。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

3.8.9. 中断解除

管理対象マシンに割り当てたシナリオを中断解除します。
「中断解除」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

中断解除は、「シナリオ実行中断」を行ってから2時間以上経過しているが最新情報の取得をしてもステータスが「シナリオ実行中断」、または「中断処理中」の管理対象マシンの電源を手動でOFFにした場合に行います。
通常、「シナリオ実行中断」の処理が完了するとステータスが正常に戻るため「中断解除」を行う必要はありません。

・ 管理対象マシン1台のみ操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***中断解除する管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「中断解除」をクリックします。

・ 管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***中断解除する管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「中断解除」をクリックします。

注:

■ 「シナリオ実行中断解除」を選択後も、DPM の Web コンソールのマシンのステータスが「シナリオ実行中断」のままの場合は、「操作」メニューの「画面更新」をクリックして、最新の情報に更新してください。

■ 「シナリオ実行中断解除」を行うと、中断処理が正常に行われず、以下のような状態になる場合があります。この場合は、管理対象マシンの電源を手動で「ON」、または「OFF」にしてください。
・Web コンソールから管理対象マシンの電源を「ON」、または「OFF」できない。
・シナリオ実行できない。

3.8.10. ファイル/フォルダ詳細

管理対象マシンのファイル/フォルダの一覧を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ファイル/フォルダの一覧を表示する管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「ファイル/フォルダ詳細」をクリックします。

また、「ファイル/フォルダ詳細」画面は、以下の手順でも表示できます。

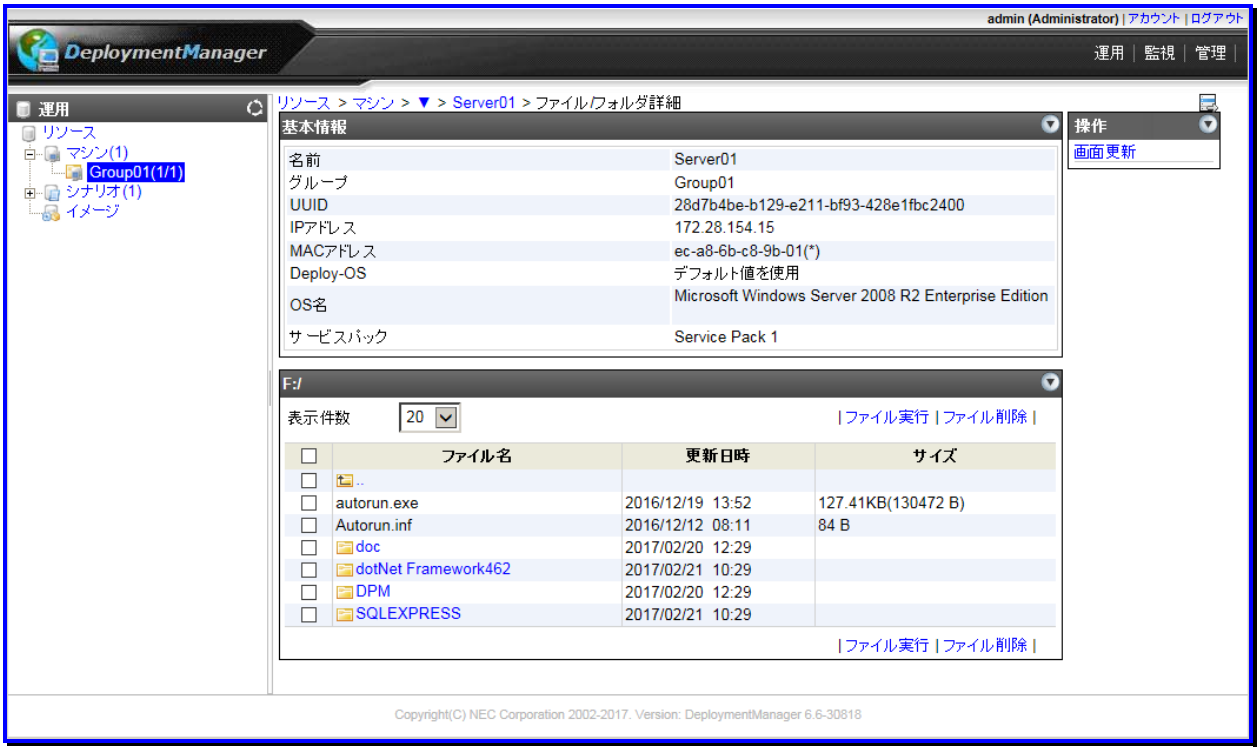
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ファイル/フォルダの一覧を表示する管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「ファイル/フォルダ詳細」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されます。



ファイル/フォルダ詳細	
基本情報	管理対象マシンの基本情報を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
名前	管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。
グループ	管理対象マシンが所属するグループの名前を表示します。
UUID	UUIDを表示します。
IPアドレス	IPアドレスを表示します。管理対象マシンに複数のIPアドレスがある場合は、すべてのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	MACアドレスを表示します。
Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを表示します。
OS名	OS名を表示します。
サービスパック	マシンのサービスパックの情報を表示します。 サービスパックを適用していない場合は、表示されません。
フォルダパス	カレントフォルダのパスを表示します。
表示件数	カレントフォルダ直下のフォルダ、およびファイルの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク	「ファイル実行」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックを入れたファイルが実行されます。 「ファイル削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックを入れたファイルが削除されます。
(チェックボックス)	ファイル実行またはファイル削除を行う場合に使用します。詳細については、「3.8.12 ファイル実行」および「3.8.13ファイル削除」を参照してください。

	ファイル名	フォルダ、またはファイルの名前を表示します。編集はできません。 ドライブ名/フォルダ名のリンクをクリックすると、該当ドライブ/フォルダ直下の内容を表示します。 .. リンクをクリックすると、一つ上の階層を表示します。
	更新日時	フォルダ、またはファイルの更新日時を表示します。編集はできません。 ドライブの場合は表示されません。
	サイズ	ファイルサイズを表示します。編集はできません。 ドライブ/フォルダの場合は表示されません。

注:

■ 管理対象マシンのステータスが以下のいずれかに該当する場合は、本画面を表示できません。
- 「状態」欄
  - シナリオ実行中
  - シナリオ実行中断
  - シナリオ実行エラー
  - リモート電源ONエラー
  - 自動更新中
  - 自動更新ファイル転送中
  - 自動更新パッケージ適用中
  - 自動更新時間設定中
- 「電源」欄
  - Off
  - Unknown

なお、「状態」欄には表示されませんが、管理対象マシンに対して以下を行っている場合も本画面を表示できません。
- ファイル配信
- ファイル実行
- ファイル削除

■ 以下のいずれかに該当する場合は、該当のフォルダ、またはファイル名を正しく表示できません。
- 管理対象マシンがLinux OSで、フォルダパス/ファイルパスに以下の半角記号が含まれている場合
  「"」、「$」、「*」、「:」、「<」、「>」、「?」、「¥」、「`」、「|」、「~」
- フォルダパス/ファイルパスが260Byte以上の場合

3.8.11. ファイル配信

管理対象マシンへファイル配信を行います。また、その際に、配信したファイルを実行することもできます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ファイルの配信先となる管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「ファイル配信」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

また、「ファイル配信」画面は、以下の手順でも表示できます。

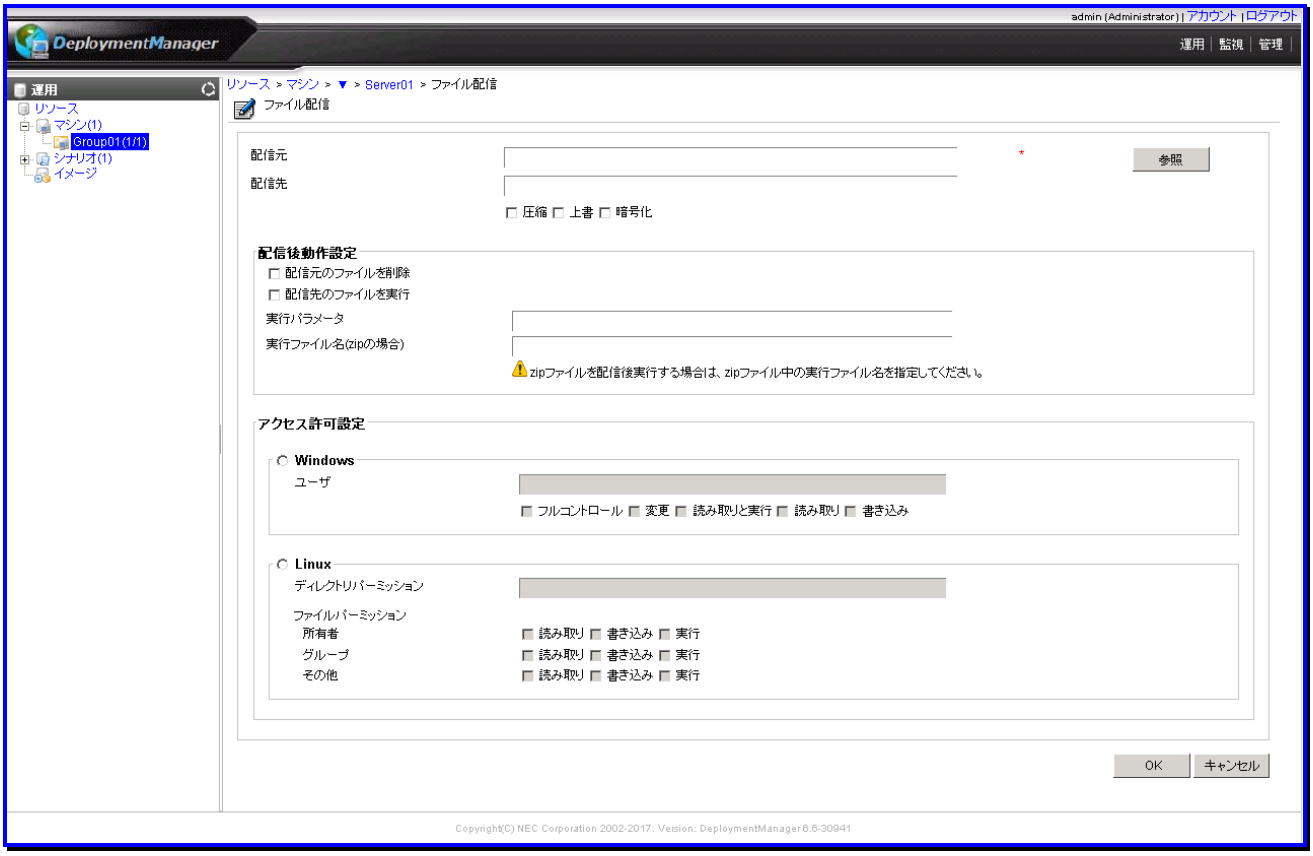
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ファイルの配信先となる管理対象マシン***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「ファイル配信」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されます。



ファイル配信		
	配信元 **(入力必須)**	管理対象マシンへ配信する管理サーバ上のファイルを指定します。 「参照」ボタンから選択、または直接入力してファイルを指定できます。 配信元の入力については、以下に注意してください。 ・ 入力できる文字数は、259Byte以内です。 ・ 使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号は使用できません。 ・ ファイルパスは「/」を区切り文字として使用してください。 ・ 環境変数には対応していません。 配信できるファイルの容量は、2GByte以内(圧縮前)です。 リダイレクトされないフォルダのファイルを指定してください。

	配信先 (入力必須)		配信先となる管理対象マシンのフォルダパス、またはファイルパスを入力します。 配信先の入力については、以下に注意してください。 ・ 入力できる文字数は、259Byte以内です。 ・ 使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号は使用できません。 ・ パスは「/」を区切り文字として使用してください。 ・ フォルダパスを指定する場合は、必ず最後に「/」を入力してください。 ・ 環境変数には対応していません。 Linux OSの場合は、上記に加えて以下の半角記号についても使用できません。 ＄｀～ また、ファイル名を変更して配信する場合は、変更後のファイル名を指定してください。
	圧縮		「圧縮」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルを圧縮して配信します。(※1)
	上書		「上書」チェックボックスにチェックを入れると、配信元と同じ名前のファイルが配信先に存在している場合、ファイルを上書きします。 本項目のチェックを入れずに、配信先に同じ名前のファイルが存在した場合、エラーになります。
	暗号化		「暗号化」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルを暗号化して配信します。
	配信後動作設定		
		配信元のファイルを削除	「配信元のファイルを削除」チェックボックスにチェックを入れると、ファイル配信を実行した後、「配信元」に指定したファイルを削除します。
		配信先のファイルを実行(※2)	「配信先のファイルを実行」のチェックボックスにチェックを入れると、ファイル配信を実行した後、「配信先」に指定したファイルを実行します。 管理対象マシンのOSがWindows OSの場合は、exe、bat、vbs、cmd、comファイルを実行できます。パスおよびファイル名に「&」「^」「%」を使用しないでください。
		実行パラメータ	ファイルを実行する際のパラメータを指定します。 入力文字に制限はありません。入力できる文字数は、1024byte(UTF-8)以内です。 パラメータに空白がある場合は、「"」(ダブルクォーテーション)で囲んでください。
		実行ファイル名 (zipの場合)	実行するファイルに関連ファイルが必要な場合は、実行ファイルと関連ファイルをまとめてzip形式にして配信します。その場合は、「実行ファイル名」に、実行するファイルを、zip形式のファイルの中の相対パスで指定します。 実行ファイル名の入力に関する注意事項は「配信先」と同じです。 相対パスの冒頭に「/」は指定不要です。 また、「./」と「../」は指定できません。入力できる文字数は256byte(UTF-8)以内です。 「配信先のファイルを実行」のチェックボックスにチェックを入れ、配信先のファイルがzipの場合、本項目を指定してください。(※2)
	アクセス許可設定(※3)		
		Windows	
			ユーザ	ファイルに対して、アクセス権限を設定するユーザ名を入力します。 ファイルの配信と同時に配信先のファイルに対してアクセス権限を設定できます。存在しているユーザ名を指定してください。 入力できる文字数は、256Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 " * + , . / : ; < = > ? @ [¥] |

			フルコントロール			「フルコントロール」チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「フルコントロール」の権限を設定します。
			変更			「変更」チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「変更」の権限を設定します。
			読み取りと実行			「読み取りと実行」チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「読み取りと実行」の権限を設定します。
			読み取り			「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「読み取り」の権限を設定します。
			書き込み			「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「書き込み」の権限を設定します。
		Linux				
			ディレクトリパーミッション			ディレクトリパーミッションを設定します。 入力できる文字は8進数(0～7)です。 入力は、「xxx」の形式で入力してください。 本項目を入力しない場合は、「755」が設定されます。
			ファイルパーミッション			
				所有者		
					読み取り	「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「読み取り」の権限を設定します。
					書き込み	「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「書き込み」の権限を設定します。
					実行	「実行」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「実行」の権限を設定します。
				グループ		
					読み取り	「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「読み取り」の権限を設定します。
					書き込み	「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「書き込み」の権限を設定します。
					実行	「実行」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「実行」の権限を設定します。
				その他		
					読み取り	「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「読み取り」の権限を設定します。
					書き込み	「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「書き込み」の権限を設定します。
					実行	「実行」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「実行」の権限を設定します。
OK						「ファイル配信」画面の設定内容でファイルを管理対象マシンに配信、またはファイル配信後実行をして、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル						ファイル配信、またはファイル配信後実行をせずに、元のウィンドウに戻ります。

※1　複数台の管理対象マシンに容量が大きいファイルを同時に配信する場合、「圧縮」にチェックを入れると、管理サーバのCPU負荷が高くなる可能性があります。その場合は、「圧縮」のチェックを外すことによりCPU負荷を軽減することができます。

※2　管理対象マシンのOSがWindows OSの場合は、ローカルシステムアカウント(「DeploymentManager Remote Update Service Client」サービスを起動しているユーザ)でファイルの実行を行います。

管理対象マシンのOSがLinux OSの場合は、rootユーザでファイルの実行を行います。

※3　「アクセス許可設定」を行わない場合、配信されるファイルのアクセス権として以下が設定されます。

- Windows OSの場合：配信先のフォルダのアクセス権が継承されます。(配信先に該当のフォルダが存在しない場合は、フォルダが新規作成され親フォルダのアクセス権が継承されます。)
- Linux OSの場合：所有者はroot、ファイルパーミッションは644が設定されます。配信先に該当するディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリ(ディレクトリパーミッションは755)が新規作成されます。

注:

■ 管理対象マシンのステータスが以下のいずれかに該当する場合は、ファイル配信できません。

- 「状態」欄
  - シナリオ実行中
  - シナリオ実行中断
  - シナリオ実行エラー
  - リモート電源ONエラー
  - 自動更新中
  - 自動更新ファイル転送中
  - 自動更新パッケージ適用中
  - 自動更新時間設定中
- 「電源」欄
  - Off
  - Unknown

なお、「状態」欄には表示されませんが、管理対象マシンに対して以下を行っている場合もファイル配信できません。

- ファイル実行
- ファイル削除
- 「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

3.8.12. ファイル実行

管理対象マシン上のファイルを実行します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ファイル実行を行う管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「ファイル/フォルダ詳細」をクリックします。

(5) 「ファイル/フォルダ詳細」画面で、実行するファイルを選択して、「ファイル実行」をクリックします。

(6) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

ファイル実行		
	実行ファイル (変更不可)	「ファイル/フォルダ詳細」画面で選択されたファイルです。 編集できません。
	実行パラメータ	ファイルを実行する際のパラメータを指定します。 入力文字に制限はありません。入力できる文字数は1024byte(UTF-8)以内です。 パラメータに空白がある場合、ダブルクォーテーション「""」で囲んでください。
	実行ファイル名 (zipの場合)	実行したいファイルをzipファイル内の相対パスで指定します。(※1)(※2)
OK		「ファイル実行」画面の設定内容で管理対象マシン上のファイルを実行して元の画面に戻ります。 ファイル実行結果は「ファイル配信/実行結果一覧」画面で確認できます。
キャンセル		ファイルを実行せずに、元の画面に戻ります。

※1 実行ファイル名の入力に関する注意事項については、「3.8.11ファイル配信」の「実行ファイル名(zipの場合)」に記載の注意事項を参照してください。

※2 管理対象マシンのOSがWindows OSの場合は、ローカルシステムアカウント(「DeploymentManager

Remote Update Service Client」サービスを起動しているユーザ)でファイルの実行を行います。
管理対象マシンのOSがLinux OSの場合は、rootユーザでファイルの実行を行います。

注:

■ 管理対象マシンのステータスが以下のいずれかに該当する場合は、ファイル実行できません。

・「状態」欄
- シナリオ実行中
- シナリオ実行中断
- シナリオ実行エラー
- リモート電源ONエラー
- 自動更新中
- 自動更新ファイル転送中
- 自動更新パッケージ適用中
- 自動更新時間設定中

・「電源」欄
- Off
- Unknown

なお、「状態」欄には表示されませんが、管理対象マシンに対して以下を行っている場合もファイル実行できません。

・ ファイル削除
・「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

3.8.13. ファイル削除

管理対象マシン上のファイルを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「***ファイル削除を行う管理対象マシン***」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「ファイル/フォルダ詳細」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、「***削除するファイル***」の左端のチェックボックスにチェックを入れ、「アクション」リンクの「ファイル削除」をクリックします。

注:

- 一度で１ファイルのみ削除できます。
- 管理対象マシンのステータスが以下のいずれかに該当する場合は、ファイルを削除できません。
  - 「状態」欄
    - シナリオ実行中
    - シナリオ実行中断
    - シナリオ実行エラー
    - リモート電源ONエラー
    - 自動更新中
    - 自動更新ファイル転送中
    - 自動更新パッケージ適用中
    - 自動更新時間設定中
  - 「電源」欄
    - Off
    - Unknown

  なお、「状態」欄には表示されませんが、管理対象マシンに対して以下を行っている場合もファイル削除できません。
  - ファイル配信
  - ファイル実行
  - 「ファイル/フォルダ詳細」画面の情報取得

3.8.14. 自動更新通知発行

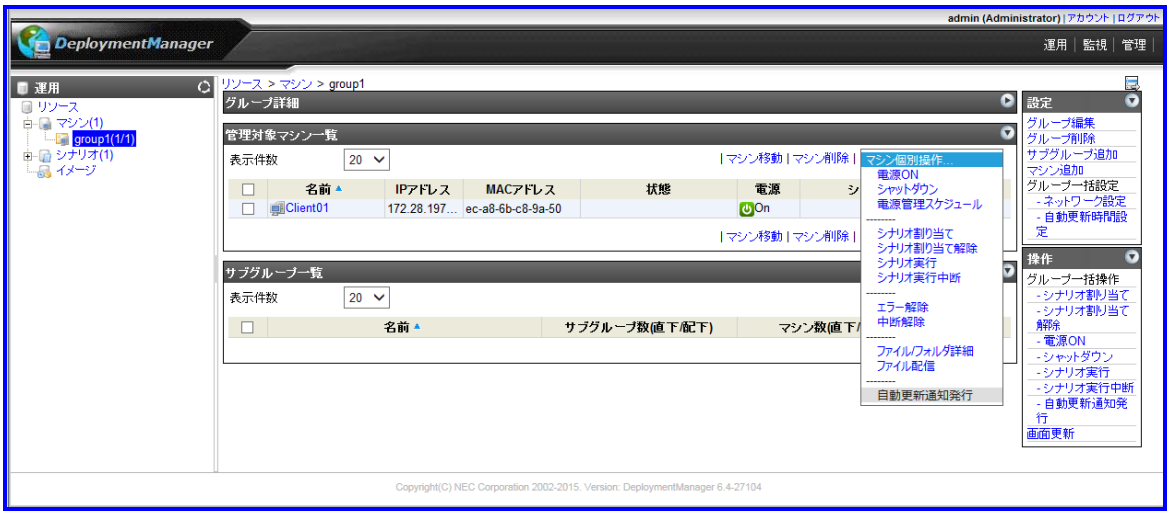
管理対象マシンに自動更新通知発行を行います。
「自動更新通知発行」は、管理対象マシン1台のみまた複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「***マシングループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新通知発行」を行う管理対象マシンの左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「自動更新通知発行」を選択して実行してください。



注:

- 自動更新通知発行では、以下の自動更新契機と同じで、自動更新設定(※1)と関係なく、即座に自動更新が行われます。
  - 緊急度が最高のパッケージをパッケージWebサーバから管理サーバへダウンロードした時。
  - イメージビルダで緊急度が最高のパッケージを登録して「パッケージの登録/修正画面」を閉じた時。

※1
- 自動更新時間
- ログオン中は実行しない
- ログオフまで待つ
- 実行可能時間を指定する

3.9.「新規マシン」アイコン

「新規マシン」アイコンでは、新規マシンを管理します。
「新規マシン」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンからアクセスできます。
「新規マシン」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「新規マシン一覧」グループボックスが表示されます。

なお、「新規マシン」アイコンは、管理対象マシンがPXEブートに対応していれば、PXEパケット受信時に自動的にリソースツリーに「新規マシン」アイコンを表示します。
また、PXEブートに対応していない場合でも、DPMクライアントがインストールされていれば、管理対象マシン起動時にDPMクライアントが管理サーバへ通信を行い、自動的にリソースツリーに「新規マシン」アイコンを表示します。

新規マシン一覧		
	表示件数	新規マシンの表示件数が選択できます。
	「アクション」リンク	・「マシン追加」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている新規マシンを追加します。 複数チェックを入れると、複数の新規マシンをまとめて追加できます。 ・「マシン削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている新規マシンを削除します。 複数チェックを入れると、複数の新規マシンをまとめて削除できます。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されている新規マシンすべてにチェックが入ります。
	MACアドレス	新規マシンのMACアドレスを表示します。 MACアドレスをクリックすると、メインウィンドウに「基本情報」グループボックスが表示されます。基本情報については、「3.9.1 新規マシンの基本情報」を参照してください。
	UUID	新規マシンのUUIDを表示します。
	IPアドレス	新規マシンのIPアドレスを表示します。 ・ 複数のIPアドレスが存在する場合は、管理サーバと通信するIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報がない場合は、空白を表示します。

3.9.1. 新規マシンの基本情報

新規マシンの基本情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。

(3) 「新規マシン一覧」画面が表示されますので、詳細情報を表示する新規マシンの「MACアドレス」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「基本情報」グループボックスが表示されますので、新規マシンの基本情報を確認してください。

基本情報		
	UUID	UUIDを表示します。編集はできません。
	MACアドレス	MACアドレスを表示します。編集はできません。
	IPアドレス	IPアドレスを表示します。編集はできません。 複数のIPアドレスが存在する場合は、管理サーバと通信するIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報がない場合は、空白を表示します。

3.9.2. 新規マシン登録

新規マシンを追加します。
新規マシンの追加は、1台のみ、または複数台選択して同一のグループに追加できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「新規マシン一覧」画面が表示されますので、「追加する新規マシン」の左端のチェックボックスにチェックを入れ、「アクション」リンクの「マシン追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

また、「新規マシン追加」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコン→「追加する新規マシンのMACアドレス」をクリックします。

(3) 新規マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

DeploymentManager

運用 | 監視 | 管理 |

運用

- リソース
- マシン(2)
  - Group01(1/1)
  - 新規マシン(1)
- シナリオ(1)
- イメージ

リソース > マシン > 新規マシン > 新規マシン追加

新規マシン追加

グループ名

マシン
Group01

マシン名 PC-172_28_197_53(ec-a8-6b-c8-9a-50)

識別名

MACアドレス ec-a8-6b-c8-9a-50

UUID 3cc7ac2c-b129-e211-bd27-f23ea0b22a00

IPアドレス 172.28.197.53

Deploy-OS デフォルト値を使用

シナリオ設定

○ シナリオ割り当て

シナリオ名 参照

○ シナリオ割り当て解除

シナリオ実行管理スケジュール

◉ 一回のみ ○ 日単位 ○ 週単位 ○ 月単位

日付 2015/01/07

時刻 時 分

電源管理スケジュール

◉ 一回のみ ○ 曜日指定

電源ON時刻 2015/01/07 時 分

シャットダウン時刻 2015/01/07 時 分

カウントダウンダイアログを表示しない

ネットワーク設定

◉ DPMサーバと同じサブネットワーク

○ DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ

サブネットマスク

自動更新設定

自動更新機能 起動時OFF

自動更新時間 0:00

適用契機 次回起動時に実行

リトライ回数 1

リトライ間隔(分) 5

ログオン中は実行しない

ログオフまで待つ

実行可能時間を指定する

開始 0:00 終了 0:00

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2014. Version: DeploymentManager 6.4-26461

新規マシン追加	
グループ名	ツリーからマシン追加先のグループ名を選択します。
マシン名	新規マシンの名前を表示します。 新規マシンを1台追加する場合は、管理対象マシン名を編集できます。入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。また、数字のみのマシン名には変更できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~ デフォルトは、「PC-xxx_xxx_xxx_xxx(yy-yy-yy-yy-yy-yy)」となります。 xxx_xxx_xxx_xxxはIPアドレス、yy-yy-yy-yy-yy-yyはMACアドレスです。 なお、IPアドレスが取得できない場合は、「PC-(yy-yy-yy-yy-yy-yy)」となります。 新規マシンを複数追加する場合は、リストボックスにすべての新規マシンの名前が表示されます。この場合は、マシン名の編集はできません。 DPMクライアントがインストールされている場合は、Webコンソール上で登録した新規管理対象マシン名と実際の管理対象マシン名が違っていても、管理対象マシンを電源ONしたときに自動でWebコンソール上の新規管理対象マシン名を実際の管理対象マシン名に変更します。
識別名	新規マシンを1台追加する場合は、管理対象マシンの識別名を入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号と、半角スペースは使用できません。また、数字のみの識別名は登録できません。 ! " # $ % & ' * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~ 同じDPMサーバ配下で同じ識別名は作成不可です。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。
MACアドレス	新規マシンを1台追加する場合は、MACアドレスを自動的に取得し、表示します。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。
UUID	新規マシンを1台追加する場合は、UUIDを自動的に取得し、表示します。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。
IPアドレス	新規マシンを1台追加する場合は、IPアドレスを自動的に取得し、表示します。編集する場合は、入力できる文字は、半角数字です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 同じDPMサーバ配下で同じIPアドレスには、変更できません。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、DPMサーバと通信するIPアドレスを入力してください。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。

	Deploy-OS		バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを設定します。 各機種で設定する値については,以下の製品Webサイトを参照してください。 https://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/dousa2.html リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 使用している機種で設定するDeploy-OSがリストボックスに表示されない場合は、上記製品Webサイトから機種対応モジュールを入手してDPMサーバにインストールすると、対応するDeploy-OSがリストボックスに表示されます。
	シナリオ設定		
		シナリオ割り当て	シナリオの割り当てをする場合に選択します。 本項目を選択すると、「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。
		シナリオ名	追加する管理対象マシンに割り当てるシナリオを設定します。「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
		シナリオ割り当て解除	シナリオの割り当てを解除する場合に選択します。
	シナリオ実行管理スケジュール		「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールが設定できます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。項目を有効にした場合は、設定必須です。
	一回のみ	**1回のみ、スケジュールを実行します。**	
		日付 (設定必須)	日付を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	日単位	**開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		間隔 (設定必須)	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 デフォルトは、「1日に一回」です。

	週単位	**毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始日 **(設定必須)**	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		曜日指定 **(設定必須)**	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	月単位	**毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。**	
		開始月 **(設定必須)**	開始月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。
		終了月	終了月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 **(設定必須)**	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		毎月 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「毎月」を選択した場合は、日を選択します。 ・01～31 ・月末 例) 「月末」日
		曜日 **(毎月/曜日のどちらか設定必須)**	「曜日」を選択した場合は、曜日を設定します。 例) 第「1」「月曜日」
		左のリストボックス	以下から選択できます。 ・「第」1～4 ・「第」最終
		右のリストボックス	以下から選択できます。 ・月曜日～日曜日
	電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。

	1回のみ	**1回のみ、スケジュールを実行します。**	
		電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合、間隔を10分以上空けて設定します。
		カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
	曜日単位	**設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールが実行されます。**	
		電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
		曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	ネットワーク設定		新規管理対象マシンのネットワーク設定を行います。 デフォルトは、「DPMサーバと同じサブネットワーク」が選択されています。
		DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバをインストールしたサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。

		DPMサーバと別のサブネットワーク		DPMサーバをインストールしたサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 新規管理対象マシンがルータを介して別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
			デフォルトゲートウェイ(設定必須)	デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
			サブネットマスク(設定必須)	サブネットマスクを設定します。
	自動更新設定			新規管理対象マシンの自動更新設定を行います。 デフォルトは、「管理」ビューの「自動更新設定」画面で設定した値です。 「自動更新設定」画面については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。
		自動更新機能		自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、DPMクライアントはDPMサーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		自動更新時間		自動更新時間を設定します。
			左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
			右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。「実行可能時間を指定する」を指定する場合は、ここで指定する時間が実行可能時間帯に含まれている必要があります。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
		適用契機		パッケージ適用契機を以下から選択します。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		リトライ回数		DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。
		リトライ間隔(分)		DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。

		ログオン中は実行しない	チェックすると、自動更新の開始時に管理対象マシンにログオンユーザが存在すれば自動更新を中止します。 チェックしない場合は、ログオンユーザに関係なく自動更新を開始します。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		ログオフまで待つ	チェックすると、「ログオン中は実行しない」により中止した自動更新を、ユーザがログオフした時に開始します。 チェックしない場合は、次回の自動更新契機となります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		実行可能時間を指定する	管理対象マシンが自動更新を実行できる時間帯を指定できます。 「開始」時刻=「終了」時刻:自動更新は常に実行可能です。 「開始」時刻<「終了」時刻:当日の「開始」時刻から当日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 「開始」時刻>「終了」時刻:当日の「開始」時刻から翌日の「終了」時刻まで自動更新の実行が可能です。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
		開始	自動更新を開始できる期間の最初の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
		終了	自動更新を開始できる期間の最後の時刻です。 デフォルトは、「0:00」です。
OK			「新規マシン追加」画面の設定内容で新規マシンを追加して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「新規マシン追加」画面の設定内容で新規マシンを追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.9.3. 新規マシン削除

新規マシンを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。

(3) 「新規マシン一覧」画面が表示されますので、削除する新規マシンの左端のチェックボックスにチェックを入れ、「アクション」リンクの「マシン削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(4) 「OK」ボタンをクリックします。

また、「新規マシン削除」は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。

(3) 「新規マシン一覧」画面が表示されますので、「削除する新規マシンのMACアドレス」をクリックします。

(4) 新規マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン削除」をクリックします。

(5) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

3.10. 「シナリオ」アイコン

「シナリオ」アイコンでは、シナリオグループ、およびシナリオを管理します。
「シナリオ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「シナリオ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「シナリオ」からアクセスできます。
「シナリオ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ一覧」グループボックスが表示されます。

シナリオグループ一覧		
	表示件数	シナリオグループの表示件数が選択できます。
	「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオグループを削除します。 複数チェックを入れると、複数のシナリオグループをまとめて削除できます。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているシナリオグループすべてにチェックが入ります。
	名前	シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
	サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のサブグループ数を表示します。
	シナリオ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のシナリオ数を表示します。
	編集	シナリオグループ名の編集を行います。「📖」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオグループ編集」画面が表示されます。 「シナリオグループ編集」画面については、「3.12.1 シナリオグループ編集」を参照してください。

3.10.1. シナリオグループ追加

シナリオの追加を行う前に、シナリオが属するシナリオグループを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコンをクリックします。

(3) 「シナリオ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

シナリオグループ追加	
名前 **(入力必須)**	シナリオグループ名を入力します。入力できる文字数は、64Byte以内です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 / ;
OK	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でシナリオグループを作成して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でシナリオグループを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

シナリオグループ数、およびシナリオファイル数に関する上限は、以下の表のとおりです。

項目	上限値
シナリオグループ総数(サブシナリオグループを含む全シナリオグループの合計数)	1000
シナリオグループの階層数	20
1シナリオグループに登録できるシナリオファイル数	制限なし
シナリオ総数(サブシナリオグループを含めた全シナリオグループに所属するシナリオの合計数)	制限なし

3.10.2. シナリオグループ削除

シナリオグループを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「グループ一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するシナリオグループ***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、シナリオグループ削除は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコンをクリック→「***シナリオ***」アイコン→「***削除するシナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。

(4) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

注:

- シナリオグループを削除すると、当該グループ配下にあるサブシナリオグループとシナリオも削除されます。
- 該当のシナリオグループに所属するシナリオが、管理対象マシンで以下のいずれかの状態となっている場合、該当するシナリオグループの削除はできません。
  - ・シナリオ実行中
  - ・シナリオ実行エラー
  - ・シナリオ実行中断

3.11. 「シナリオグループ」アイコン

「シナリオグループ」アイコンでは、シナリオをシナリオグループごとに分類、管理します。
「シナリオグループ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンからアクセスできます。
「シナリオグループ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「基本情報」、「シナリオ一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。
画面については、「3.12 シナリオグループ詳細」を参照してください。

注:

- DPM Ver6.0より前のバージョンからアップグレードインストールした場合、アップグレードインストール前に作成したシナリオは「Existing Scenarios」シナリオグループに格納されます。

3.11.1. 「Built-in Scenarios」シナリオグループ

DPMサーバをインストールすると、「Built-in Scenarios」シナリオグループが作成され、配下に以下のシナリオが用意されています。

・System_AgentUpgrade_Multicast
・System_Backup
・System_DiskProbe
・System_GetHardwareInfo
・System_LinuxAgentUpgrade_Multicast
・System_LinuxChgBootOrder
・System_LinuxChgHostName
・System_LinuxChgIP
・System_LinuxChgPassword
・System_LinuxMasterSetup
・System_Restore_Unicast
・System_WindowsChgBootOrder
・System_WindowsChgHostName
・System_WindowsChgIP
・System_WindowsChgPassword
・System_WindowsMasterSetup
・System_WindowsMasterSetupVM

注:

- System_GetHardwareInfo, System_LinuxMasterSetup, System_WindowsMasterSetup, System_WindowsMasterSetupVM以外のシナリオは編集、コピー、削除ができます。
- 「Built-in Scenarios」 のシナリオを編集する場合は、「3.12.7 シナリオコピー」を参照して、シナリオをコピーした後、コピーしたシナリオを編集することを推奨します。
- シナリオを編集する際は、「3.14.1 シナリオ編集」を参照してください。
- シナリオを削除する際は、「3.12.8 シナリオ削除」を参照してください。

3.11.1.1. System_AgentUpgrade_Multicast/System_LinuxAgentUpgrade_Multicast

以下のシナリオを使用することにより、DPMクライアントをアップグレードインストールできます。

- System_AgentUpgrade_Multicast：Windows OS用
- System_LinuxAgentUpgrade_Multicast：Linux OS用

詳細については、「インストレーションガイド 3.3.2 DPMクライアントを手動アップグレードインストールする」を参照してください。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.3. 「パッケージ」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

パッケージ			
	パッケージ		
		名前	AgentUpgrade
		種別	アプリケーション
		セットアップパラメータ	空白
	実行タイミング設定		配信後すぐにパッケージを実行
	実行後動作設定		
		パッケージ実行後に再起動を行う	OFF
	配信条件設定		マルチキャストでデータを送信する
		最大ターゲット数(1-1000)	空白
		最大待ち時間(1-1440分)	10
		マルチキャストIPアドレス(パッケージ)	239.192.0.100
		マルチキャストTTL	16
		最大転送レート	OFF

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	OFF
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

3.11.1.2. System_Backup

System_Backupシナリオを使用することにより、管理対象マシンをバックアップできます。
詳細については、「オペレーションガイド 3.1 バックアップ」を参照してください。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

バックアップ/リストア				
	バックアップ/リストアを実行する			ON
		(ラジオボタン)		バックアップ
		イメージファイル		C:¥DeployBackup¥backup.Ibr
		マシン名		OFF
		MACアドレス		ON
		UUID		ON
		備考		空白
		バックアップ/リストア対象		
			隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)	ON
			ディスク情報	・ ディスク番号:1 ・ パーティション番号:a-v ・ 処理方式:有効セクタ
		配信条件設定		ユニキャストでデータを送信する
		バックアップ設定		
			データ圧縮	圧縮する
			イメージ種別	復旧用イメージ
			バックアップイメージファイル世代管理数(0-99)	0
			ベリファイデータ作成	OFF

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	ON
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

3.11.1.3. System_DiskProbe

System_DiskProbeシナリオを使用することにより、管理対象マシンに対してディスク構成チェックを行うことができます。
詳細については、「リファレンスガイド ツール編 4.1 ディスク構成チェックツール」を参照してください。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

バックアップ/リストア			
	バックアップ/リストアを実行する		ON
		(ラジオボタン)	ディスク構成チェック

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	ON
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

3.11.1.4. System_LinuxChgHostName/System_WindowsChgHostName

以下のシナリオを使用することにより、管理対象マシンのマシン名を変更することができます。
・System_WindowsChgHostName：Windows OS用
・System_LinuxChgHostName：Linux OS(Red Hat Enterprise Linux 6以降、またはSUSE Linux Enterprise)用

本シナリオの使用方法は、以下のとおりです。

(1) 本シナリオの編集画面を表示してください。
画面の表示手順については、「3.14.1 シナリオ編集」を参照してください。

(2) メインウィンドウに「シナリオ編集」画面が表示されますので、「パッケージ」タブを選択し、「セットアップパラメータ」に変更後のマシン名を設定し、「OK」ボタンをクリックします。

注:
■ マシン名は、以下の点に注意して指定してください。
・入力できる文字数は、63Byte以内です。
・使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。ただし、以下の半角記号と半角スペース/全角文字は、使用できません。
! " # $ % & ' ( ) * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~
・数字のみのマシン名は登録できません。
・他のマシン名、ドメイン/ワークグループ名と同じにならないようにしてください。

(3) シナリオを管理対象マシンに割り当てます。
詳細については、「3.8.3 シナリオ割り当て」を参照してください。

(4) シナリオを実行します。
詳細については、「3.8.6 シナリオ実行」を参照してください。

注:
■ System_WindowsChgHostNameシナリオを実行した後は、管理対象マシンの再起動を行います。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.3. 「パッケージ」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

パッケージ			
	パッケージ		
		名前	Local-LinuxChgHostNameまたは Local-WindowsChgHostName
		種別	アプリケーション
		セットアップパラメータ	空白
	実行タイミング設定		配信後すぐにパッケージを実行
	実行後動作設定		
		パッケージ実行後に再起動を行う	System_LinuxChgHostName: OFF System_WindowsChgHostName: ON
	配信条件設定		ユニキャストでデータを送信する

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	OFF
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

3.11.1.5. System_LinuxChgIP/System_WindowsChgIP

以下のシナリオを使用することにより、管理対象マシンのIPv4アドレスを追加/変更/削除することができます。

- System_WindowsChgIP：Windows OS用
- System_LinuxChgIP：Linux OS(Red Hat Enterprise Linux 6以降、またはSUSE Linux Enterprise)用

注:

- Bonding 設定、または Teaming 設定された IP アドレスには対応していません。
- System_LinuxChgIP シナリオを使用する場合は、以下の点に注意してください。
  - ・Red Hat Enterprise Linux の管理対象マシンで、一つのインタフェース設定ファイルに対して IP アドレスが複数記載されている場合は、最初の IP アドレスが対象となります。
  - ・インタフェース設定ファイルのファイル名とファイル内の DEVICE(Red Hat Enterprise Linux の場合)、または LABEL(SUSE Linux Enterprise の場合)に設定されている名前は一致している必要があります。
  - ・NetworkManager daemon を無効に設定しておいてください。
    Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合は、さらに、
    /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-Auto_Ethernet*ファイルを削除してください。
    手順の詳細については、「オペレーションガイド 3.4.1.3 マスタイメージ作成の準備をする」の
    注意に記載の「■NetworkManager daemon が有効な環境では、ディスク複製用情報ファイルで指定した DNS 設定は反映されません。」を参照してください。
  - ・SUSE Linux Enterpriseの場合は、MACアドレスの依存性を削除しておいてください。
    手順の詳細については、「オペレーションガイド 3.4.4 注意事項、その他」の「・マシンのネットワーク設定はMACアドレスと関連付いています。」-「SUSE Linux Enterpriseの場合」-「・マスタマシンに対して、以下の手順を行うことによりMACアドレスの依存性を削除します。」を参照してください。

本シナリオの使用方法は、以下のとおりです。

(1) 本シナリオの編集画面を表示してください。
画面の表示手順については、「3.14.1 シナリオ編集」を参照してください。

(2) メインウィンドウに「シナリオ編集」画面が表示されますので、「パッケージ」タブを選択し、「セットアップパラメータ」に以下のいずれかの方法(構文)でIPアドレスを指定し、「OK」ボタンをクリックします。
なお、表記の都合上複数行で記載している箇所がありますが、1行で入力してください。

・IPアドレスを追加する場合
- IPアドレスを固定で指定する場合
  /ADD /M ***MACアドレス*** [/IP ***IPアドレス*** [/MASK ***サブネットマスク***] [/GW ***ゲートウェイ***]]
  [/DNS ***DNSサーバのIPアドレス***] [/WINS ***WINSサーバのIPアドレス***]
- DHCPサーバからIPアドレスを割り当てる場合
  /ADD /M ***MACアドレス*** [/IP DHCP] [/DNS ***DNSサーバのIPアドレス***] [/WINS ***WINSサーバのIPアドレス***]

例)
/ADD /M 12-34-56-78-9a-bc /IP 192.168.0.5 /MASK 255.255.255.0 /GW 192.168.2.120
/DNS 172.28.181.1 /WINS 172.28.181.2

・IPアドレスを変更する場合
- IPアドレスを固定で指定する場合
  /SET /M ***MACアドレス*** [/IP ***IPアドレス*** [/MASK ***サブネットマスク***] [/GW ***ゲートウェイ***]]
  [/DNS ***DNSサーバのIPアドレス***] [/WINS ***WINSサーバのIPアドレス***]
- DHCPサーバからIPアドレスを割り当てる場合
  /SET /M ***MACアドレス*** [/IP DHCP] [/DNS ***DNSサーバのIPアドレス***] [/WINS ***WINSサーバのIPアドレス***]

例)
/SET /M 12-34-56-78-9a-bc /IP 192.168.0.5 /MASK 255.255.255.0 /GW 192.168.2.120

/DNS 172.28.181.1 /WINS 172.28.181.2

・ IPアドレスを削除する場合
/DEL /IP ***IPアドレス*** [/GW ***ゲートウェイ***] [/DNS ***DNSサーバのIPアドレス***] [/WINS ***WINSサーバのIPアドレス***]

例)
/DEL /IP 192.168.0.5 /GW 192.168.2.120 /DNS 172.28.181.1 /WINS 172.28.181.2

注:

- IP アドレスの追加/変更の場合は、/IP、/DNS、/WINS のいずれかを必ず指定してください。
- IP アドレスの変更は、MAC アドレスに設定されている IP アドレスなどの情報をすべて削除した後、指定した内容を設定します。
- 「パッケージ」タブの以下の設定は変更しないでください。
  - 「実行タイミング設定」グループボックス-「配信後すぐにパッケージを実行」を選択してください。
  - 「実行後動作設定」グループボックス-「パッケージ実行後に再起動を行う」のチェックを入れないでください。
- System_LinuxChgIP シナリオについては、以下に注意してください。
  - IP アドレスの追加は、「/GW ゲートウェイ」を指定するとゲートウェイを追加ではなく、変更となります。
  - DHCP サーバから IP アドレスを割り当てる場合は、「/DNS DNS サーバの IP アドレス」を指定しても無視されます。
  - 「/WINS WINSサーバのIPアドレス」を指定した場合は、無視されます。
- 角かっこ(「[」、「]」)で囲って表記しているオプションは、省略できます。
- 各オプションで指定する値は、以下の形式で入力してください。
  - MACアドレス:「xx-xx-xx-xx-xx-xx」、または「xx:xx:xx:xx:xx:xx」
  - IPアドレス/サブネットマスク/ゲートウェイ/DNSサーバのIPアドレス/WINSサーバのIPアドレス:「xxx.xxx.xxx.xxx」

---

(3) シナリオを管理対象マシンに割り当てます。
詳細については、「3.8.3 シナリオ割り当て」を参照してください。

(4) シナリオを実行します。
詳細については、「3.8.6 シナリオ実行」を参照してください。

(5) シナリオの実行結果を確認します。
詳細については、「4.5 シナリオ実行結果一覧の詳細」を参照してください。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.3. 「パッケージ」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

パッケージ			
	パッケージ		
		名前	Local-LinuxChgIPまたは Local-WindowsChgIP
		種別	アプリケーション
		セットアップパラメータ	空白
	実行タイミング設定		配信後すぐにパッケージを実行
	実行後動作設定		
		パッケージ実行後に再起動を行う	OFF
	配信条件設定		ユニキャストでデータを送信する

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	OFF
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

3.11.1.6. System_LinuxChgPassword/System_WindowsChgPassword

以下のシナリオを使用することにより、管理対象マシンのAdministrator/rootのパスワードを変更することができます。
・System_WindowsChgPassword：Windows OS用
・System_LinuxChgPassword：Linux OS(Red Hat Enterprise Linux 6以降、またはSUSE Linux Enterprise)用

本シナリオの使用方法は、以下のとおりです。

(1) 本シナリオの編集画面を表示してください。
画面の表示手順については、「3.14.1 シナリオ編集」を参照してください。

(2) メインウィンドウに「シナリオ編集」画面が表示されますので、「パッケージ」タブを選択し、「セットアップパラメータ」に変更後のパスワードを指定します。

(3) 「OK」ボタンをクリックします。

注:
■ パスワードの指定については、以下の点に注意してください。
・ダブルクォーテーション「"」で囲んでください。
・各OSのパスワード設定ポリシーも参照してください。
・使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。ただし、以下の半角記号と、半角カナ/全角文字は使用できません。
！"＄￥｀|

(4) シナリオを管理対象マシンに割り当てます。
詳細については、「3.8.3 シナリオ割り当て」を参照してください。

(5) シナリオを実行します。
詳細については、「3.8.6 シナリオ実行」を参照してください。

(6) シナリオの実行結果を確認します。
詳細については、「4.5 シナリオ実行結果一覧の詳細」を参照してください。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.3. 「パッケージ」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

パッケージ			
	パッケージ		
		名前	Local-LinuxChgPasswordまたは Local-WindowsChgPassword
		種別	アプリケーション
		セットアップパラメータ	空白
	実行タイミング設定		配信後すぐにパッケージを実行
	実行後動作設定		
		パッケージ実行後に再起動を行う	OFF
	配信条件設定		ユニキャストでデータを送信する

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	OFF
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

3.11.1.7. System_Restore_Unicast

System_Restore_Unicastシナリオを使用することにより、管理対象マシンをリストア(ユニキャスト)できます。
詳細については、「オペレーションガイド 3.2 リストア」を参照してください。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

バックアップ/リストア			
	バックアップ/リストアを実行する		ON
		(ラジオボタン)	リストア
		イメージファイル	C:¥DeployBackup¥backup.lbr
		マシン名	OFF
		MACアドレス	ON
		UUID	ON
		備考	空白
		バックアップ/リストア対象	
			隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア) ON
			ディスク情報 ・ ディスク番号(元):0 ・ パーティション番号(元):0 ・ ディスク番号(先):1 ・ パーティション番号(先):0
		配信条件設定	ユニキャストでデータを送信する

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	ON
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

3.11.1.8. System_LinuxMasterSetup/System_WindowsMasterSetup/System_WindowsMasterSetupVM

以下のシナリオを使用することにより、ディスク複製OSインストールのマスタイメージを作成することができます。

- System_WindowsMasterSetup：Windows OS用
- System_WindowsMasterSetupVM：Windows OS(仮想マシン)用
- System_LinuxMasterSetup：Linux OS用

詳細については、「オペレーションガイド 3.3. ディスク複製OSインストール(Windows)」、または「オペレーションガイド 3.4. ディスク複製OSインストール(Linux)」を参照してください。

注:

- 本シナリオにはシナリオを正常に動作させるための特別な処理が組み込まれており、削除、編集することができません。コピーはできますが、コピー後、シナリオを編集すると特別な処理がクリアされてしまいマスタイメージが作成できなくなります。
- シナリオを実行すると、管理対象マシンは電源断されます。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.3. 「パッケージ」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

パッケージ			
	パッケージ		
		名前	LinuxMasterSetupまたはWindowsMasterSetup
		種別	アプリケーション
		セットアップパラメータ	空白
	実行タイミング設定		配信後すぐにパッケージを実行
	実行後動作設定		
		パッケージ実行後に再起動を行う	OFF
	配信条件設定		ユニキャストでデータを送信する

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	OFF

3.11.1.9. System_GetHardwareInfo

SSC向け製品で使用するシナリオです。
DPM単体で使用する場合、System_DiskProbeと同等の機能になります。

注:

- 本シナリオにはシナリオを正常に動作させるための特別な処理が組み込まれており、削除、編集、コピー、移動、詳細表示することができません。
- シナリオを実行すると、管理対象マシンは電源断されます。

3.11.1.10. System_LinuxChgBootOrder/System_WindowsChgBootOrder

以下のシナリオを使用することにより、ブートモードがUEFIの管理対象マシンのUEFIブートメニューの並び順をネットワークデバイスが先頭の並び順に変更することができます。

・System_WindowsChgBootOrder：Windows OS(Windows Server 2012/Windows 8以降)用
・System_LinuxChgBootOrder：Linux OS(Red Hat Enterprise Linux 6以降)用

注:

- UEFI ブートメニューの並び順の変更が必要な物理マシン/仮想マシンについては、対応装置一覧を参照してください。
  https://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/list_souchi/DPM_UEFIBootOrder.pdf
- 本シナリオでは、UEFI ブートメニューの並び順の内で一番上位にあるネットワークデバイスを先頭に変更します。
- 本シナリオを実行するためには、DPM クライアントのインストールが必須となります。

本シナリオの初期設定は以下のとおりです。
各項目については「3.13.3. 「パッケージ」タブ」と「3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

パッケージ			
	パッケージ		
		名前	Local-LinuxChgBootOrderまたは Local-WindowsChgBootOrder
		種別	アプリケーション
		セットアップパラメータ	空白
	実行タイミング設定		配信後すぐにパッケージを実行
	実行後動作設定		
		パッケージ実行後に再起動を行う	OFF
	配信条件設定		ユニキャストでデータを送信する

オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	OFF
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

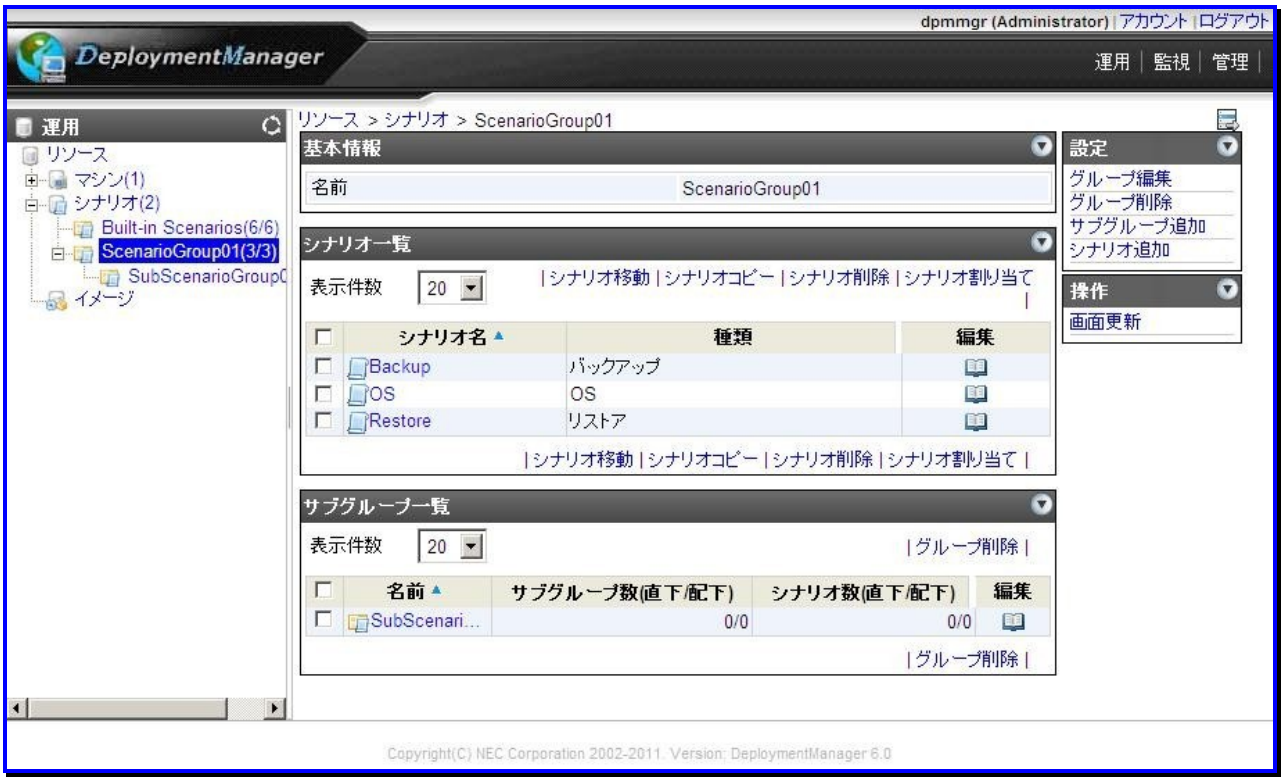
3.12. シナリオグループ詳細

シナリオグループの詳細情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***詳細を表示するシナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「基本情報」、「シナリオ一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。



基本情報		シナリオグループの基本情報を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
	親グループ名	サブシナリオグループ(第2階層以下のシナリオグループ)の場合のみ、親グループ名が表示されます。「シナリオ」アイコン直下のシナリオグループ(第1階層のシナリオグループ)の場合、親グループ名は表示されません。
	名前	シナリオグループの名前を表示します。
シナリオ一覧		
	表示件数	このグループに登録されているシナリオの表示件数が選択できます。

	「アクション」リンク	・「シナリオ移動」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオのグループ間移動を行います。 複数チェックを入れると、複数のシナリオをまとめてグループ間移動できます。 ・「シナリオコピー」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオのコピーを行います。複数のシナリオを同時にコピーはできません。 ・「シナリオ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオの削除を行います。 複数チェックを入れると、複数のシナリオをまとめて削除できます。 ・「シナリオ割り当て」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオを管理対象マシンに割り当てます。複数のシナリオを同時に割り当てはできません。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているシナリオすべてにチェックが入ります。
	シナリオ名	このシナリオグループに登録されているシナリオの名前を表示します。
	種類	シナリオの種類を表示します。
	編集	シナリオの編集を行います。「」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ編集」画面が表示されます。 「シナリオ編集」画面については、「3.13.1 「HW設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。
サブグループ一覧		
	表示件数	このグループに登録されているサブグループの表示件数が選択できます。
	「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているサブグループを削除します。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているサブグループすべてにチェックが入ります。
	名前	このグループに登録されているサブグループの名前を表示します。
	サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のサブグループ数を表示します。
	シナリオ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のシナリオ数を表示します。
	編集	シナリオグループ名の編集を行います。「」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオグループ編集」画面が表示されます。「シナリオグループ編集」画面については、「3.12.1 シナリオグループ編集」を参照してください。

3.12.1. シナリオグループ編集

シナリオグループ名を編集します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***編集するシナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ編集」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、シナリオグループ名を編集してください。

シナリオグループ編集	
名前 **(入力必須)**	シナリオグループ名を編集します。入力できる文字数は、64Byte以内です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 / ;
OK	「シナリオグループ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオグループ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.12.2. シナリオグループ削除

シナリオグループを削除します。
詳細は、「3.10.2 シナリオグループ削除」を参照してください。

3.12.3. サブシナリオグループ追加

サブシナリオグループを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「*サブシナリオグループを追加するシナリオグループ*」アイコンをクリックします。

(3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「サブグループ追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、サブシナリオグループ名を設定します。

シナリオグループ追加	
親グループ名	親シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
名前 **(設定必須)**	シナリオグループ名を設定します。 入力できる文字数は、64Byte以内です。同一階層では、同名不可です。 使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 / ;
OK	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でサブシナリオグループを作成して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でサブシナリオグループを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

シナリオグループ数、およびシナリオファイル数に関する上限は以下の表のとおりです。

項目	上限値
シナリオグループ総数(サブシナリオグループを含む全シナリオグループの合計数)	1000
シナリオグループの階層数	20
1シナリオグループに登録できるシナリオファイル数	制限なし
シナリオ総数(サブシナリオグループを含めた全シナリオグループに所属するシナリオの合計数)	制限なし

3.12.4. サブシナリオグループ削除

サブシナリオグループを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***サブシナリオグループを削除するシナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「サブグループ一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するサブシナリオグループ***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、サブシナリオグループの削除は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***サブシナリオグループを削除するシナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) 「サブグループ一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するサブシナリオグループ***」の名前をクリックします。

(4) 「サブシナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。

(5) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

3.12.5. シナリオ追加

シナリオを追加します。
詳細については、「3.13 シナリオ追加」を参照してください。

3.12.6. シナリオ移動

シナリオをグループ間移動します。シナリオは、管理対象マシンの状態(自動更新の状態/シナリオの状態/電源の状態)を問わず、いつでも移動できます。

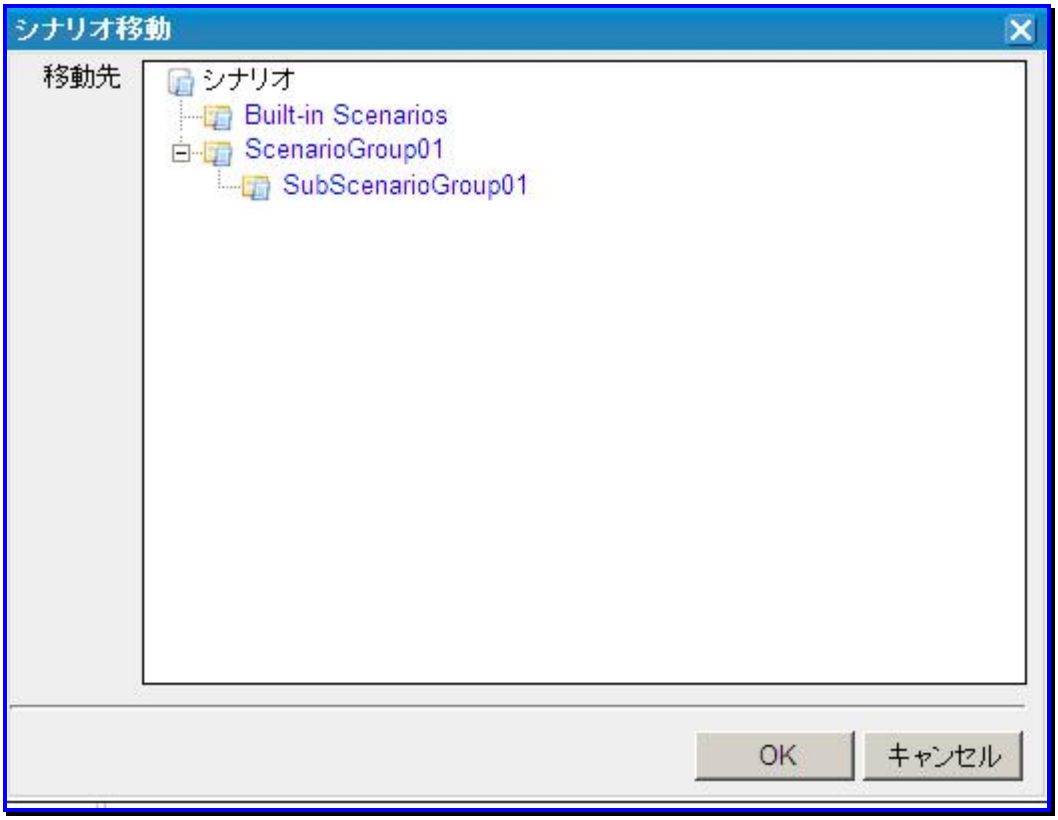
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***移動するシナリオ***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「シナリオ移動」をクリックします。

(5) 以下のダイアログボックスボックスが表示されますので、「***移動先のグループ***」を指定します。



(6) 「OK」ボタンをクリックします。

また、シナリオ移動は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***移動するシナリオ***」の名前をクリックします。

(4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ移動」をクリックします。

(5) 「シナリオ移動」ダイアログボックスが表示されますので、「***移動先のグループ***」を指定します。

(6) 「OK」ボタンをクリックします。

注:

- シナリオは、同一グループ配下の複数のシナリオを選択して移動することができます。

3.12.7. シナリオコピー

シナリオをグループ間コピーします。シナリオは、管理対象マシンの状態(自動更新の状態/シナリオの状態/電源の状態)を問わず、いつでもコピーできます。

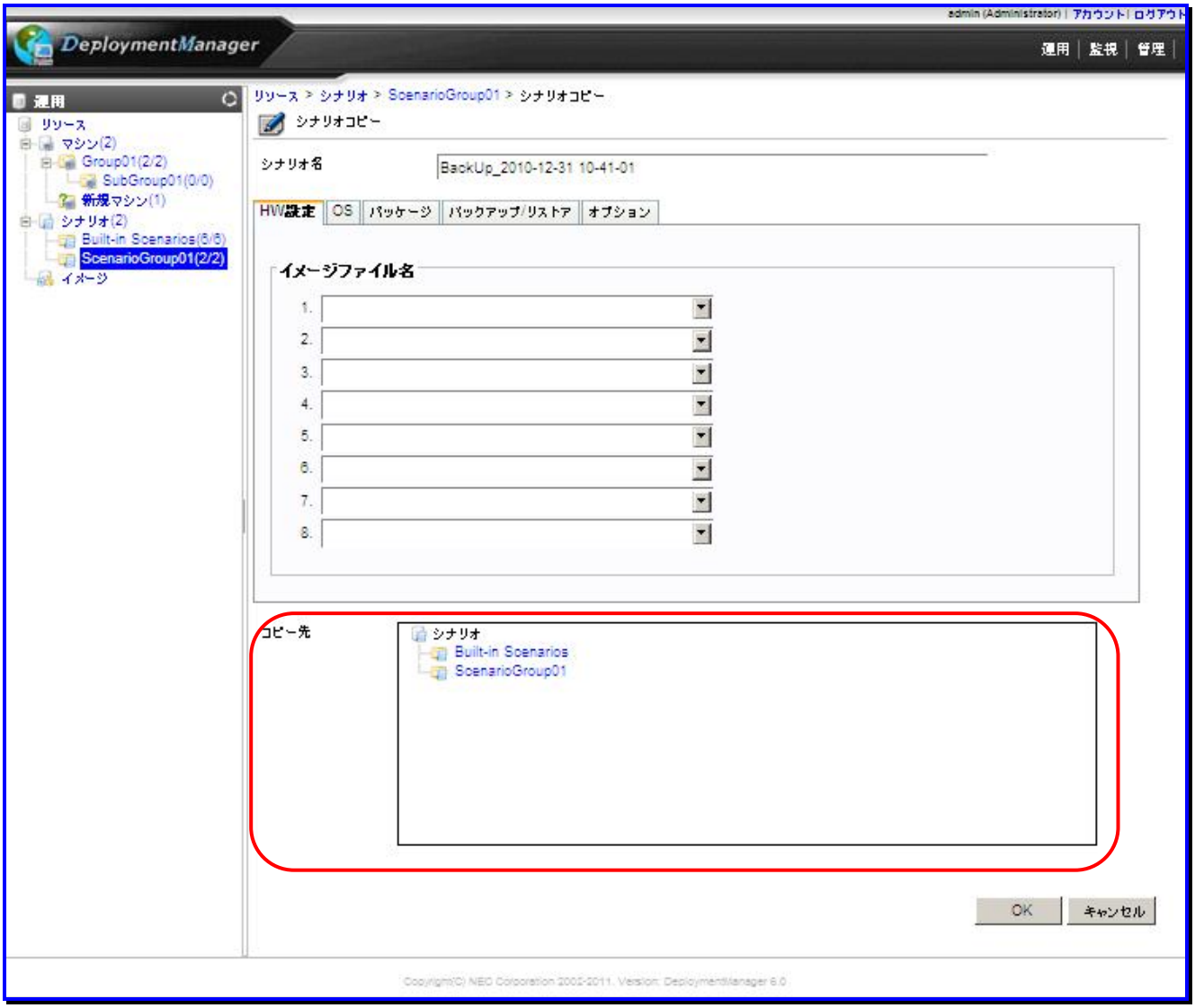
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***コピーするシナリオ名***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「シナリオコピー」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、「コピー先」→シナリオグループツリー→「***コピー先のシナリオグループ***」を選択します。



(6) 「OK」ボタンをクリックします。

また、「シナリオコピー」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***コピーするシナリオ名***」をクリックします。

(4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオコピー」をクリックします。

(5) メインウィンドウに「シナリオコピー」画面が表示されますので、「コピー先」→シナリオグループツリー→「***コピー先のシナリオグループ***」を選択します。

(6) 「OK」ボタンをクリックします。

シナリオコピー		
	シナリオ名 **(入力必須)**	コピー先のシナリオ名を表示します。 シナリオ名は、「コピー元のシナリオ名_YYYY-MM-DD hh-mm-ss」の形式で表示します。 シナリオ名は編集できます。入力できる文字数は、58Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 " * , . / : ; < > ? ¥ |
	コピー先	コピー先のシナリオグループを選択します。
OK		「シナリオコピー」画面の設定内容でシナリオコピーして、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「シナリオコピー」画面の設定内容でシナリオコピーせずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

- 各タブの内容は、コピー元のシナリオの設定値を表示し、編集もできます。編集については、「3.13.1 「HW設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。

3.12.8. シナリオ削除

シナリオを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***削除するシナリオ***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「シナリオ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、シナリオ削除は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「削除するシナリオ」の名前をクリックします。

(4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ削除」をクリックします。

(5) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

3.12.9. シナリオ割り当て

シナリオを割り当てます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***シナリオ名***」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「シナリオ割り当て」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、「*グループ*」を選択します。

(6) 「管理対象マシン一覧」グループボックスに(5)で選択したグループ配下のマシン一覧が表示されますので、「*シナリオ割り当てするマシン*」を選択します。

(7) 「OK」ボタンをクリックして、実行してください。

また、シナリオ割り当ては、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「*シナリオグループ*」アイコンをクリックします。

(3) 「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「*シナリオ名*」をクリックします。

(4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ割り当て」をクリックします。

(5) メインウィンドウに「シナリオ割り当て」画面が表示されますので、「*グループ*」を選択します。

(6) 「管理対象マシン一覧」グループボックスに(5)で選択したグループ配下のマシン一覧が表示されますので、「*シナリオ割り当てするマシン*」を選択します。

(7) 「OK」ボタンをクリックします。

3.13. シナリオ追加

シナリオを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「*シナリオ追加するシナリオグループ*」アイコンをクリックします。

(3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を設定します。

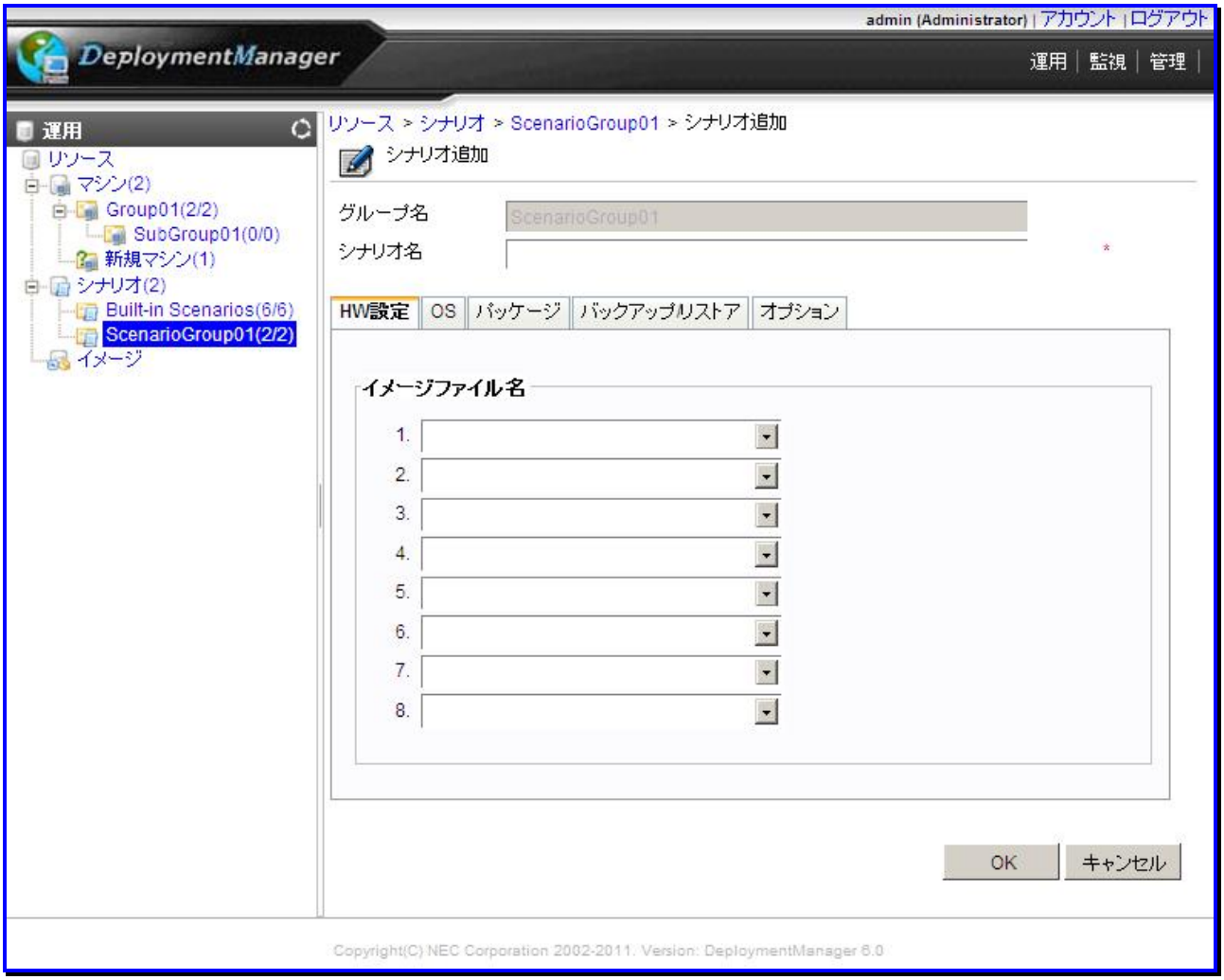
シナリオ追加	
グループ名	シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
シナリオ名 **(入力必須)**	シナリオ名を設定します。入力できる文字数は、58Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 " * , . / : ; < > ? ¥ |

注:

- 各タブ(「HW設定」、「OS」、「パッケージ」、「バックアップ/リストア」、「オプション」)の説明については、「3.13.1 「HW設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。

3.13.1. 「HW 設定」タブ

シナリオの「HW設定」タブを設定します。



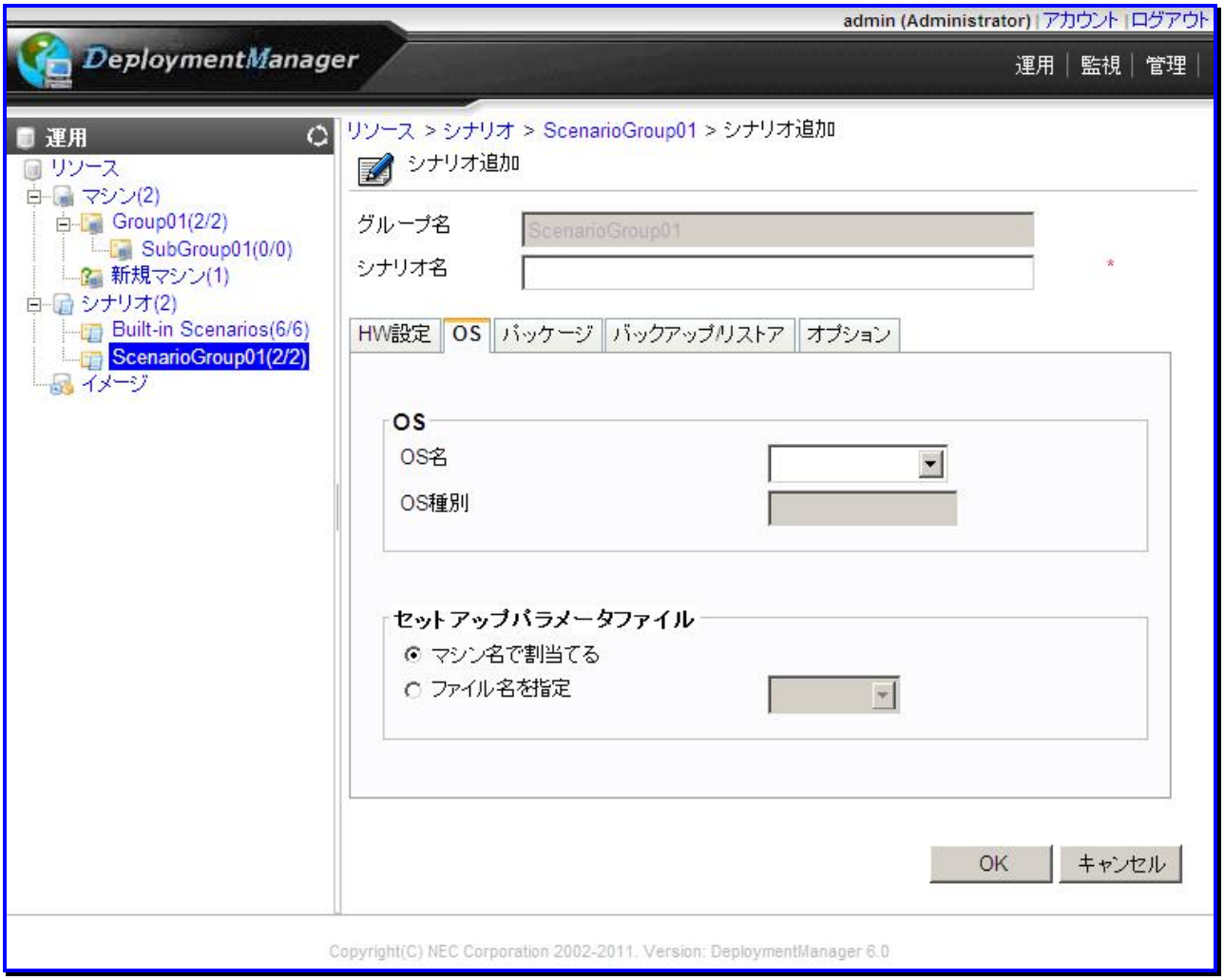
HW設定		
	イメージファイル名	
	1.～8.	八つのリストボックスからイメージファイルを選択します。 イメージファイルは、イメージビルダで作成した「フロッピーディスクイメージ」を選択してください。 「バックアップ/リストア」タブ-「バックアップ/リストアを実行する」で「ディスク構成チェック」のラジオボタンを選択した場合、ここでイメージファイル名の選択はできません。

注:

- イメージファイルの登録/削除と、シナリオの作成/編集は同時には行えません。シナリオ作成/編集画面を開いている時は、イメージビルダを操作しないでください。

3.13.2. 「OS」タブ

シナリオの「OS」タブを設定します。



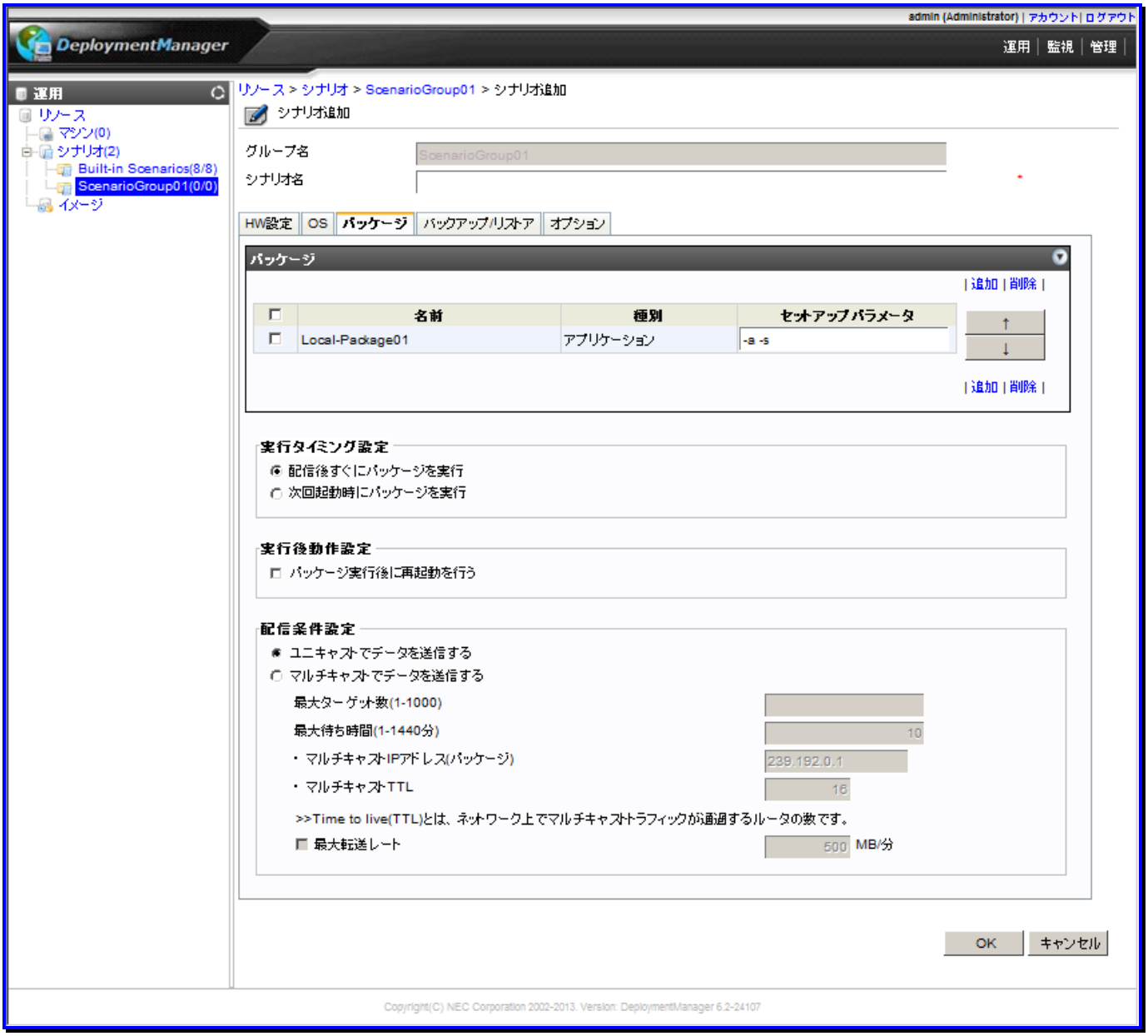
OS			
	OS		
		OS名	OS名を選択します。 リストボックスに表示されるOSは、「Linux」と「Linux(gPXE)」です。 通常は、「Linux」を選択してください。 なお、OSを選択した場合は、「セットアップパラメータファイル」の設定項目が有効になります。 「バックアップ/リストア」タブ-「バックアップ/リストアを実行する」の「リストア」、または「ディスク構成チェック」のラジオボタンが選択されている場合、「OS名」は設定できません。
		OS種別	「OS名」で「Linux」と「Linux(gPXE)」を選択した場合は、OS種別に「Linux」と表示します。
	セットアップパラメータファイル		
		マシン名で割当てる	マシン名で割り当てる場合に選択します。 デフォルトは、「マシン名で割当てる」が選択されています。 なお、同名の管理対象マシンが存在する場合は、本項目は、選択しないでください。
		ファイル名を指定	事前にイメージビルダで作成したセットアップパラメータのファイル名を指定する場合に選択します。 ラジオボタンを選択するとリストボックスからファイル名を設定できます。 項目を有効にした場合は、設定必須です。

注:

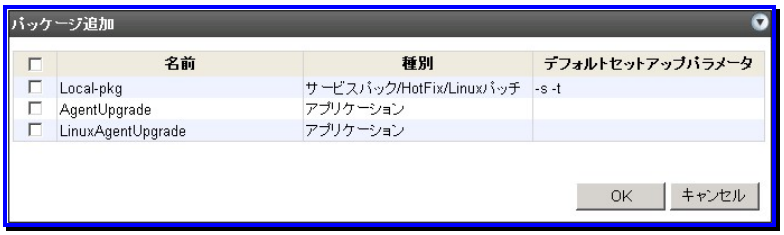
- 「OS」タブで設定を行った場合は、「バックアップ/リストア」タブの「リストア」を設定できません。

3.13.3. 「パッケージ」タブ

シナリオの「パッケージ」タブを設定します。



<table>
<tr><td colspan="3">パッケージ</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">パッケージ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>名前</td><td>実行するパッケージの名前を表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>種別</td><td>実行するパッケージの種別を表示します。
以下の2種類があります。
・サービスパック/HotFix/Linuxパッチ
・アプリケーション</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>セットアップパラメータ</td><td>実行するパッケージのセットアップパラメータを設定します。
入力できる文字数は、128KByte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。
デフォルトは、パッケージ作成時にセットアップパラメータに設定した値です。
なお、設定する値については、パッケージ作成時と同様に注意事項があります。詳細は、「リファレンスガイド ツール編 1.4.1 Windowsパッケージ作成」の「■「実行設定」タブ」、または「リファレンスガイド ツール編 2.2.2 実行設定情報」を参照してください。
以下の表に記載の文字列を指定することにより、シナリオ実行時に管理対象マシンの実際の内容に変換して、シナリオを実行することができます。なお、大文字で指定してください。
<table><tr><th>指定する文字列</th><th>シナリオ実行時に変換される内容</th></tr><tr><td>|MAC|</td><td>管理対象マシンのMACアドレス</td></tr><tr><td>|UUID|</td><td>管理対象マシンのUUID</td></tr><tr><td>|IPADDR|</td><td>管理対象マシンのIPアドレス</td></tr><tr><td>|COMPUTERNAME|</td><td>管理対象マシンのマシン名</td></tr></table>
また、上記の表に記載の文字列をシナリオ実行時に変換せずに指定したい場合は、「|」の前に「¥」を指定してください。
例)
¥|UUID¥|</td></tr>
</table>

		「アクション」リンク	・「追加」をクリックすると、「パッケージ追加」グループボックスが表示されます。  - 追加するパッケージの左端のチェックボックスにチェックを入れて、複数のパッケージを選択して追加できます。追加したパッケージは、「パッケージ」グループボックスに表示されます。 なお、追加するパッケージは、イメージビルダやPackageDescriberを使用して作成してください。作成方法については、「リファレンスガイド ツール編 1.4 パッケージの登録/修正」、または「リファレンスガイド ツール編 2.2 パッケージ作成」を参照してください。 - パッケージは、サービスパック/HotFix/パッチ、アプリケーションのそれぞれの種別ごとに8個まで追加できます。 - 「デフォルトセットアップパラメータ」には、パッケージ作成時に指定したセットアップパラメータを表示します。 ・「削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているパッケージを削除します。 複数チェックを入れると、複数のパッケージをまとめて削除できます。
		(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているパッケージすべてにチェックが入ります。
		[↑]	左端のチェックボックスにチェックを入れたパッケージを一つ上に移動します。
		[↓]	左端のチェックボックスにチェックを入れたパッケージを一つ下に移動します。
	実行タイミング設定		
		配信後すぐにパッケージを実行	配信後すぐにパッケージを実行する場合は、ラジオボタンを選択し、設定します。
		次回起動時にパッケージを実行	次回起動時にパッケージを実行する場合に選択します。 再起動前の管理対象マシンは、シナリオの「パッケージ」タブ-「実行タイミング設定」の「次回起動時にパッケージを実行」を指定したシナリオを合計100個実行することができます。101個以上のシナリオを実行する場合は、管理対象マシンを再起動してください。再起動することにより新たに100個のシナリオを実行することができます。 なお、「次回起動時にパッケージを実行」を選択した場合は、下記に注意してください。 ・「オプション」タブの「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」にチェックを入れた場合は、アップデート完了後に管理対象マシンの電源がOFFされるのではなく、データの配信後に電源がOFFされます。 ・管理対象マシン上で、次回起動時のアップデート中にアップデート、またはアプリケーションのシナリオ実行を行った場合は、シナリオ実行エラーとなります。シナリオ実行する場合は、アップデートの完了後に再度行ってください。
	実行後動作設定		

		パッケージ実行後に再起動を行う		「パッケージ実行後に再起動を行う」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージ実行後に管理対象マシンを再起動します。 「パッケージ」タブのみを設定したシナリオの場合は、「パッケージ実行後に再起動を行う」の設定が優先され、パッケージ実行後に管理対象マシンを再起動します。
	配信条件設定			
		ユニキャストでデータを送信する		ユニキャストでデータを送信する場合に選択します。デフォルトは、「ユニキャストでデータを送信する」です。 ルータを越えた別セグメントのネットワークにアップデートを行う際など、マルチキャストのデータが送信できない場合についても、「ユニキャストでデータを送信する」を選択してください。 なお、「ユニキャストでデータを送信する」にチェックを入れているシナリオは、マルチキャストIPの設定を行う必要はありません。
		マルチキャストでデータを送信する		マルチキャストでデータを送信する場合に選択します。以下の項目が有効になります。(※1) ・最大ターゲット数(1-1000) ・最大待ち時間(1-1440分) ・マルチキャストIPアドレス(パッケージ) ・マルチキャストTTL ・最大転送レート
			最大ターゲット数(1-1000)	シナリオを同時実行するマシン数の最大値を設定します。 本項目で指定した数のマシンに対して、シナリオ実行の準備が整うとシナリオが開始されます。 「1～1000」の範囲で設定できます。 デフォルトは、「空白」です。
			最大待ち時間(1-1440分)	マルチキャストでデータを送信する場合は、最大待ち時間を設定します。「1～1440」分の範囲で設定できます。 デフォルトは、「10」分です。 「最大待ち時間」が経過すると、ファイル転送待ちの状態となっている管理対象マシンのみアップデートが開始されます。
			マルチキャストIPアドレス(パッケージ)(設定必須)	マルチキャストIPアドレスを設定します。 マルチキャストIPとは、マルチキャスト時に指定するIPアドレスです。マルチキャストIPアドレスは、「224.0.0.0～239.255.255.255」の間で指定できます。ただし、「239.192.0.0～239.255.255.255」の間を指定することを推奨します。(※1) サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールで異なるシナリオを複数同時に実行する場合は、それぞれのシナリオでマルチキャストIPアドレスが重複しないように設定してください。
			マルチキャストTTL(入力必須)	マルチキャストTTLの数を設定します。「1～127」の範囲で設定できます。 デフォルトは、「16」です。(※2)
			最大転送レート(設定必須)	「最大転送レート」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオの転送レートの制御を行います。 最大転送レートは、1分間に転送する最大のデータ量をMByte単位で指定します。「1～99999999」の範囲で設定できます。デフォルトは、「500」MByte/分です。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。 使用している環境に合わせて設定を行ってください。

※1 ■ マルチキャストとは、単一のパケットを使用し、同一データを複数のマシンに対して同時に送信する通信方法です。これにより、LAN 内のトラフィックを軽減できます。

■ パッケージの実行は、シナリオの実行を指示後、実行準備の完了したマシンが最大ターゲット数と同じ台数になるか、最大待ち時間が経過するまで待機します。待機中のマシンに対してただちにパッケージを実行する機能はありません。

■ 最大ターゲット数、最大待ち時間の両方とも指定しない場合は、シナリオ実行後、他のマシンを待たずに即実行します。

※2 TTLとは、パケットの生存期間をあらわします。この値は、ルータを越えるたびに1ずつ減らされていき、0になった時点で破棄されます。1を指定すると、パケットはルータを越えることができなくなります。

注:

■ 「パッケージ」タブで設定を行った場合は、「バックアップ/リストア」タブの「リストア」を設定できません。

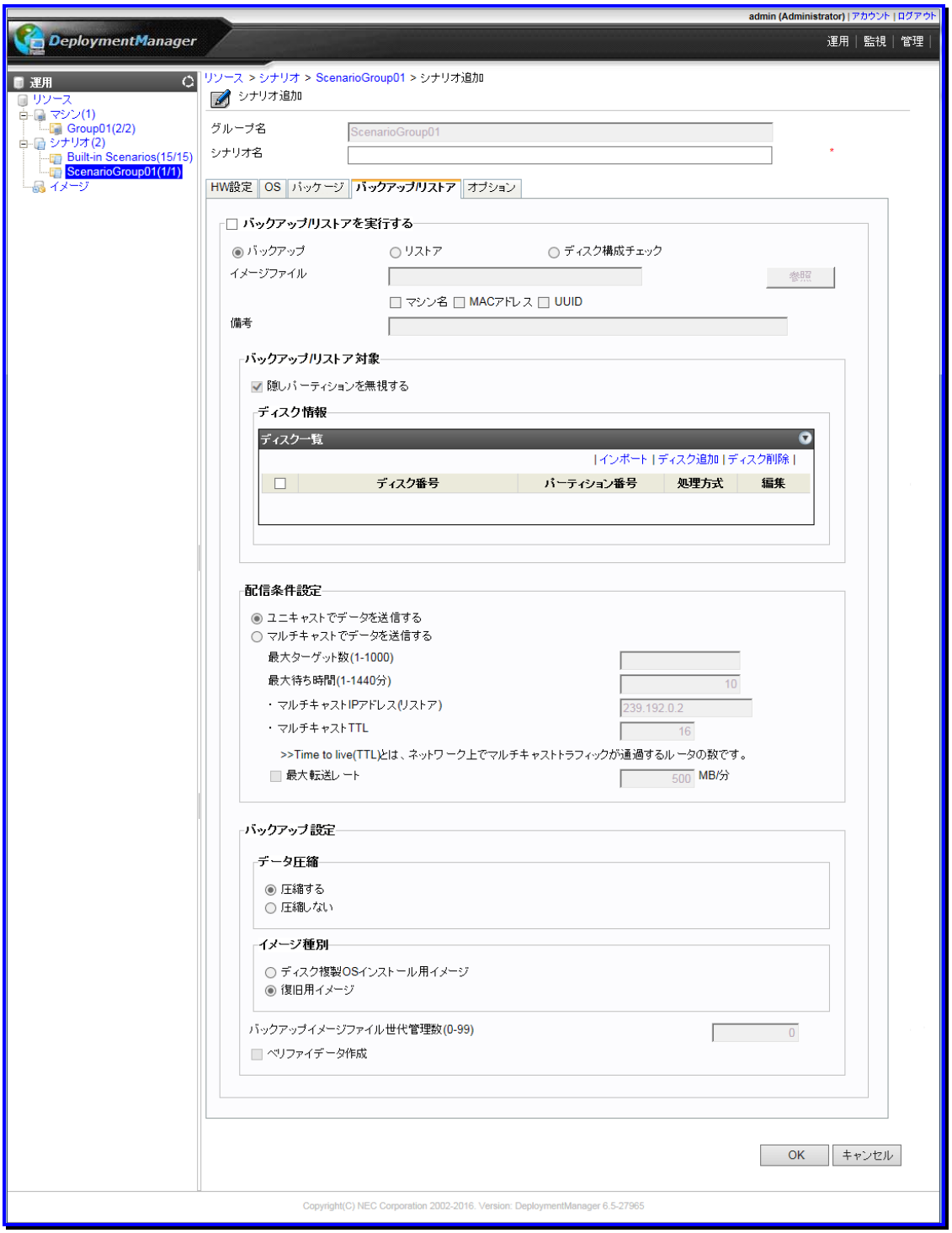
■ サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイルと同時にアプリケーションのインストールも設定した場合は、サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル適用の後にアプリケーションのインストールを実行します。

3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ

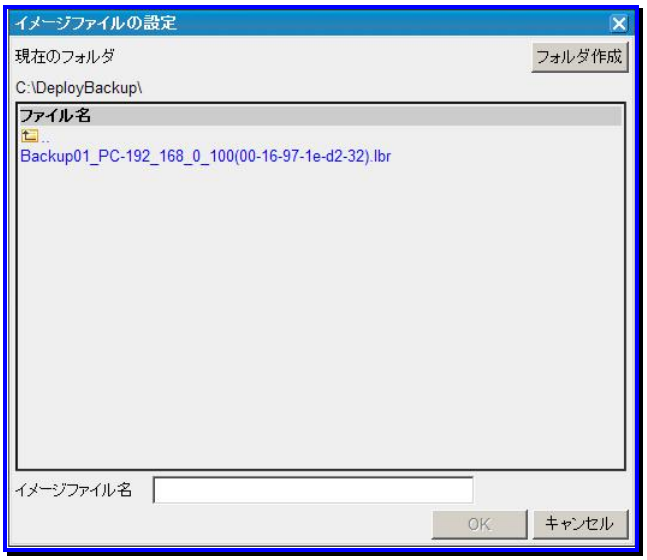
シナリオの「バックアップ/リストア」タブを設定します。

注:

- DPM Ver6.5でバックアップ/リストアシナリオのフォーマットが変更となりました。
  DPM Ver6.5より前のバージョンで作成したバックアップ/リストアシナリオも継続して使用できます(DPM Ver6.5より前のバージョンと同じ動作になります)。



バックアップ/リストア				
	バックアップ/リストアを実行する			
		(チェックボックス)		チェックボックスにチェックを入れると、バックアップ/リストア、およびディスク構成チェックシナリオに関する設定項目が有効になります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
			バックアップ	バックアップシナリオを作成する場合に選択します。
			リストア	リストアシナリオを作成する場合に選択します。 「OS」タブと「パッケージ」タブの設定と同時にラジオボタンを選択できません。
			ディスク構成チェック	ディスク構成チェックシナリオを作成する場合に選択します。 ディスク構成チェックシナリオは、「オプション」タブ以外の設定項目を一緒に設定できません。(※1)

			イメージファイル **(設定必須)**	バックアップ/リストアシナリオのバックアップイメージファイル名、および格納先を以下のいずれかの方法で設定します。 ・「イメージファイル」欄に拡張子(.lbr)も含めたファイルパスを入力する場合入力できる文字数は、バックアップ/リストアそれぞれ以下のとおりです。 - バックアップ:120Byte以内 マシン名/MACアドレス/UUIDチェックボックスすべてにチェックを入れた場合の最大文字数です。それ以外の場合は128Byte以内です。 - リストア:236Byte以内 マシン名/MACアドレス/UUIDチェックボックスのいずれかにチェックを入れた場合の最大文字数です。いずれにもチェックが入っていない場合は、259Byte以内です。 - 使用できる文字は、バックアップ/リストアどちらも半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号と以下の半角記号は使用できません。 ; - 「バックアップ」を選択し、拡張子(.lbr)を入力していない場合は、自動で「.lbr」を補完します。 - 存在しないフォルダは指定できません。存在しないフォルダを設定した場合は、バックアップシナリオ実行時にシナリオ実行エラーとなります。 ・「参照」ボタンから指定する場合 - 「バックアップ」または「リストア」のチェックボックスをチェックしている場合に選択できます。 - 「参照」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されますので、バックアップイメージファイル(.lbr)を選択するか、「イメージファイル名」欄にバックアップイメージファイル名を入力してください。  また、「バックアップイメージ」の保存先として、FAT形式でフォーマットしたドライブの場合は、システムの制限により、「バックアップイメージ」は最大4GByte(FAT16では2GByte)までのものしか作成できません。 また、バックアップシナリオの作成時に「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」にチェックを入れた場合、リストアシナリオの作成時にも同じチェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れると、バックアップイメージファイル名にマシン名、MACアドレス、UUIDを自動で付加するため、同じチェックボックスにチェックを入れていない場合は、リストア実行時、バックアップイメージファイル名と異なるファイル名がバックアップイメージとして指定されるため、リストアを実行できません。(※2)

			マシン名	「マシン名」チェックボックスにチェックを入れると、バックアップイメージファイル名にマシン名が自動で付加されます。 例) BackUp_Server01.lbr バックアップイメージファイル名(BackUp)とマシン名(Server01)の間にはアンダーバーが付きます。 また、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」を複数指定した場合は、マシン名、MACアドレス、UUIDの順番で付加されます。 以下の場合に、チェックボックスにチェックを入れることができます。 ・バックアップシナリオ、またはユニキャストリストアシナリオを作成する ・バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ なお、同名の管理対象マシンが存在する場合は、「MACアドレス」、「UUID」と組み合わせて使用してください。
			MACアドレス	「MACアドレス」チェックボックスにチェックを入れると、バックアップイメージファイル名にMACアドレスが自動で付加されます。 例) BackUp_12-34-56-78-9a-bc.lbr バックアップイメージファイル名(BackUp)とMACアドレス(12-34-56-78-9a-bc)の間にはアンダーバーが付きます。 また、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」を複数指定した場合は、マシン名、MACアドレス、UUIDの順番で付加されます。 以下の場合に、チェックボックスにチェックを入れることができます。 ・バックアップシナリオ、またはユニキャストリストアシナリオを作成する ・バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ
			UUID	「UUID」チェックボックスにチェックを入れると、バックアップイメージファイル名にUUIDが自動で付加されます。 以下の場合に、チェックボックスにチェックを入れることができます。 ・バックアップシナリオ、またはユニキャストリストアシナリオを作成する ・バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ
		備考		バックアップイメージファイルの情報としてコメントを追加できます。 入力できる文字数は、638Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。 設定必須ではありません。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">バックアップ/リストア対象</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)</td><td>パーティション番号を指定してバックアップ/リストアを行う場合に「隠しパーティションを無視する」チェックボックスにチェックを入れると、隠しパーティションを無視します。デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。
「隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)」にチェックが入っている場合は、隠しパーティションをカウントしません。
そのため、以下の例のような(A)～(D)まで四つのパーティションに区切られたディスク装置で、パーティション(D)を指定する場合は、パーティション番号に「2」を指定します。
例)
ディスク装置
<table><tr><td>隠しパーティション(A)</td><td>通常のパーティション(B)</td><td>隠しパーティション(C)</td><td>通常のパーティション(D)</td></tr></table>「隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)」のチェックを外した場合は、パーティション番号は「4」を指定してください。
パーティション番号を指定せずにディスク全体のバックアップ/リストアを行うと、本設定は無視されます。
なお、ディスク構成チェックシナリオの場合は、本設定に関わらず、隠しパーティションをカウントします。(※3)</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ディスク情報</td><td>バックアップ/リストアを行う際の対象となるディスク/パーティションの情報を表示します。
デフォルトは空です。
詳細については後述の「■ディスク情報の設定について」を参照してください。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">配信条件設定</td><td>「バックアップ/リストアを実行する」グループボックスで「リストア」を選択した場合のみ配信条件設定ができます。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ユニキャストでデータを送信する</td><td>ユニキャストでデータを送信する場合に選択します。「バックアップ/リストアを実行する」で「リストア」を選択した場合のみ設定が有効になります。
デフォルトは、「ユニキャストでデータを送信する」です。
ルータを越えた別セグメントのネットワークにリストアを行う際など、マルチキャストのデータが送信できない場合についても、「ユニキャストでデータを送信する」を選択してください。
なお、「ユニキャストでデータを送信する」にチェックを入れているシナリオは、マルチキャストIPの設定を行う必要はありません。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>マルチキャストでデータを送信する</td><td>マルチキャストでデータを送信する場合に選択します。「バックアップ/リストアを実行する」で「リストア」を選択した場合のみ設定が有効になり、以下の項目を指定できます。
・ 最大ターゲット数(1-1000)
・ 最大待ち時間(1-1440分)
・ マルチキャストIPアドレス(パッケージ)
・ マルチキャストTTL
・ 最大転送レート</td></tr>
</table>

		最大ターゲット数(1-1000)	シナリオを同時実行するマシン数の最大値を設定します。 本項目で指定した数のマシンに対して、シナリオ実行の準備が整うとシナリオが開始されます。 最大ターゲット数は、「1～1000」の範囲で設定できます。 設定数を越えてリストアシナリオを実行した場合は、マシンはリストア実行待ちとなります。実行待ちとなったマシンは、実行中のマシンのリストアが完了次第、最大ターゲット数または最大待ち時間のいずれかの条件を満たす場合、または「バックアップ/リストア実行一覧」画面で「今すぐ開始」のクリックにより開始されます。 なお、DPMは、マルチキャストでデータを送信する場合は、UDP通信を行います。 UDP通信では転送速度が違う機器が経路上にある場合などで、送信側と受信側で転送するデータ量に差が生じ、データがうまく転送できない状態になることがあります。 このような場合は、シナリオ完了までの時間が長くなる可能性があります。
		最大待ち時間(1-1440分)	マルチキャストでデータを送信する場合は、最大待ち時間を設定します。 リストア選択時のみ設定できます。ここで設定した待ち時間を経過すると、Restore StandByとなっているマシンのみリストアが開始されます。「1～1440」分の範囲で設定できます。 デフォルトは、「10」分です。
		マルチキャストIPアドレス(リストア) (設定必須)	マルチキャストIPアドレスを設定します。 マルチキャストIPとは、マルチキャスト時に指定するIPアドレスです。マルチキャストIPアドレスは、「224.0.0.0～239.255.255.255」の間で指定できます。ただし、「239.192.0.0～239.255.255.255」の間を指定することを推奨します。 リストアシナリオを複数同時に実行する場合は、それぞれのシナリオでマルチキャストIPアドレスが重複しないように設定してください。(※4)
		マルチキャストTTL (設定必須)	マルチキャストTTLの数を設定します。「1～127」の範囲で指定できます。 デフォルトは、「16」です。(※5)
		最大転送レート (設定必須)	「最大転送レート」チェックボックスにチェックを入れると、転送レートの制御を行います。 最大転送レートは、1分間に転送する最大のデータ量をMByte単位で指定します。「1～99999999」の範囲で設定できます。デフォルトは、「500」MByte/分です。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。使用している環境に合わせて設定を行ってください。
	バックアップ設定		
		データ圧縮	
			圧縮する バックアップイメージ(圧縮データ)とする場合は、本項目を選択してください。
			圧縮しない バックアップイメージ(非圧縮データ)とする場合は、本項目を選択してください。
		イメージ種別	
			ディスク複製OSインストール用イメージ ディスク複製OSインストール用のイメージを作成する場合は、本項目を選択してください。
			復旧用イメージ 復旧用のイメージを作成する場合は、本項目を選択してください。

		バックアップイメージファイル世代管理数(0-99) (入力必須)	バックアップイメージファイル世代管理数を設定します。世代管理とは、通常のバックアップイメージファイルに加え、何世代まで保存するかを指定する機能です。 「0～99」の範囲で設定できます。デフォルトは、「0」です。 世代管理の機能を使用する場合は、バックアップイメージファイルの保存先のHDDの空き容量に注意してください。(※6) 詳細は「ファーストステップガイド 2.2.2 バックアップ/リストアについて」を参照してください。
		ベリファイデータ作成	「ベリファイデータ作成」チェックボックスにチェックを入れると、ベリファイデータを作成します。 「ベリファイデータ作成」は、バックアップしたデータが、バックアップ時から破損していないかを確認するための機能です。リストアする際にバックアップデータに不正(データの破損など)がないか、あらかじめ「バックアップイメージファイル確認ツール」で確認できます。

※1　ディスク構成チェックシナリオで確認できるディスク構成/パーティション構成については、バックアップ/リストア同様の制限があります。詳細については、「ファーストステップガイド 2.2.2 バックアップ/リストアについて」、および「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」の「ファイルシステムやディスク形式の対応状況」を参照してください。また本制限によりディスク、またはパーティションの認識に失敗した場合でも、シナリオ実行エラーにはなりません。

※2 ■ リストアシナリオの場合は、以下の注意事項があります。

・「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスにチェックが入っている場合、そのマシンのマシン名などが変更されると、変更前にバックアップしたバックアップイメージは続けて管理できません。そのため、既存のバックアップイメージをリストアする場合、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスのチェックを外し、「イメージファイル」欄には、既存のバックアップイメージを指定してください。

・「マルチキャストでデータを送信する」を選択した場合、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスにチェックを入れないでください。チェックを入れた場合、シナリオが失敗します。

・「ユニキャストでデータを送信する」を選択し、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスにチェック入れると、チェックを入れた内容に応じてバックアップイメージファイル名を取得します。

・世代管理を行っているバックアップイメージファイルを指定する場合、ファイル名からタイムスタンプ(年月日時分秒)の部分を削除した状態(バックアップシナリオの「イメージファイル」で指定したファイルパスと同じ値)を指定してください。自動的に一番新しい日時の付加されたバックアップイメージファイルでリストアします。

■ 「マシン名」、「MAC アドレス」、「UUID」チェックボックスのチェックを外してバックアップする場合、一つのシナリオで複数の管理対象マシンのバックアップを実行しないことを推奨します。一つのシナリオで実行した場合、バックアップイメージファイルが上書きされてしまいます。

■ バックアップを実行すると、バックアップデータは一時的なテンポラリファイルで作成されます。このテンポラリファイルは、バックアップ完了時にシナリオで指定したイメージファイル名にリネームされます。そのため、既に作成したバックアップイメージファイルが存在している場合は、作成済みのバックアップイメージファイルに加え、一時的に作成されるテンポラリファイルを含めたディスク容量が必要になります。

■ ネットワークに接続している他のマシン(以下ファイルサーバと呼びます)にバックアップイメージファイルのパスの指定を行う場合は、以下の設定を行ってください。

例)

管理サーバ、ファイルサーバのOSにWindows Server 2008 R2を使用した場合は、以下のように設定してください。

以下の1)～3)の手順は、管理サーバ側で行ってください。

1) DPMサーバをインストールしたマシンに管理者権限を持つユーザでログオンする。アカウントは半角英数字を使用してください。

2) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を起動します。
以下のサービスのプロパティを開き、「ログオン」タブの"アカウント"にチェックを入れ、管理者権限を持つユーザアカウントとそのパスワードを入力してください。
ファイルサーバ側で認証を行っていない場合でも本設定は行ってください。

・DeploymentManager API Service

・DeploymentManager Backup/Restore Management

・DeploymentManager PXE Management (Webコンソールで「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコン→「詳細設定」→「DHCPサーバ」タブ→「DHCPサーバを使用しない」を選択している場合のみ)

・DeploymentManager Schedule Management

パスワードポリシーの要件を満たすパスワードを設定してください。

ファイルサーバについては、以下の注意点があります。

・ ファイルサーバにDPMサーバのサービスのプロパティに指定したアカウントとパスワードを持つユーザを作成する必要があります。

・ ファイルサーバ上のイメージ格納用フォルダにここで指定するアカウントがフルコントロールでアクセスできるようにアクセス許可の設定を行ってください。

3) 手順2)で設定変更を行ったサービスを再起動する。

以下の4)～6)の手順は、ファイルサーバ側で行ってください。

4) 管理者権限をもつアカウントでログオンする。

5) エクスプローラなどからバックアップイメージを保存するバックアップイメージ格納用フォルダを作成する。

6) 手順5)で作成したバックアップイメージ格納用フォルダへのアクセス許可に、2)で設定した管理者権限を持つアカウントを追加する。

以下の7)～8)の手順は、Webコンソール側で行ってください。

7) シナリオ作成時に「バックアップ/リストア」タブの「イメージファイル」に5)で作成したフォルダの下のファイルのパスを入力する。
イメージファイル保存先のパスについてはUNC(Universal Naming Convention)形式(¥¥「マシン名」¥「バックアップイメージ格納用フォルダ」¥「サブフォルダ」)のパス名を「イメージファイル」に入力してください。

8) シナリオ実行する。

■ イメージファイルの登録/削除とシナリオの作成/編集は、同時に行えません。シナリオ作成/編集画面を開いている場合は、イメージビルダを操作しないでください。

注:

■ 「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスは、バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ場合にのみ、チェックを入れることができます。

・ 以下の場合は、チェックを入れることができます。
- バックアップ/リストア(同じマシンにリストアする場合)

・ 以下の場合は、チェックを入れることができません。
- ディスク複製OSインストール
- バックアップ/リストア(別のマシンにリストアする場合)

※3 ■ メーカーによっては、保守用パーティションを隠しパーティションとして認識しない場合があります。

例)

弊社のExpress5800シリーズのEXPRESSBUILDERで使用する保守用パーティションは隠しパーティションと認識しません。

■ パーティション番号は、プライマリパーティション、拡張パーティションの論理ドライブの順で番号が割り振られます。(Windows OS の「ディスクの管理」で表示されるパーティションの表示順序と異なる場合があります。)

例)

ディスク装置が下図に示す構成である場合、パーティション(A)は「1」、拡張パーティションの論理ドライブ(B)は「3」、拡張パーティションの論理ドライブ(C)は「4」、パーティション(D)は「2」となります。

<table>
<tr><td rowspan="2">プライマリ
パーティション(A)</td><td colspan="2">拡張パーティション</td><td rowspan="2">プライマリ
パーティション(D)</td></tr>
<tr><td>論理ドライブ(B)</td><td>論理ドライブ(C)</td></tr>
</table>

※4 マルチキャストとは、単一のパケットを使用し、同一データを複数のマシンに対して同時に送信する通信方法をいいます。これにより、LAN内のトラフィックを軽減できます。

※5 TTLとは、パケットの生存期間をあらわします。この値は、ルータを越えるたびに1ずつ減らされていき、0になった時点で破棄されます。1を指定すると、パケットはルータを越えることができなくなります。

※6 ■ 世代管理を行った場合は、バックアップイメージファイル名に作成時のタイムスタンプ(年月日時分秒)を付加します。

・ 世代管理数が 0 の場合
バックアップイメージファイル名にタイムスタンプは付加されません。バックアップする前にシナリオで指定されたバックアップイメージファイル名が存在すれば、そのバックアップイメージファイルを削除します。

・ 世代管理数が 1 以上の場合
バックアップイメージファイル名に作成時のタイムスタンプ(年月日時分秒)を付加します。

バックアップイメージファイルは、世代管理数+1 作成され、この数を超えた場合、最も古いバックアップイメージファイルから順に自動的に削除されます。

世代管理数が 0 のシナリオを、運用の途中で 1 以上に変更した場合、次回バックアップ時より、バックアップイメージファイル名にタイムスタンプが付加されます。その際、世代管理数が 0 の時に採取したバックアップイメージファイルもそのシナリオ実行時のタイムスタンプを付加し、リネームします。

注:

■ 世代管理が 1 以上の状態で、タイムスタンプを含めたファイル名と同じファイル名のバックアップイメージファイルが既に存在する場合、バックアップイメージファイルの上書きはせず、シナリオ実行エラーとなります。

■ 設定した数値を超える回数のバックアップを行う場合は、最も古いバックアップイメージファイルが自動的に削除されます。

例)

最新のバックアップデータ以外に 10 回分のバックアップデータを保存しておきたい場合は、「10」と入力します。

バックアップが実行されると、バックアップイメージファイル名を<指定したファイル名>タイムスタンプ.lbr として保存します。

注:

■ 世代管理数を減らした場合、次回バックアップ時に、設定された値と同じバックアップイメージファイル数となるよう最も古いバックアップイメージから順に自動で削除されます。

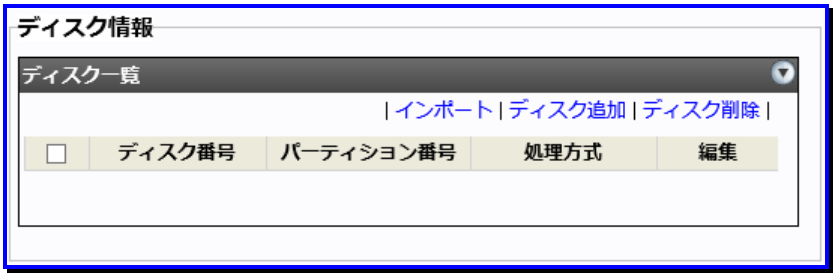
例)

世代管理数「10」から「3」に変更してバックアップを実行した場合、最も古いバックアップイメージファイルから順に7個のファイルが自動で削除されます。

■ ディスク情報の設定について

ディスク情報の設定についての詳細は以下のとおりです。
バックアップシナリオ作成の際は「1. バックアップシナリオ」を、リストアシナリオを作成の際は「2. リストアシナリオ」を参照してください。

1. バックアップシナリオ



「ディスク情報」に表示される「アクション」リンクは以下の表のとおりです。

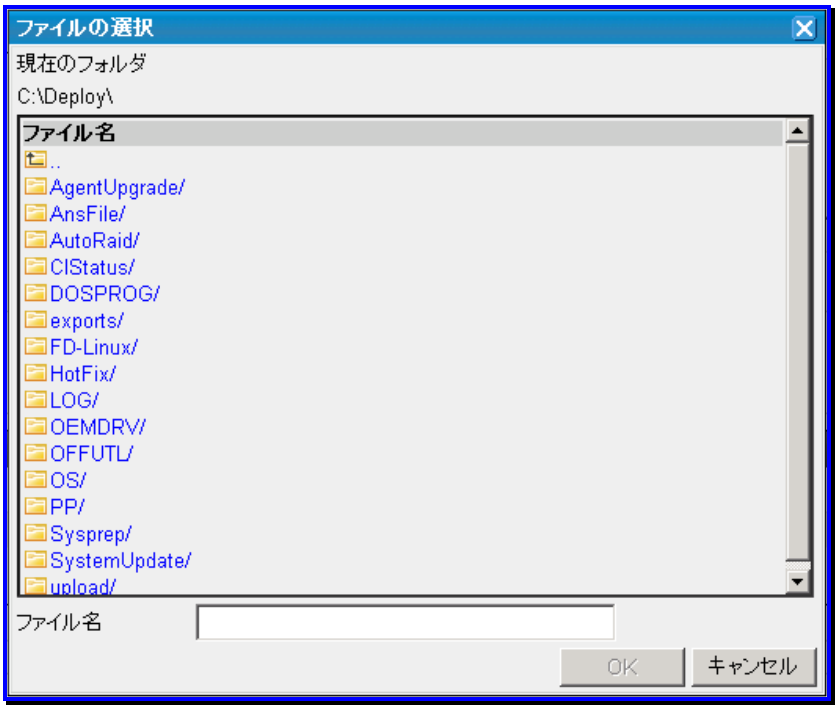
インポート	「ファイルの選択」画面が表示されます。選択したディスク構成チェック結果からディスク情報を読み込んで「ディスク一覧」に表示します。 詳細は「・「ファイルの選択」画面」を参照してください。
ディスク追加	「ディスク編集」画面が表示され、手動でバックアップ対象のディスク情報を追加できます。 詳細は「・「ディスク編集」画面」を参照してください。
ディスク削除	左端のチェックボックスにチェックが入っているディスク情報を削除します。

ディスク情報は、以下のように表示されます。

ディスク情報	
ディスク一覧	バックアップ対象のディスク情報の一覧を表示します。
ディスク番号	バックアップ対象のディスク番号を表示します。
パーティション番号	バックアップ対象のパーティション番号を表示します。 各パーティションの後ろに処理方式を表示します。「パーティション番号」-「処理方式」という形式で表示されます。 パーティション番号には数字を表示しますが、ディスク全体の場合は「a」を表示します。 処理方式は、有効セクタ方式の場合は「v」を、フルセクタ方式の場合は「f」を表示します。
処理方式	ディスクの処理方式を表示します。 ディスク全体を選択している場合は、ディスク全体の処理方式を表します。 ディスクにパーティションを指定する場合は、常に有効セクタで処理します。
編集	ディスク情報の編集を行います。 「ディスク編集」画面が表示されます。

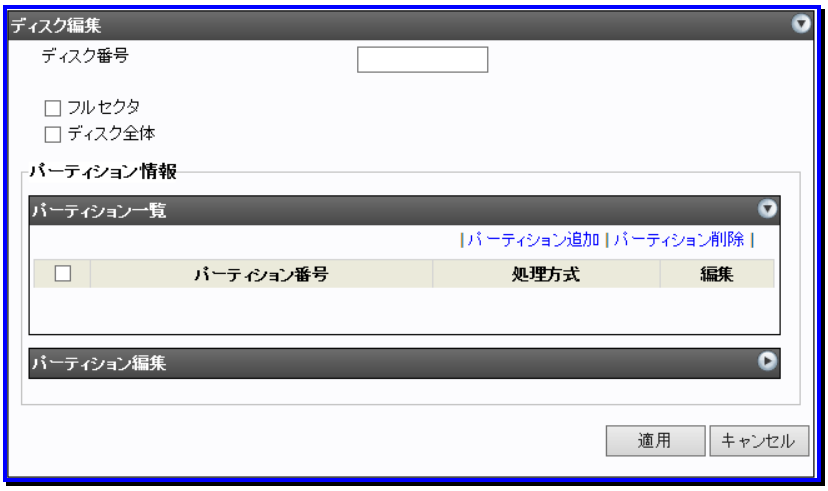
・ 「ファイルの選択」画面
「アクション」リンクの「インポート」をクリックすると、以下の画面が表示されますので、対象となるディスク構成チェック

結果ファイルを選択してください。



ディスク構成チェック結果ファイルを選択して、OKボタンをクリックするとディスク情報がディスク一覧に表示されます。
ディスク構成チェック結果ファイルは、デフォルトで「イメージ格納用フォルダ¥probe¥」にprobe_xxxxxxxxxxxx.logという名前で保存されています。xxxxxxxxxxxxはディスク構成チェックを行った管理対象マシンのMACアドレスです。

・「ディスク編集」画面
「アクション」リンクの「ディスク追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
また、「ディスク一覧」の「編集」の「」アイコンをクリックした場合も、表示されます。



ディスク編集	
ディスク番号(入力必須)	ディスク番号を指定します。本項目の指定については、以下の点に注意してください。(※1) ・必ずディスク構成チェックを行い、「ディスク情報(ディスクビューア)」画面に表示される番号を指定してください。(DPMのバージョンによって、ディスク番号が異なる場合があります。)詳細については、「リファレンスガイドツール編 4.1 ディスク構成チェックツール」を参照してください。 ・半角数字で設定できます。 ・複数のディスク番号を指定する場合は、半角カンマ(,)で区切って指定、または半角ハイフン(-)を使用して範囲を指定してください。 例) 1,3-5,7-9,11
フルセクタ	チェックすると、フルセクタ方式でバックアップを行います。 「フルセクタ」を選択した場合、「ディスク全体」のチェックボックスにチェックが自動的に入ります。その際「適用」をクリックすると、ディスク一覧に「a-f」と表示します。 チェックしない場合は、有効セクタ方式でバックアップします。 「ディスク全体」にチェックして、「フルセクタ」をチェックしない状態で、「適用」をクリックすると、ディスク一覧に「a-v」と表示されます。
ディスク全体	チェックすると、ディスク全体をバックアップ対象とします。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。
パーティション情報	バックアップを行う際の対象となるパーティションの情報を表示します。 デフォルトは空です。 詳細は「・「パーティション情報」画面」を参照してください。
適用	ディスク編集の内容を適用して、ディスク一覧に表示します。
キャンセル	ディスク編集の内容をキャンセルします。 ディスク編集で指定した内容をクリアします。

※1 ■管理対象マシンに接続されたディスクの構成を変更すると、ディスク番号が変わる可能性があります。ディスクの構成変更を行った場合は、ディスク構成チェックを行い、ディスク番号を再確認してください。
■以下のいずれかに該当する場合は、必要なデータが格納されている全ディスク/パーティションをバックアップしてください。全ディスク/パーティションのバックアップ/リストアが完了するまではOSを起動させないように注意してください。なお、シナリオ実行のタイミングでOSが起動しないように、「オプション」タブで、「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」にチェックを入れてください。
・ バックアップ元とリストア先が別のマシンの場合

- OS起動に必要なデータが複数ディスクにまたがって格納されている場合
- OS起動に必要なデータとディスク複製OSインストールに必要なデータ(Windows:sysprep、Linux:/opt/dpmclient)が複数ディスクにまたがって格納されている場合
- システムとして必要なファイル、またはデータが別のHDDに格納されている場合
- 他のドライブをマウントするなど、複数のディスク、複数のパーティションにわたってディスクが連結されているような場合
- ディスク、またはパーティション間でデータ内容の整合性をとる必要がある場合(ダイナミックディスク、LVM1/LVM2など)

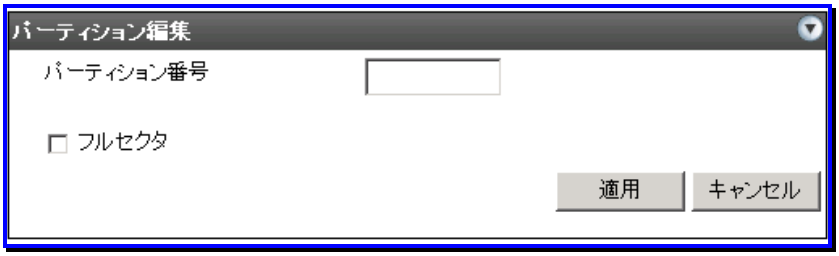
・「パーティション情報」画面
「パーティション情報」に表示される「アクション」リンクは以下の表のとおりです。

パーティション追加	「パーティション編集」画面が表示され、手動でバックアップ対象のパーティション情報を追加できます。 詳細は「・「パーティション編集」画面」を参照してください。
パーティション削除	左端のチェックボックスにチェックが入っているパーティション情報を削除できます。

パーティション情報は、以下のように表示されます。

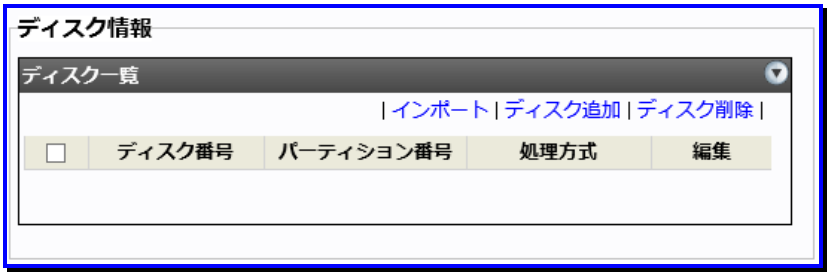
パーティション一覧	バックアップ対象のパーティション情報の一覧を表示します。
パーティション番号	バックアップ対象のパーティション番号を表示します。
処理方式	パーティションの処理方式を表示します。
編集	パーティション情報の編集を行います。 「パーティション編集」画面が表示されます。

・「パーティション編集」画面
「アクション」リンクの「パーティション追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
また、「パーティション一覧」の「編集」の「📖」アイコンをクリックした場合も、表示されます。



パーティション編集		
	パーティション番号 (入力必須)	パーティション番号を指定します。本項目の指定については、以下の点に注意してください。 ・必ずディスク構成チェックを行い、「ディスク情報(ディスクビューア)」画面に表示される番号を指定してください。詳細については「リファレンスガイド ツール編 4.1 ディスク構成チェックツール」を参照してください。 ・「1～1000」の範囲で指定できます。 ・複数のパーティション番号を指定する場合は、半角カンマ(,)で区切って指定、または半角ハイフン(-)を使用して範囲を指定してください。 例) 1,3-5,7-9,11
	フルセクタ	チェックすると、フルセクタ方式でバックアップを行います。 チェックしない場合、有効セクタ方式でバックアップします。 パーティション「1」を指定して、「フルセクタ」をチェックする状態で、「適用」をクリックすると、パーティション一覧に「1-f」と表示します。 パーティション「1」を指定して、「フルセクタ」をチェックしない状態で、「適用」をクリックすると、パーティション一覧に「1-v」と表示します。 ただし実際に有効セクタでバックアップできるかどうかはファイルシステムに依存します。詳細は「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」の「ファイルシステムやディスク形式の対応状況」を参照してください。
	適用	パーティション編集の内容を適用して、パーティション一覧を表示します。
	キャンセル	パーティション編集の内容をキャンセルします。 パーティション編集で指定した内容をクリアします。

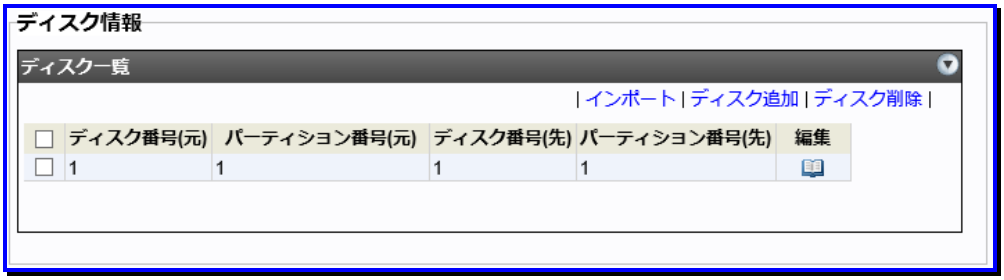
2. リストアシナリオ



「ディスク情報」に表示される「アクション」リンクは以下の表のとおりです。

インポート	「イメージファイル」に指定したバックアップイメージファイルからディスク情報を読み込んで「ディスク一覧」に表示します。
ディスク追加	「ディスク編集」画面が表示され、手動でリストア対象のディスク情報を追加できます。 詳細は「・「ディスク編集」画面」を参照してください。
ディスク削除	左端のチェックボックスにチェックが入っているディスク情報を削除します。

ディスク情報は、以下のように表示されます。



ディスク情報		
	ディスク一覧	リストア対象のディスク情報の一覧を表示します。
	ディスク番号(元)	リストア元のディスク番号を表示します。
	パーティション番号(元)	リストア元のパーティション番号を表示します。 ディスク全体の場合「a」と表示します。
	ディスク番号(先)	リストア先のディスク番号を表示します。 デフォルトは「ディスク番号(元)」の値です。
	パーティション番号(先)	リストア先のパーティション番号を表示します。 ディスク全体の場合「a」と表示します。 デフォルトは「パーティション番号(元)」の値です。
	編集	ディスク情報の編集を行います。 「ディスク編集」画面が表示されます。

・「ディスク編集」画面
「アクション」リンクの「ディスク追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
また、「ディスク一覧」の「編集」の「」アイコンをクリックした場合も、表示されます。

ディスク編集	
ディスク番号(元) **(入力必須)**	リストア元のディスク番号を指定します。指定の際には、以下の点に注意してください。 ・ディスク番号を1つだけ指定できます。 ・半角数字で指定できます。 ・「ディスク番号(元)」と「パーティション番号(元)」はバックアップイメージファイル内に存在するディスク番号とパーティション番号の組み合わせを指定してください。(存在しない場合、シナリオ実行エラーになります。) ・DPM Ver6.5より前に作成したリストアシナリオでディスク情報を編集する場合は、「ディスク番号(元)」の情報が存在しないため「0」になります。正しいディスク番号に変更してください。(※1)
ディスク番号(先) **(入力必須)**	リストア先のディスク番号を指定します。本項目の指定については、以下の点に注意してください。 ・ ディスク番号を1つだけ指定できます。 ・ 半角数字で指定できます。(※1)
ディスク全体	チェックすると、ディスク全体をリストアします。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。
パーティション情報	リストアを行う際の対象となるパーティションの情報を表示します。 デフォルトは空です。 詳細は「・「パーティション情報」画面」を参照してください。
適用	ディスク編集の内容を適用して、ディスク一覧に表示します。 「ディスク番号(先)」と「パーティション番号(先)」の組み合わせが重複した場合は、エラーメッセージが表示されます。
キャンセル	ディスク編集の内容をキャンセルします。 ディスク編集で指定した内容をクリアします。

※1 ■ 管理対象マシンに接続されたディスクの構成を変更すると、ディスク番号が変わる可能性があります。ディスクの構成変更を行った場合は、ディスク構成チェックを行い、ディスク番号を再確認してください。

■ 以下のいずれかに該当する場合は、必要なデータが格納されている全ディスク/パーティションをリストアしてください。全ディスク/パーティションのリストアが完了するまではOSを起動させないように注意してください。なお、シナリオ実行のタイミングでOSが起動しないように、「オプション」タブで、「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」にチェックを入れてください。

・バックアップ元とリストア先が別のマシンの場合

・OS起動に必要なデータが複数ディスクにまたがって格納されている場合

・OS起動に必要なデータとディスク複製OSインストールに必要なデータ(Windows:sysprep、Linux:/opt/dpmclient)が複数ディスクにまたがって格納されている場合

・システムとして必要なファイル、またはデータが別のHDDに格納されている場合

・他のドライブをマウントするなど、複数のディスク、複数のパーティションにわたってディスクが連結されているような場合

・ディスク、またはパーティション間でデータ内容の整合性をとる必要がある場合(ダイナミックディスク、LVM1/LVM2など)

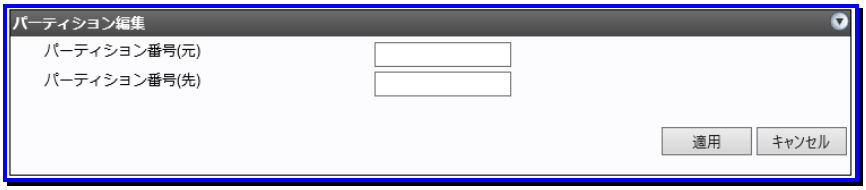
・「パーティション情報」画面
「パーティション情報」に表示される「アクション」リンクは以下の表のとおりです。

パーティション追加	「パーティション編集」画面が表示され、手動でリストア元のパーティション番号とリストア先のパーティション番号を追加できます。 詳細は「・「パーティション編集」画面」を参照してください。
パーティション削除	左端のチェックボックスにチェックが入っているパーティション情報を削除できます。

パーティション情報は、以下のように表示されます。

パーティション一覧	リストア対象のパーティション情報の一覧を表示します。
パーティション番号(元)	リストア元のパーティション番号を表示します。
パーティション番号(先)	リストア先のパーティション番号を表示します。
編集	パーティション情報の編集を行います。 「パーティション編集」画面が表示されます。

・「パーティション編集」画面
「アクション」リンクの「パーティション追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
また、「パーティション一覧」の「編集」の「」アイコンをクリックした場合も、表示されます。



パーティション編集		
	パーティション番号(元) **(入力必須)**	リストア元のパーティション番号を指定します。本項目の指定については、以下の点に注意してください。 ・パーティション番号を1つだけ指定できます。 ・「1～1000」の範囲で設定できます。 ・「ディスク番号(元)」と「パーティション番号(元)」の組み合わせはバックアップイメージファイル内に存在するディスク番号とパーティション番号の組み合わせを指定してください。(存在しない場合、シナリオ実行エラーになります。) ・DPM Ver6.5より前に作成したリストアシナリオでディスク情報を編集する場合は、「パーティション番号(元)」の情報が存在しないため「0」になります。正しいパーティション番号に変更してください。(※1) (※2)
	パーティション番号(先) **(入力必須)**	リストア先のパーティション番号を指定します。 本項目の指定については、以下の点に注意してください。 ・ パーティション番号を1つだけ指定できます。 ・「1～1000」の範囲で設定できます。(※1) (※2)
	適用	パーティション編集の内容を適用して、パーティション一覧に表示します。
	キャンセル	パーティション編集の内容をキャンセルします。 パーティション編集で指定した内容をクリアします。

※1 ■ 管理対象マシンに接続されたディスクの構成を変更すると、ディスク番号が変わる可能性があります。ディスクの構成変更を行った場合は、ディスク構成チェックを行い、ディスク番号を再確認してください。

■ 以下のいずれかに該当する場合は、必要なデータが格納されている全ディスク/パーティションをリストアしてください。全ディスク/パーティションのリストアが完了するまではOSを起動させないように注意してください。なお、シナリオ実行のタイミングでOSが起動しないように、「オプション」タブで、「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」にチェックを入れてください。

・バックアップ元とリストア先が別のマシンの場合

・OS起動に必要なデータが複数ディスクにまたがって格納されている場合

・OS起動に必要なデータとディスク複製OSインストールに必要なデータ(Windows:sysprep、Linux:/opt/dpmclient)が複数ディスクにまたがって格納されている場合

・システムとして必要なファイル、またはデータが別のHDDに格納されている場合

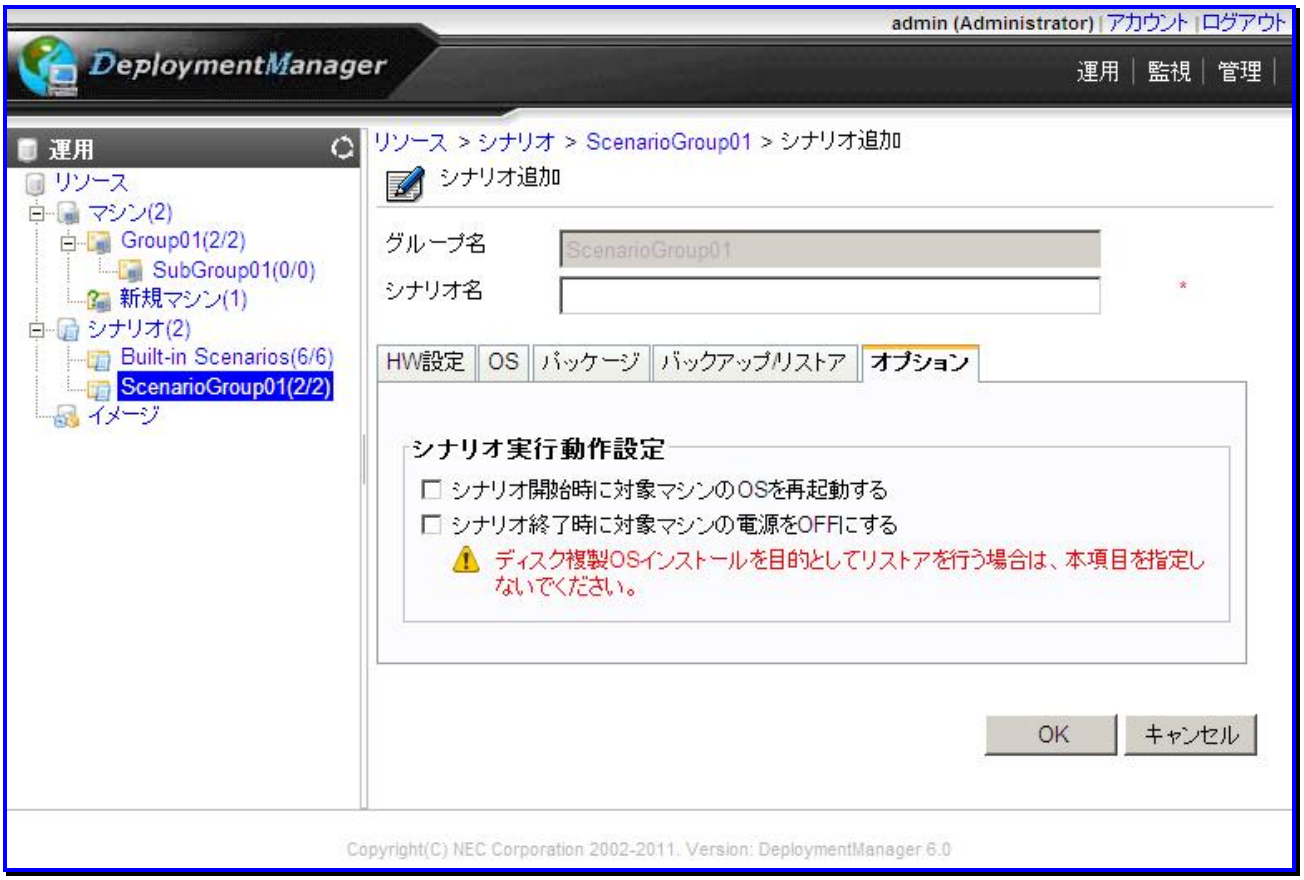
・他のドライブをマウントするなど、複数のディスク、複数のパーティションにわたってディスクが連結されているような場合

・ディスク、またはパーティション間でデータ内容の整合性をとる必要がある場合(ダイナミックディスク、LVM1/LVM2など)

※2 ハードディスクの物理障害/論理障害に対して、バックアップ/リストア機能で復旧できる範囲については、「ファーストステップガイド 2.2.2 バックアップ/リストアについて」の「ハードディスクの物理障害、論理障害に対して、バックアップ/リストア機能で復旧できる範囲について」を参照してください。

3.13.5. 「オプション」タブ

シナリオの「オプション」タブを設定します。
「オプション」タブでは、シナリオ実行の前と後で管理対象マシンの電源の状態をどのようにするかを決めることができます。



オプション			
	シナリオ実行動作設定		
		シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	以下のすべての条件に該当する場合に「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行前に管理対象マシンを再起動します。 ・DPMクライアントを管理対象マシンにインストールしている ・以下のいずれかの機能を使用している - バックアップ - リストア - ディスク構成チェック - OSクリアインストール - BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信
		シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行後に管理対象マシンの電源を切ります。
OK			「シナリオ追加」画面の設定内容でシナリオ追加して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル			「シナリオ追加」画面の設定内容でシナリオ追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

- OSが起動しているマシンに、シナリオを実行する場合は、必ず「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れてください。ただし、リモートアップデート(単独でのサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストール)のシナリオを実行する場合は、OSが起動していても問題ありませんので、「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れる必要はありません。もし、チェックを入れてシナリオ実行を行った場合でもマシンの再起動は行われません。
- Windowsの管理対象マシンの状態が以下の場合は、「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れていてもシャットダウンできません。
  ・ワークステーションロックによりロックされている状態。
  ・パスワード付きスクリーンセーバによりロックされている状態。
  ・リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態。
  ・編集中のファイルや、シャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態。

3.14. シナリオへのメニュー操作

シナリオで使用する操作に関するメニューについて説明します。

3.14.1. シナリオ編集

シナリオを編集します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***編集するシナリオ名***」をクリックします。

(4) 「シナリオ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ編集」をクリックします。

(5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集してください。

また、「シナリオ編集」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、編集するシナリオの「編集アイコン( )」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、各項目を編集してください。

シナリオ編集	
グループ名	シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
シナリオ名	シナリオの名前を表示します。編集はできません。編集したい場合は、再度同じシナリオを作成し、新たにシナリオ名を指定してください。
OK	「シナリオ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

- 各タブの編集については、「3.13.1 「HW設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。

3.14.2. シナリオコピー

シナリオをコピーします。
詳細については、「3.12.7 シナリオコピー」を参照してください。

3.14.3. シナリオ移動

シナリオを移動します。
詳細は、「3.12.6 シナリオ移動」を参照してください。

3.14.4.　シナリオ削除

シナリオを削除します。
詳細は、「3.12.8 シナリオ削除」を参照してください。

3.14.5.　シナリオ割り当て

シナリオを割り当てます。
詳細は、「3.12.9 シナリオ割り当て」を参照してください。

3.15. シナリオの詳細情報

シナリオの詳細情報を表示します。

(1)　Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2)　ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「***シナリオグループ***」アイコンをクリックします。

(3)　「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「***詳細情報を表示するシナリオ名***」をクリックします。

(4)　メインウィンドウに「シナリオ詳細」、「オプション」、「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されます。

シナリオ詳細			
	シナリオ名		シナリオ名を表示します。編集はできません。
	シナリオグループ名		シナリオグループ名を表示します。編集はできません。
	種類		以下のいずれかの種類を表示します。 ・HW設定 ・OSのインストール ・バックアップ ・リストア ・パッケージ ・ディスク構成チェック ここで表示される種類とその設定内容が、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。
	HW設定		「種類」欄に「HW設定」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。 「シナリオ追加」画面-「HW設定」タブで設定したイメージファイル名が表示されます。
	イメージファイル名		イメージファイル名を表示します。
	OSのインストール		「種類」欄に「OSのインストール」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。
		OS名	OS名を表示します。
		OS種別	OS種別を表示します。
		セットアップパラメータファイル	セットアップパラメータファイルを表示します。
	バックアップ		「種類」欄に「バックアップ」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。
		イメージファイル	バックアップシナリオのバックアップイメージファイルを表示します。
		イメージファイルコメント	「備考」欄にコメントを入力した場合は、表示されます。
		隠しパーティションを無視する	隠しパーティションを無視するかどうかを表示します。
		データ圧縮設定	データを圧縮するかどうかを表示します。
		バックアップイメージファイル世代管理数	バックアップイメージファイル世代管理数を表示します。
		ベリファイデータ作成	ベリファイデータ作成をするかどうかを表示します。
		ディスク詳細	
		ディスク番号	ディスク番号を表示します。
		パーティション番号	パーティション番号を表示します。 各パーティションの後ろに処理方式を表示します。「パーティション番号」-「処理方式」という形式で表示されます。 パーティション番号には数字を表示しますが、ディスク全体の場合は「a」を表示します。 処理方式は、有効セクタ方式の場合は「v」を、フルセクタ方式の場合は「f」を表示します。
		処理方式	処理方式を表示します。 ディスク全体の場合、バックアップした時の処理方式を表示します。 パーティション番号を指定する場合、常に「有効セクタ」と表示します。
	リストア		「種類」欄に「リストア」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。
		イメージファイル	リストアシナリオのバックアップイメージファイルを表示します。
		隠しパーティションを無視する	隠しパーティションを無視するかどうかを表示します。
		配信条件設定	「ユニキャストでデータを送信する」、または「マルチキャストでデータを送信する」を表示します。

		最大ターゲット数	最大ターゲット数を表示します。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		最大待ち時間	最大待ち時間を表示します。単位は分です。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		マルチキャストIPアドレス(リストア)	マルチキャストIPアドレスを表示します。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		マルチキャストTTL	マルチキャストTTLの数を表示します。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		最大転送レート	最大転送レートを表示します。単位はMByte/分です。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		ディスク詳細	
		ディスク番号(元)	リストア元のディスク番号を表示します。 DPM Ver6.5より前のバージョンで作成したシナリオを表示する時、この項目は「0」と表示します。
		パーティション番号(元)	リストア元のパーティション番号を表示します。 DPM Ver6.5より前のバージョンで作成したシナリオを表示する時、この項目は「0」と表示します。
		ディスク番号(先)	リストア先のディスク番号を表示します。
		パーティション番号(先)	リストア先のパーティション番号を表示します。
	パッケージ		「種類」欄に「パッケージ」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。
		パッケージ名	サービスパック/HotFix/アプリケーション名を表示します。
		実行タイミング設定	シナリオの実行タイミングを表示します。
		実行後動作設定	パッケージ実行後にDPMクライアントの再起動を行う場合は、表示されます。
		配信条件設定	「ユニキャストでデータを送信する」、または「マルチキャストでデータを送信する」を表示します。
		最大ターゲット数	最大ターゲット数を表示します。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		最大待ち時間	最大待ち時間を表示します。単位は分です。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		マルチキャストIPアドレス(パッケージ)	マルチキャストIPアドレスを表示します。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		マルチキャストTTL	マルチキャストTTLの数を表示します。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
		最大転送レート	最大転送レートを表示します。単位はMByte/分です。 「配信条件設定」欄に「ユニキャストでデータを送信する」が表示されている場合、本項目は表示されません。
オプション			
	シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する		シナリオ実行前に管理対象マシンの再起動を強制実行するかどうかを表示します。
	シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする		シナリオ実行後に管理対象マシンの電源を切るかどうかを表示します。

管理対象マシン一覧		
	表示件数	管理対象マシンの表示件数が選択できます。
	マシン名	シナリオを割り当てている管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。
	IPアドレス	シナリオを割り当てている管理対象マシンのIPアドレスを表示します。
	MACアドレス	シナリオを割り当てている管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	グループ名	シナリオを割り当てている管理対象マシンが登録されているグループ名を表示します。

3.16. 「イメージ」アイコン

「イメージ」アイコンでは、パッケージ、バックアップイメージ、HWイメージ、OSイメージそれぞれのイメージ情報を管理します。
「イメージ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「イメージ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「イメージ」アイコンからアクセスできます。
「イメージ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「検索条件」、「イメージ一覧」グループボックスが表示されます。
画面については、「3.17 イメージの詳細情報」を参照してください。

3.17. イメージの詳細情報

パッケージ、バックアップイメージ、HWイメージ、OSイメージそれぞれのイメージの詳細情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「イメージ」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「検索条件」、「イメージ一覧」グループボックスが表示されます。

検索条件		
	イメージの種類	検索するイメージの種類を選択します。以下から選択できます。 ・All Type ・HWイメージ ・OSイメージ ・パッケージ ・バックアップイメージ デフォルトは、「All Type」です。 「パッケージ」、または「バックアップイメージ」を選択した場合は、それぞれ条件を指定して検索できます。検索できる条件は、「パッケージ」、または「バックアップイメージ」によって以下のとおり異なります。 ・パッケージ 「OS」、「タイプ」、「日付」 ・バックアップイメージ 「日付」、「マシン名」
	OS	OSの種類で検索する場合は、検索するOSの種類を選択します。 デフォルトは、「ALL OS」です。 なお、バックアップイメージは、バックアップイメージ格納用フォルダに保存されているバックアップイメージのみが検索対象となります。 バックアップイメージ格納用フォルダについては、「2.7.1.1 「全般」タブ」を参照してください。
	タイプ	タイプで検索する場合は、パッケージの種類を選択します。以下から選択できます。 ・All Type ・HotFix ・サービスパック ・Linuxパッチ ・アプリケーション デフォルトは、「All Type」です。
	日付	日付で検索する場合は、検索する開始日と終了日を入力します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 ・開始日のみを指定する場合は、開始日以降を検索条件として検索します。 ・終了日のみを指定する場合は、終了日以前を検索条件として検索します。 ・開始日と終了日を指定する場合は、指定した期間内を検索条件として検索します。
	マシン名	マシン名で検索するマシン名を入力します。 入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。
	検索	「検索」ボタンをクリックすると、指定した検索条件によりイメージを検索します。 検索結果は、「イメージ一覧」グループボックスに表示されます。

イメージ一覧		
	表示件数	イメージの表示件数が選択できます。
	イメージ名	イメージ名を表示します。 「パッケージ」、および「バックアップイメージ」は、イメージ名をクリックしてイメージの基本情報が確認できます。 「パッケージ」については、「3.17.1 パッケージイメージの詳細情報」を参照してください。 「バックアップイメージ」については、「3.17.3 バックアップイメージの詳細情報」を参照してください。 「HWイメージ」、および「OSイメージ」は、イメージ名をクリックできません。
	概要	イメージの概要を表示します。
	イメージ種類	イメージの種類を表示します。
	日付	イメージの作成日を表示します。
	適用状況	「イメージ種類」が「パッケージ」の場合は、「適用状況」欄に「>>」が表示されます。 「>>」をクリックすると、「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」画面が表示されます。画面については、「3.17.2 パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」を参照してください。 「イメージ種類」が「パッケージ」以外の場合、「適用状況」欄は、空白です。

3.17.1. パッケージイメージの詳細情報

パッケージイメージの詳細情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。

(3) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「***イメージ名***」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「基本情報」、「適用対象のOS/言語」グループボックスが表示されます。

また、パッケージイメージの詳細情報は、以下の手順でも表示できます。

(1) メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「パッケージ」アイコンをクリックします。

(2) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「***イメージ名***」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「基本情報」、「適用対象のOS/言語」グループボックスが表示されます。

基本情報	
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
概要	パッケージの概要を表示します。
タイプ	パッケージのタイプを表示します。
リリース日付	パッケージのリリース日を表示します。
MS番号	HotFix/サービスパックのMS Q番号、またはKB番号を表示します。
メジャーバージョン	サービスパックのメジャーバージョンを表示します。
マイナーバージョン	サービスパックのマイナーバージョンを表示します。
アプリケーション名	パッケージのアプリケーション名を表示します。
適用対象のOS/言語	
OS名	パッケージ対象のOS名を表示します。
言語	適用対象のOSの言語を表示します。
ベースとなるサービスパック	ベースとなるサービスパック一覧を表示します。
吸収されるサービスパック	吸収されるサービスパック一覧を表示します。

3.17.2. パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)

パッケージの適用状況(管理対象マシン一覧)を表示します。
パッケージ適用状況が表示されるのはWindows OSのパッケージのみです。Linux OSのパッケージは表示されません。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。

(3) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「適用状況」欄の「>>」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「基本情報」、「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」グループボックスが表示されます。

また、パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)は、以下の手順でも表示できます。

(1) メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「パッケージ」アイコンをクリックします。

(2) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「適用状況」欄の「>>」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「基本情報」、「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」グループボックスが表示されます。

パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)		
基本情報		
	パッケージID	パッケージIDを表示します。
	管理対象マシン数	パッケージに関連する管理対象マシン数を表示します。
	適用済み	パッケージが適用された管理対象マシンの数を表示します。
	未適用	パッケージが適用されていない管理対象マシンの数を表示します。
	適用不要	パッケージを適用する必要のない管理対象マシンの数を表示します。
	識別不可	パッケージの適用状況を識別できない管理対象マシンの数を表示します。
パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)		
	表示件数	「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」画面のマシンの表示件数が選択できます。
	グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
	マシン名	管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。
	MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	適用状況	パッケージの適用状況を表示します。 適用状況の詳細については、「3.7.1.2 パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」を参照してください。

注:

- 操作メニューの「CSV形式で保存」をクリックして、パッケージの適用状況をCSVファイルに出力できます。

3.17.3. バックアップイメージの詳細情報

バックアップイメージの詳細情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「イメージ」→「バックアップイメージ」をクリックします。

(3) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「イメージ名」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「イメージの基本情報」、「作成元の基本情報」、「作成元のパッケージ適用情報」グループボックスが表示されます。

イメージの基本情報		
	イメージ名	バックアップイメージの格納先とイメージ名を表示します。
	作成日時	バックアップイメージの作成日時を表示します。
	圧縮有/無	バックアップイメージの圧縮の有無を表示します。
	イメージ種別	バックアップイメージの種別を表示します。 DPM Ver6.31より前に作成したバックアップイメージの場合は「不明」と表示されます。
	ベリファイデータ指定/未指定	バックアップイメージのベリファイデータの有無を表示します。
	隠しパーティションを無視する/しない	バックアップイメージの隠しパーティションを無視するかどうかを表示します。
	バックアップ処理時間	バックアップの実行にかかった時間を表示します。
	イメージファイルの容量	イメージファイルのサイズを表示します。
	製品バージョン(DPMサーバ側)	バックアップイメージを作成したDPMのバージョンを表示します。
ディスク詳細		
	ディスク番号	ディスク番号を表示します。
	パーティション番号	パーティション番号を表示します。 各パーティションの後ろに処理方式を表示します。「パーティション番号」-「処理方式」という形式で表示されます。 パーティション番号には数字を表示しますが、ディスク全体の場合は「a」を表示します。 処理方式は、有効セクタ方式の場合は「v」を、フルセクタ方式の場合は「f」を表示します。
	処理方式	処理方式を表示します。 ディスク全体の場合、バックアップした時の処理方式を表示します。 パーティション番号を指定する場合は、常に「有効セクタ」と表示します。
作成元の基本情報		
	マシン名	バックアップ作成元のマシン名を表示します。
	概要	バックアップイメージのコメントを表示します。
	IPアドレス	バックアップ作成元のマシンのIPアドレスを表示します。
	MACアドレス	バックアップ作成元のマシンのMACアドレスを表示します。
	UUID	バックアップ作成元のマシンのUUIDを表示します。
	OS名	バックアップ作成元のマシンのOS名を表示します。
作成元のパッケージ適用情報		
	表示件数	作成元のパッケージ適用状況(パッケージ一覧)の表示件数が選択できます。
	パッケージ名	パッケージ名を表示します。
	概要	パッケージの概要を表示します。
	タイプ	パッケージのタイプを表示します。

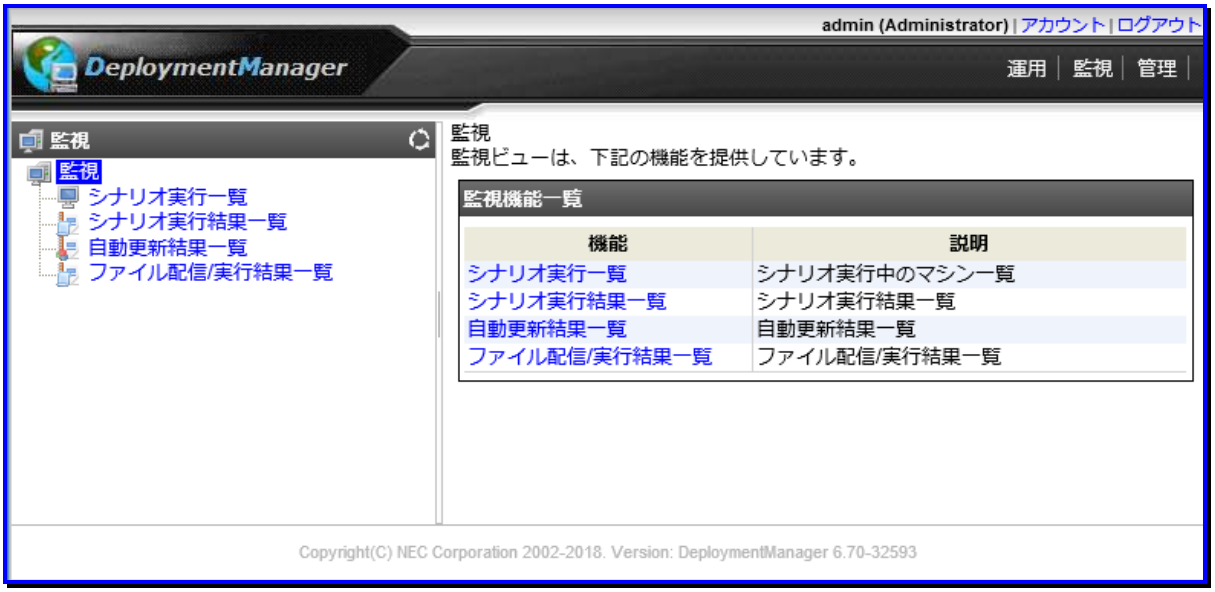
4. 監視

本章では、「監視」ビューで DPM の管理対象マシンの状態やログの参照について説明します。

4.1. 「監視」ビュー

「監視」ビューでは、シナリオ実行状況、自動更新実行状況、ファイル配信状況、ファイル実行状況、ファイル削除状況など、DPMを使用するにあたって必要な情報を監視します。

タイトルバーの「監視」をクリックすると、「監視」ビューに切り替わります。メインウィンドウには「監視機能一覧」グループボックスが表示されます。



4.2. 「シナリオ実行一覧」アイコン

「シナリオ実行一覧」アイコンでは、DPMで実行したシナリオ実行状況一覧の表示、および異常ステータスを一括クリアします。
「シナリオ実行一覧」アイコンは、「監視」ビューのツリービュー上の「シナリオ実行一覧」アイコン、または「監視」ビューのメインウィンドウに表示される「監視機能一覧」グループボックスの「シナリオ実行一覧」からアクセスできます。
「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。

4.3. シナリオ実行一覧

「シナリオ実行一覧」画面は、以下の手順で表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されます。

シナリオ実行一覧	
表示件数	管理対象マシンの表示件数が選択できます。
ステータス	シナリオ実行状態は、以下の3種類から選択し表示できます。 ・全ステータス ・正常ステータス ・異常ステータス 実行中のステータスを確認する場合は、「正常ステータス」を選択してください。 デフォルトは、「全ステータス」です。
マシン名	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。クリックすると、「運用」ビューの「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されます。「管理対象マシン詳細」グループボックスについては、「3.7 管理対象マシン詳細」を参照してください。
IPアドレス	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンのIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報がなかった管理対象マシンは空白で表示されます。
MACアドレス	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
グループ名	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンのグループ名を表示します。グループが階層化されている場合は、シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの親グループ名を表示します。 グループ名をクリックすると、「運用」ビューの「グループ詳細」グループボックスが表示されます。「グループ詳細」グループボックスについては、「3.5 マシングループ詳細」を参照してください。
シナリオ名	シナリオ実行中、および実行完了のシナリオ名を表示します。
状態	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの状態を表示します。(※1)
実行状況	シナリオ実行の進行状況をプログレスバー(0%～100%)で表示します。

	詳細	バックアップ/リストア/ディスク複製OSインストールのシナリオにおいて、バックアップ、またはリストアの進捗状況を確認できる場合は、「詳細」欄に「>>」を表示します。その他のシナリオの場合は、空白です。 「>>」をクリックすると、「バックアップ/リストア実行状況」画面が表示されます。画面については、「4.3.2 バックアップ/リストア実行一覧」を参照してください。

※1 「状態」欄に表示される内容は、以下の表のとおりです。

状態	説明
バックアップ準備中	バックアップ準備中の場合に表示されます。
バックアップ実行待ち	バックアップが実行待ちの場合に表示されます。
バックアップ実行中	バックアップが実行中の場合に表示されます。
バックアップ正常終了	バックアップが正常終了した場合に表示されます。
ベリファイ用データ作成中	バックアップシナリオのベリファイ用データを作成中の場合に表示されます。
バックアップ中止処理中	バックアップの中止処理中の場合に表示されます。
バックアップエラー停止処理中	バックアップのエラー停止処理中の場合に表示されます。
バックアップ中止	ユーザがバックアップを中止した場合に表示されます。
バックアップエラー停止	バックアップがエラーで停止した場合に表示されます。
バックアップ一時停止中	バックアップが一時停止中の場合に表示されます。
リストア準備中	リストアが準備中の場合に表示されます。
リストア実行待ち	リストアが実行待ちの場合に表示されます。
リストア実行中	リストアが実行中の場合に表示されます。
リストア正常終了	リストアが正常終了した場合に表示されます。
リストア中止処理中	リストアが中止処理中の場合に表示されます。
リストアエラー停止処理中	リストアがエラー停止処理中の場合に表示されます。
リストア中止	ユーザがリストアの実行を中止した場合に表示されます。
リストアエラー停止	リストアがエラーで停止した場合に表示されます。
リストア一時停止中	リストアが一時停止中の場合に表示されます。
シナリオ実行中	シナリオ実行中(バックアップ/リストア以外)の場合に表示されます。
シナリオ実行中断	実行中のシナリオが中断された場合に表示されます。
シナリオ実行エラー	シナリオが実行エラーの場合に表示されます。
リモート電源ONエラー	管理対象マシンの電源ONに失敗した場合に表示されます。
実行完了	シナリオ実行が完了した場合に表示されます。

4.3.1. ステータスの一括クリア

DPMで実行したシナリオのステータスを一括クリアします。

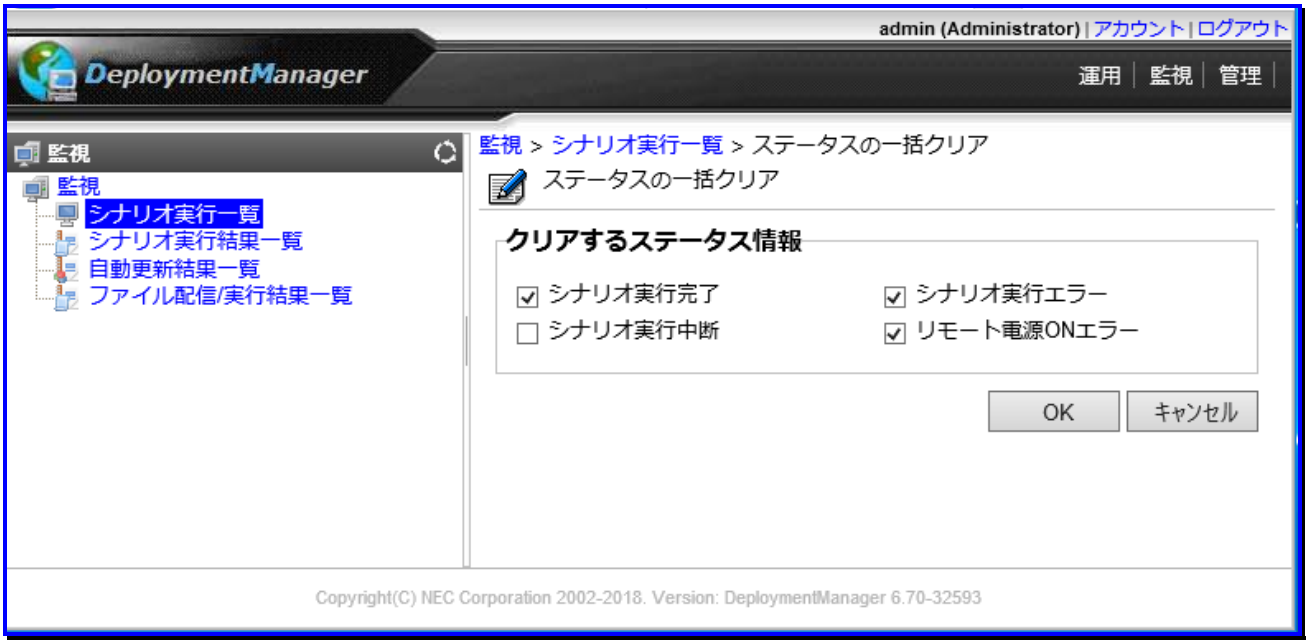
(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。

(3) 「操作」メニューの「ステータスの一括クリア」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、クリアするステータス情報のチェックボックスにチェックを入れます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。



クリアするステータス情報		
	シナリオ実行完了	シナリオ実行が完了したステータスです。
	シナリオ実行中断	シナリオ実行が中断したステータスです。
	シナリオ実行エラー	シナリオ実行エラーのステータスです。
	リモート電源ONエラー	リモート電源ONエラーのステータスです。
OK		チェックを入れたステータスの一括クリアを実行して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		ステータスの一括クリアを実行せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.3.2. バックアップ/リストア実行一覧

バックアップ/リストアのシナリオ実行状況を管理します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。

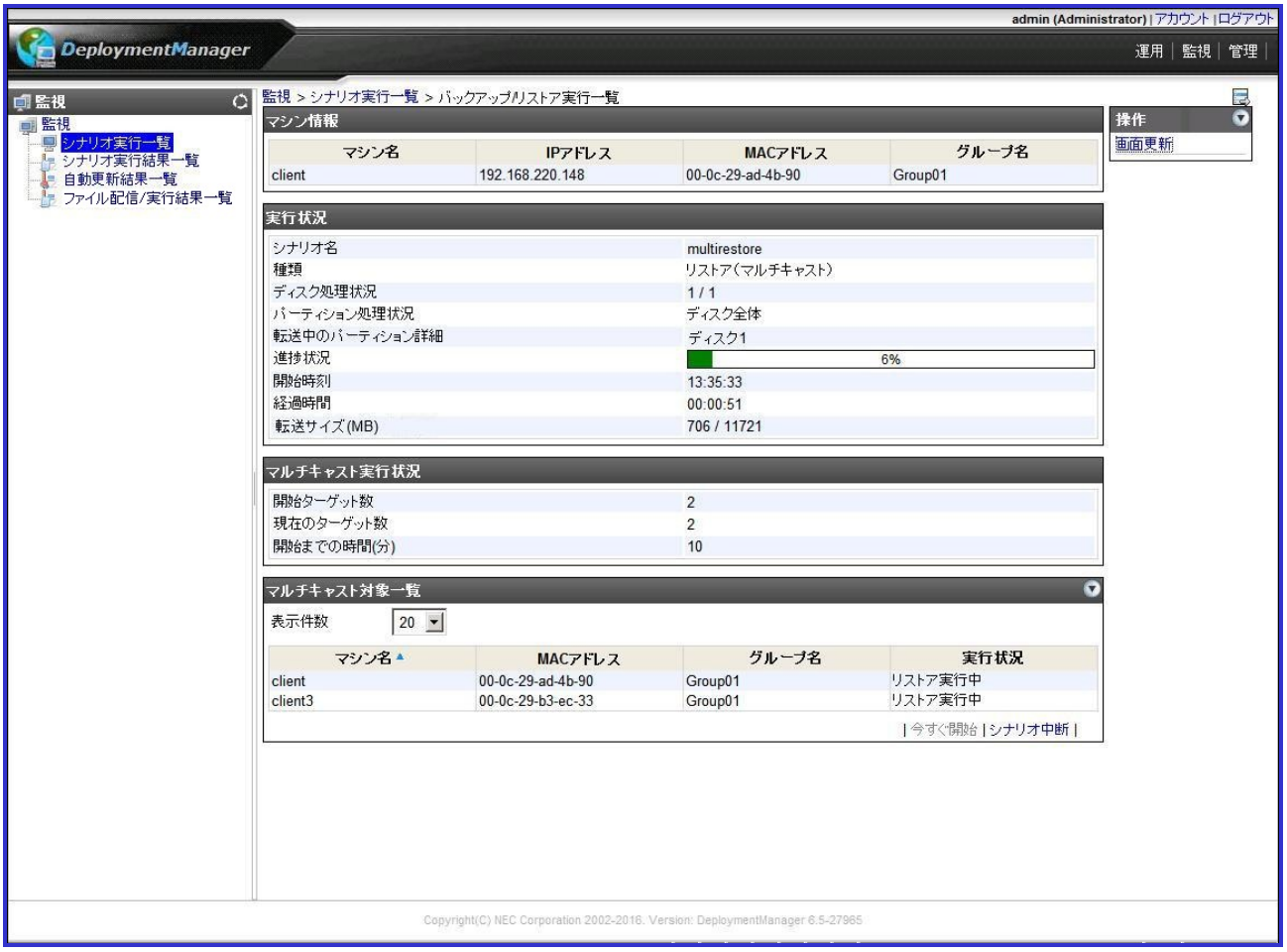
(3) 「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されますので、「詳細」欄の「>>」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されます。
「バックアップ/リストア実行一覧」画面は、ユニキャストでデータを送信した場合と、マルチキャストでデータを送信した場合で表示される画面が異なります。

・ ユニキャストでデータを送信した場合

マシン情報		
	マシン名	管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。
	IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。
	MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
実行状況		
	シナリオ名	シナリオ名を表示します。
	種類	以下のいずれかが表示されます。 ・バックアップ ・リストア(ユニキャスト)
	ディスク処理状況	ディスクの処理状況を表示します。 なお、ベリファイを実施している際は「ベリファイ中」と表示します。
	パーティション処理状況	パーティション処理状況を表示します。 「ディスク全体」を指定する場合、「ディスク全体」と表示します。 ベリファイの時、この項目は表示しません。
	転送中のパーティション詳細	転送中のパーティション詳細を表示します。 ディスク番号やパーティション番号を表示します。 ベリファイの時、この項目は表示しません。
	進捗状況	シナリオの実行進捗状況をディスクごとにプログレスバー(0%～100%)で表示します。 また、ベリファイの進捗状況についても「0%～100%」で表示します。
	開始時刻	シナリオ開始時刻を表示します。
	経過時間	シナリオ実行中の場合は、「実行経過時間」が表示されます。 シナリオ実行が完了した場合は、「終了時間」が表示されます。
	転送サイズ(MB)	転送サイズ(転送済みのサイズ/全体のサイズ)をMByte(MB)単位で、表示します。 なお、ベリファイの際は、表示する文字列が「転送サイズ(MB)」から「ベリファイデータサイズ(MB)」に切り替わり、ベリファイ済みサイズ/全体のサイズが表示されます。

・ マルチキャストでデータを送信した場合



マシン情報		
	マシン名	管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。
	IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。
	MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
実行状況		
	シナリオ名	シナリオ名を表示します。
	種類	「リストア(マルチキャスト)」と表示されます。
	ディスク処理状況	ディスクの処理状況(処理中のディスクのディスク番号/総ディスク数)を表示します。
	パーティション処理状況	パーティション処理状況を表示します。 「ディスク全体」を指定する場合、「ディスク全体」と表示します。 「パーティション番号」を指定する場合、「処理中のパーティション数/該当ディスクのパーティション総数」と表示します。
	転送中のパーティション詳細	転送中のパーティション詳細を表示します。 表示するパーティション詳細はリストア先のパーティション番号です。
	進捗状況	シナリオの実行進捗状況をプログレスバー(0%～100%)で表示します。
	開始時刻	シナリオ開始時刻を表示します。
	経過時間	シナリオ実行中の場合は、「実行経過時間」が表示されます。 シナリオ実行が完了した場合は、「終了時間」が表示されます。

	転送サイズ(MB)	転送サイズ(転送済みのサイズ/全体のサイズ)をMByte(MB)単位で、表示します。
マルチキャスト実行状況		
	開始ターゲット数	シナリオ実行が開始されるまでの管理対象マシンの数を表示します。 設定した数の管理対象マシンのシナリオ実行の準備が整うとシナリオが開始します。
	現在のターゲット数	シナリオ実行の準備ができている管理対象マシンの数を表示します。 この数が「開始ターゲット数」と同じになるか、または「開始までの時間」を過ぎた場合、シナリオ実行が開始されます。
	開始までの時間(分)	シナリオ実行開始までの時間を表示します。1分単位で表示されます。
マルチキャスト対象一覧		
	表示件数	管理対象マシンの表示件数が選択できます。
	マシン名	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの識別名(識別名の指定がない場合は、マシン名)を表示します。
	MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
	実行状況	シナリオの進行状況を表示します。(※1)
	「アクション」リンク	・「今すぐ開始」をクリックすると、該当シナリオが割り当てられているすべてのマシンに対してリストアが開始されます。 ・「シナリオ中断」をクリックすると、該当シナリオが割り当てられているすべてのマシンに対してバックアップ/リストアの実行を中断します。

※1　「実行状況」欄に表示される内容は、以下のとおりです。

実行状況	説明
リストア実行待ち	リストアが実行待ちの場合に表示されます。
リストア実行中	リストアが実行中の場合に表示されます。
リストア正常終了	リストアが正常終了した場合に表示されます。
リストア中止処理中	リストアが中止処理中の場合に表示されます。
リストアエラー停止処理中	リストアがエラー停止処理中の場合に表示されます。
リストア中止	ユーザがリストアの実行を中止した場合に表示されます。
リストアエラー停止	リストアがエラーで停止した場合に表示されます。
リストア一時停止中	リストアが一時停止中の場合に表示されます。

注:

- 最新の実行状況を確認する場合は、「操作」メニューから「画面更新」をクリックし、最新の情報に更新してください。

4.3.3. 今すぐ実行

開始条件を満たしていない状態でもすぐにバックアップ/リストアします。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されますので、「詳細」欄の「>>」をクリックします。

(4) 「シナリオ実行一覧」画面が表示されますので、「操作」メニューの「今すぐ開始」をクリックします。

(5) 開始条件を満たしていない状態のバックアップ/リストアをすぐに開始します。

注:

- 「開始条件を満たしていない」とは、実行準備が完了した管理対象マシンが、最大ターゲット数に満たないか、最初にリストアを実行した管理対象マシンの実行時間が最大待ち時間になっていない状態を指します。
- 実行準備が完了した管理対象マシンは「バックアップ/リストア実行一覧」の実行状況が「実行待ち」になります。

4.3.4. シナリオ中断

バックアップ/リストア時にシナリオを中断します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されますので、「詳細」欄の「>>」をクリックします。

(4) 「シナリオ実行一覧」画面が表示されますので、「アクション」リンクの「シナリオ中断」をクリックします。

注:

- シナリオ実行中断を行った管理対象マシンは、実行中のシナリオが中断された後、PXE ブートするタイミングで電源 OFF されます。
- 同時実行可能台数を超えた管理対象マシンにシナリオ実行を行っている場合は、タイミングによっては、管理対象マシンで実行処理を開始した後にシナリオ実行中断処理が行われる可能性があります。
- 「シナリオ中断」を何度もクリックすると、「シナリオ実行結果一覧」にクリックした回数分だけ「実行中断」のログが表示されます。

4.4. 「シナリオ実行結果一覧」アイコン

「シナリオ実行結果一覧」アイコンでは、DPMで実行したシナリオ実行結果一覧を表示します。
「シナリオ実行結果一覧」アイコンは、「監視」ビューのツリービュー上の「シナリオ実行結果一覧」アイコン、または「監視」ビューのメインウィンドウに表示される「監視機能一覧」グループボックスの「シナリオ実行結果一覧」からアクセスできます。
「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ実行結果一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「4.5 シナリオ実行結果一覧の詳細」を参照してください。

4.5. シナリオ実行結果一覧の詳細

「シナリオ実行結果一覧」画面は、以下の手順で表示します。
「シナリオ実行結果一覧」では、各項目(「種類」、「日時」、「MACアドレス」、「シナリオ名」、「マシン名」、「IPアドレス」)でソートして表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行結果一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「基本情報」、「シナリオ実行結果一覧」グループボックスが表示されます。

基本情報	
シナリオ実行ログ数	シナリオ実行したログの数を表示します。 ここで表示される数のログを以下の「シナリオ実行結果一覧」グループボックスで確認できます。
シナリオ実行結果一覧	
表示件数	シナリオ実行ログの表示件数が選択できます。
種類	シナリオ実行状態を表示します。(※1)
日時	シナリオ実行日時を表示します。
シナリオ名	シナリオ名を表示します。
マシン名	管理対象マシンのマシン名を表示します。 なお、DPM Ver6.0より前のバージョンからアップグレードインストールした場合には、アップグレード前に実行したシナリオ実行結果にはマシン名が表示されません。
IPアドレス	IPアドレスを表示します。 なお、DPM Ver6.0より前のバージョンからアップグレードインストールした場合には、アップグレード前に実行したシナリオ実行結果にはIPアドレスが表示されません。
MACアドレス	シナリオ実行した管理対象マシンのMACアドレスを表示します。 MACアドレスをクリックすると、「運用ビュー」の「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されます。 「管理対象マシン詳細」グループボックスについては、「3.7 管理対象マシン詳細」を参照してください。

※1　表示されるシナリオ実行結果一覧の状態は、次の種類があります。

種類	説明
実行中断	シナリオ実行が中断した場合に表示されます。
タイムアウト中断	「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「シナリオ」タブで設定したタイムアウト時間を越えた場合に表示されます。 「ハードウェアの設定」、または「Linuxインストール」のシナリオ実行の場合のみに「タイムアウト中断」を表示します。
実行開始	シナリオ実行が開始された場合に表示されます。
実行完了	シナリオ実行が完了した場合に表示されます。
エラー発生	シナリオ実行中にエラーが発生した場合に表示されます。

注:

- シナリオ実行エラーの場合は、エラー解除してください。エラー解除については、「3.8.8 エラー解除」を参照してください。

4.5.1. CSV 形式で保存

シナリオの実行結果をCSV形式で保存します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行結果一覧」をクリックします。

(3) 「シナリオ実行結果一覧」アイコンに対する「操作」メニューが表示されますので、「CSV形式で保存」をクリックします。

(4) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてファイルを保存してください。

「ファイルのダウンロード」画面が表示されない場合は、ブラウザのセキュリティの設定を確認してください。
Internet Explorerの「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択し、「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」の「このゾーンのセキュリティレベル」の「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、以下の設定にしてください。
・「ダウンロード」-「ファイルのダウンロード」を「有効にする」に設定する。

4.5.2. ログの削除

ログファイルを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行結果一覧」をクリックします。

(3) 「シナリオ実行結果一覧」アイコンに対する「操作」メニューが表示されますので、「操作」メニューから「ログの削除」をクリックします。

(4) 「OK」ボタンをクリックします。

注:

- シナリオ実行結果のログファイルは、以下のフォルダに格納されます。また、ログファイルは削除されるまで制限なく増え続けます。
  デフォルト:C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥DataFile¥LogFile¥SnrReport
  ログについては、「リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編 付録 E DPMが出力するログ」を参照してください。

4.6. 「自動更新結果一覧」アイコン

「自動更新結果一覧」アイコンでは、DPMで実行した自動更新結果一覧を表示します。
「自動更新結果一覧」アイコンは、「監視」ビューのツリービュー上の「自動更新結果一覧」アイコン、または「監視」ビューのメインウィンドウに表示される「監視機能一覧」グループボックスの「自動更新結果一覧」からアクセスできます。
「自動更新結果一覧」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「自動更新結果一覧」グループボックスが表示されます。
画面については、「4.7 自動更新結果一覧の詳細」を参照してください。

4.7. 自動更新結果一覧の詳細

「自動更新結果一覧」画面は、以下の手順で表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「自動更新結果一覧」グループボックスが表示されます。

基本情報	
自動更新ログ数	自動更新ログ数を表示します。
自動更新結果	
表示件数	自動更新ログの表示件数が選択できます。
種類	自動更新ログの種類を表示します。(※1)
日時	自動更新日時を表示します。
マシン名	自動更新のマシン(管理対象マシンのマシン名)を表示します。
MACアドレス	自動更新対象のマシンのMACアドレスを表示します。
詳細	「 」をクリックすると、「自動更新結果の詳細表示」画面が表示されます。

※1　表示される自動更新結果一覧の種類は、次の種類があります。

種類	説明
更新完了	自動更新に成功した場合に表示します。
更新警告	自動更新実行前チェックにより、実行条件を満たしていない場合に表示します。実行条件を満たしていない場合とは、最大自動更新クライアント台数を超える場合やシナリオ実行中などがあります。
更新エラー	ファイル転送エラーや適用するパッケージの検索に失敗するなど、自動更新中にエラーが発生した場合に表示します。
通知完了	自動更新通知に成功した場合に表示します。
通知エラー	通信エラーなどにより、自動更新通知中にエラーが発生した場合に表示します。
時間設定完了	自動更新時間の設定に成功した場合に表示されます。
時間設定警告	管理対象マシンとの接続に失敗した場合や通信に失敗した場合などにより、自動更新時間の設定に失敗した時に表示します。

注:

■ 自動更新エラーの場合は、再実行するか、またはDPMクライアントを再起動して対処してください。

4.7.1.　自動更新結果の詳細表示

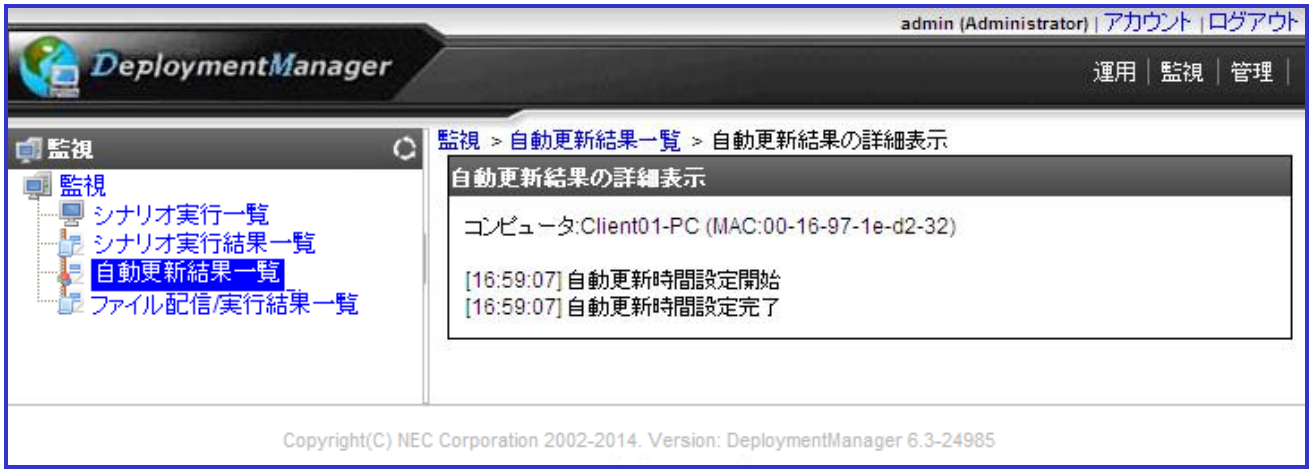
自動更新結果の詳細情報を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「自動更新結果一覧」グループボックスが表示されますので、自動更新結果を確認する管理対象マシンの「詳細アイコン( )」をクリックします。

(4) メインウィンドウに自動更新結果の詳細表示が表示されます。



注:

■ 「自動更新結果」グループボックスの「詳細アイコン( )」をクリックして表示される「自動更新結果の詳細表示」画面は、DPM インストールフォルダ
(デフォルト:C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥DataFile¥LogFile¥AuReport)に、自動更新結果(xx-xx-xx-xx-xx-xx.rpt」)が存在する場合のみ表示します。

4.7.2. 最大ログ数設定

自動更新に関する最大出力件数を設定します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。

(3) 「自動更新結果一覧」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「最大ログ数」をクリックします。

(4) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、最大ログ数を設定します。

最大ログ数設定	
最大ログ数(1-100000)(入力必須)	自動更新に関する最大出力ログの件数を設定します。 「1～100000」までの範囲で設定できます。 デフォルトは、「10000」です。
OK	「最大ログ数設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「最大ログ数設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

- 指定した最大ログ数だけ画面に表示します。
- 最大ログ数を 10000 以内に設定した場合は、最大ログ数を超えると古いログから順に削除されます。最大ログ数を 10000 より大きいに設定した場合は、最大ログ数を超えると古いログから 10%が削除されます。
- 最大ログ数を前の設定値より小さく設定すると、ログの一部が削除される可能性があります。
- 最大ログ数は管理する管理対象マシン数によって変更してください。
- 最大ログ数は「管理対象マシン数」以上に設定することを推奨します。
  例えば、100台の管理対象マシンを管理する場合は、最大ログ数を100以上に設定すれば、全管理対象マシンの更新の自動更新結果を確認することができます。

4.7.3. CSV 形式で保存

自動更新の実行結果、および詳細情報をCSV形式で保存します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。

(3) 「自動更新結果一覧」画面が表示されますので、「操作」メニューの「CSV 形式で保存」をクリックします。

(4) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてファイルを保存してください。

注:

- 「ファイルのダウンロード」画面が表示されない場合は、ブラウザのセキュリティの設定を確認してください。
  設定については、「4.5.1 CSV形式で保存」を参照してください。

4.7.4. ログの削除

自動更新結果のログファイルを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。

(3) 「自動更新結果一覧」画面が表示されますので、「操作」メニューの「ログの削除」をクリックします。

(4) 「OK」ボタンをクリックします。

注:

- 自動更新結果のログファイルは、以下のフォルダに格納されます。
  デフォルト:C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥DataFile¥LogFile¥AuReport
  ログについては、「リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編 付録E DPMが出力するログ」を参照してください。

4.8. 「ファイル配信/実行結果一覧」アイコン

「ファイル配信/実行結果一覧」アイコンでは、DPMで実行したファイル配信、ファイル実行およびファイル削除の結果一覧を表示します。
「ファイル配信/実行結果一覧」アイコンは、「監視」ビューのツリービュー上の「ファイル配信/実行結果一覧」アイコン、または「監視」ビューのメインウィンドウに表示される「監視機能一覧」グループボックスの「ファイル配信/実行結果一覧」からアクセスできます。
「ファイル配信/実行結果一覧」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ファイル配信/実行結果一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「4.9 ファイル配信/実行結果一覧の詳細」を参照してください。

4.9. ファイル配信/実行結果一覧の詳細

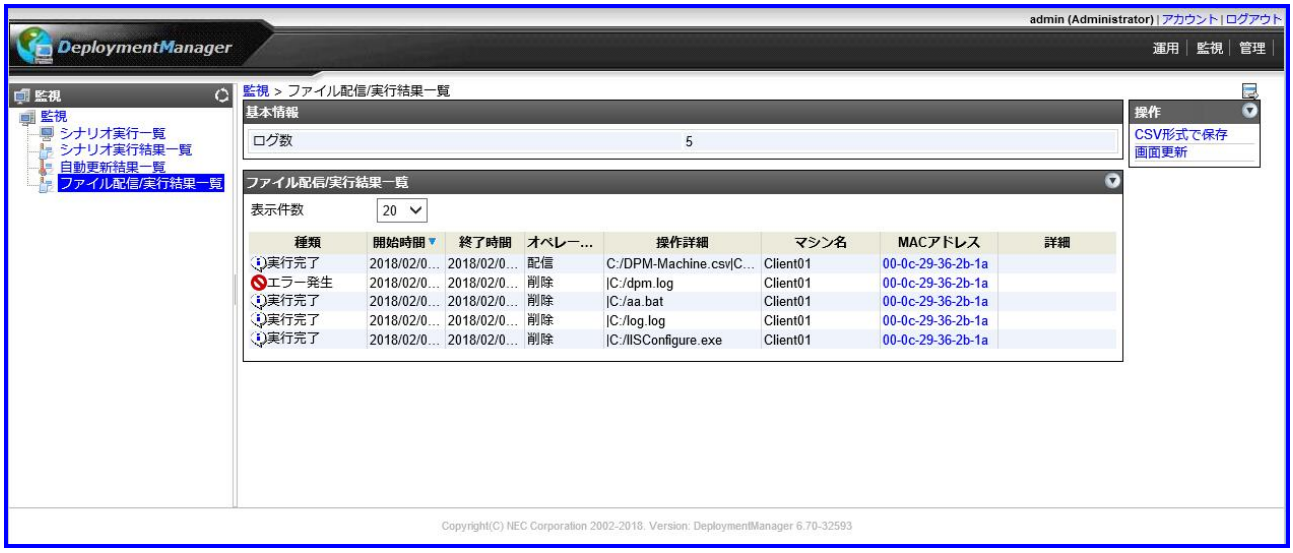
「ファイル配信/実行結果一覧」画面は、以下の手順で表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

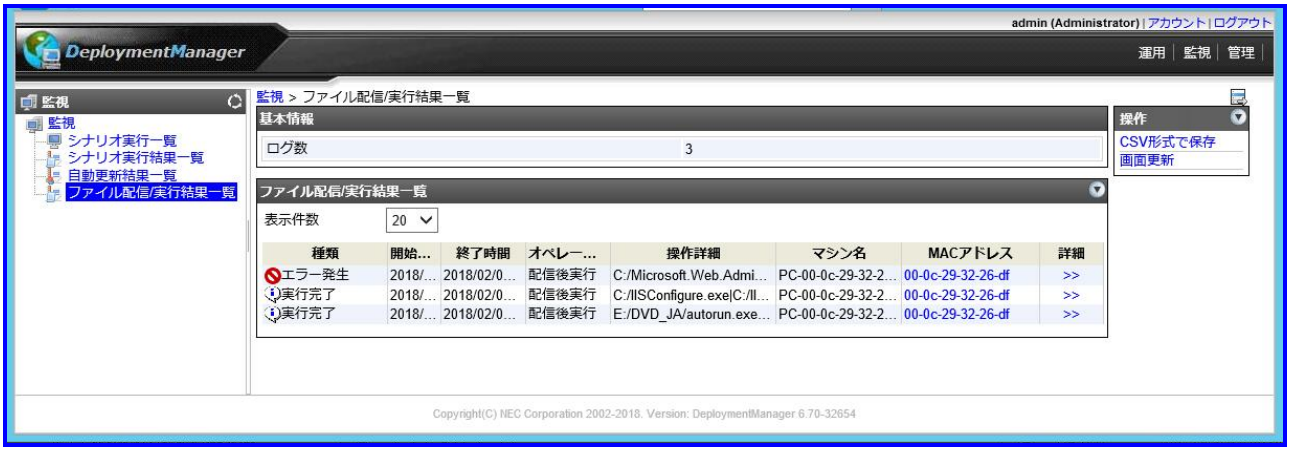
(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「ファイル配信/実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ファイル配信/実行結果一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「ファイル配信/実行結果一覧」グループボックスが表示されます。

ファイル配信、またはファイル削除を行った場合



ファイル配信後実行、またはファイル実行を行った場合



基本情報	
ログ数	ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、およびファイル削除のログ数を表示します。
ファイル配信/実行結果一覧	
表示件数	ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、およびファイル削除のログの表示件数が選択できます。
種類	ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、およびファイル削除の結果を表示します。 ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、またはファイル削除が完了すると、「実行完了」と表示されます。ファイル配信中、ファイル実行中、またはファイル削除中にエラーが発生した場合は、「エラー発生」と表示されます。
開始時間	ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、またはファイル削除の開始時間を表示します。
終了時間	ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、またはファイル削除の終了時間を表示します。
オペレーションタイプ	操作の種類を表示します。 ファイル配信を行った場合は、「配信」と表示されます。 ファイル配信後実行を行った場合は、「配信後実行」と表示されます。 ファイル実行を行った場合は、「実行」と表示されます。 ファイル削除を行った場合は、「削除」と表示されます。
操作詳細	操作の詳細を表示します。 ファイル配信またはファイル配信後実行を行った場合は、配信元と配信先のファイルパスを表示します。 ファイル実行を行った場合は、実行したファイルのファイルパスを表示します。 ファイル削除を行った場合は、削除したファイルのファイルパスを表示します。
マシン名	ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、またはファイル削除対象の管理対象マシンのマシン名を表示します。
MACアドレス	ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、またはファイル削除対象の管理対象マシンのMACアドレスを表示します。 クリックすると、「運用」ビューの「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されます。「管理対象マシン詳細」グループボックスについては、「3.7 管理対象マシン詳細」を参照してください。

	詳細	ファイル配信後実行、またはファイル実行を行った場合に表示されます。ファイル配信後実行およびファイル実行の結果については、「詳細」の「>>」をクリックして表示できます。詳細については「4.9.2 ファイル配信後実行、ファイル実行の詳細」を参照してください。

注:

- ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、およびファイル削除のログ数は最大10000です。最大ログ数を超えると古いログから順に10%が削除されます。

4.9.1. CSV 形式で保存

ファイル配信、ファイル配信後実行、ファイル実行、およびファイル削除の実行結果をCSV形式で保存します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「ファイル配信/実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ファイル配信/実行結果一覧」をクリックします。

(3) 「ファイル配信/実行結果一覧」画面が表示されますので、「操作」メニューの「CSV 形式で保存」をクリックします。

(4) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてファイルを保存してください。

注:

- 「ファイルのダウンロード」画面が表示されない場合は、ブラウザのセキュリティの設定を確認してください。設定については、「4.5.1 CSV形式で保存」を参照してください。

4.9.2. ファイル配信後実行、ファイル実行の詳細

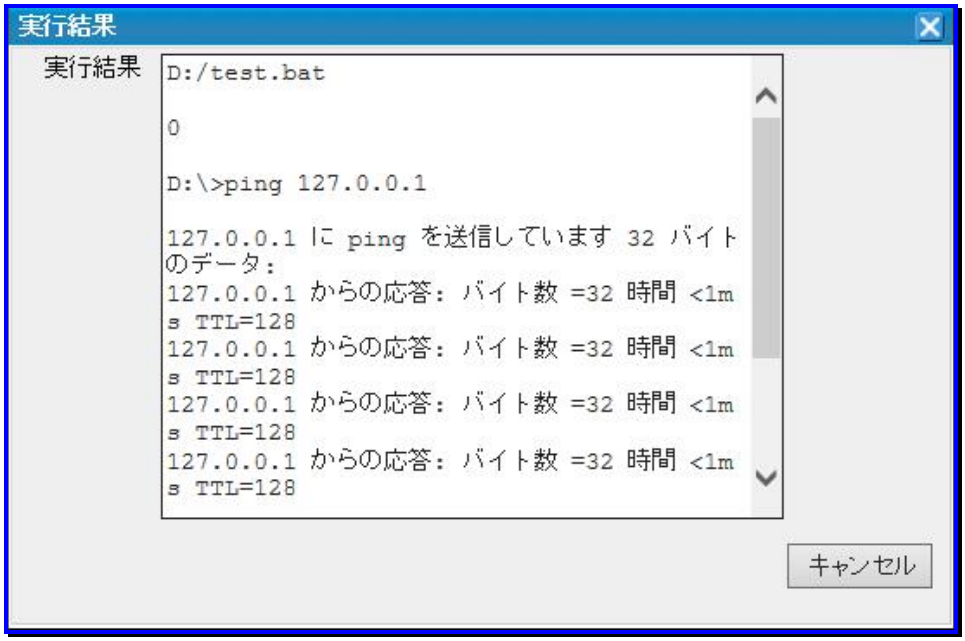
ファイル配信後実行、およびファイル実行の実行結果を確認できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「ファイル配信/実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ファイル配信/実行結果一覧」をクリックします。

(3) 「ファイル配信/実行結果一覧」画面が表示されますので、「オペレーションタイプ」が「配信後実行」または「実行」の場合は、「詳細」の「>>」をクリックします。

(4) 以下のダイアログボックスが表示され、実行結果を確認できます。



付録 A　改版履歴

◆ 第 1 版(Rev.001) (2019.04)：新規作成

Copyright © NEC Corporation 2002-2019. All rights reserved.

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。
本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。
本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
本書に記載の URL、および URL に掲載されている内容は、参照時には変更されている可能性があります。
日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。
日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標および著作権

・SigmaSystemCenter、WebSAM、Netvisor、iStorage、ESMPRO、EXPRESSBUILDER、SIGMABLADEは日本電気株式会社の登録商標です。
・本書に記載されているその他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。
商標および著作権の詳細は「ファーストステップガイド 商標および著作権」を参照してください。